

講 義 概 要

2023年度



慈 恵 看 護 専 門 学 校

講 義 概 要
2 0 2 3 年 度

目 次

I.	教育理念・目的・目標	5
II.	教育計画	11
III.	科目の構成	15
IV.	学科進度	19
V.	学年別講義要綱	21
	1年次	23
	基礎分野科目	25
	専門基礎分野科目	37
	専門分野科目	55
	2年次	75
	専門基礎分野科目	77
	専門分野科目	83
	3年次（72期生）	119
	基礎分野科目	121
	専門基礎分野科目	122
	専門分野科目	124
	臨地実習	135
	専門分野科目	137

I. 教育理念・目的・目標

1. 教育理念・目的・目標

教育理念

本校は、明治18年 創始者高木兼寛がナイチンゲール看護婦学校に範を得て、「つねに人びとの幸を願いそのために献身する」という慈恵の精神に基づき、看護教育を開始した、わが国最初の看護師教育機関です。以後、一貫して社会に貢献できる看護実践者を育成しています。

教育にあたっては、専門職として必要な知識・技術を身につけ、教育所開設当初より大切にしてきた、品位、礼儀、辞讓、温かな態度で対象である人間を尊重した看護を実践できる看護師を育成します。慈恵の看護教育を受けた看護師は、社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健福祉分野に貢献できる専門職として人々の健康に寄与します。

教育目的

慈恵の精神に則り看護に関する専門教育を行い、人間性の涵養につとめ社会に貢献できる有能な看護師を育成することを目的とする。

教育目標

1. 人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う。
2. あらゆる人々の健康状態に対応した看護を実践する基礎的能力を養う。
3. 保健・医療・福祉を総合的に理解し、看護の主体性を発揮する能力を養う。
4. 豊かな人間性を養い、社会人として良識ある態度が形成できる。
5. 専門職業人として看護を探究する姿勢を養う。

2. 主要概念の定義

慈恵の看護専門学校は、**看護、人間、健康、環境**を次のように捉えます。

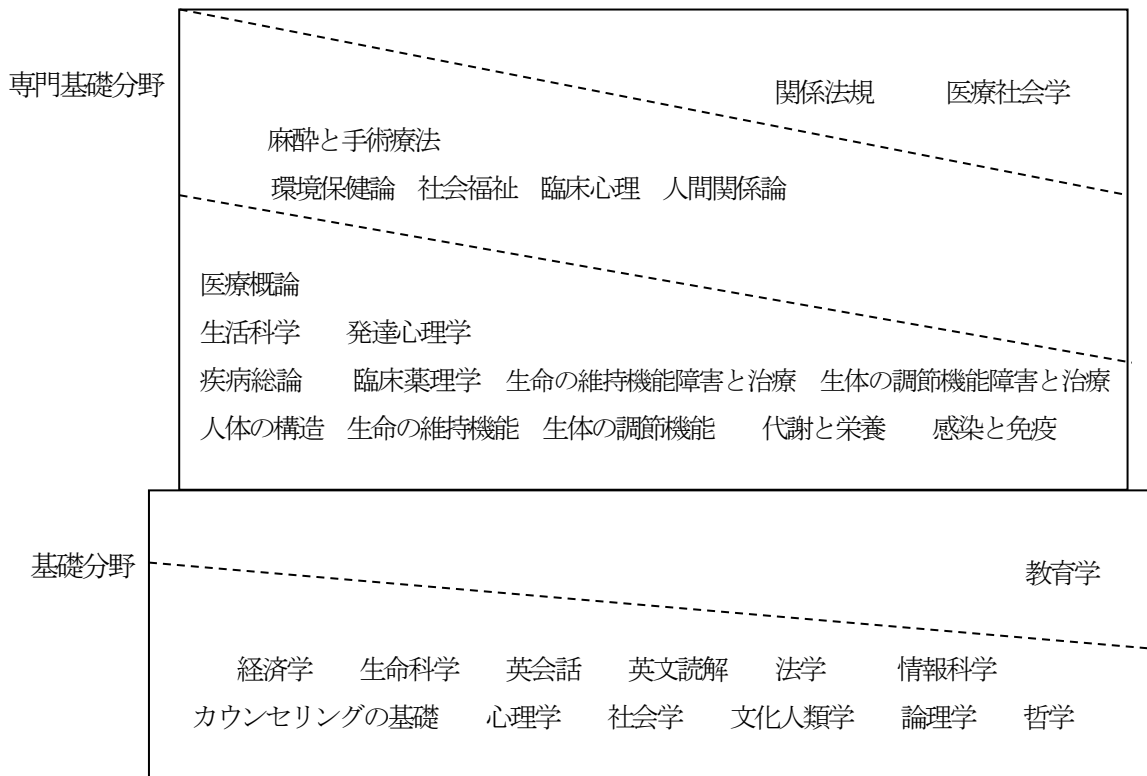
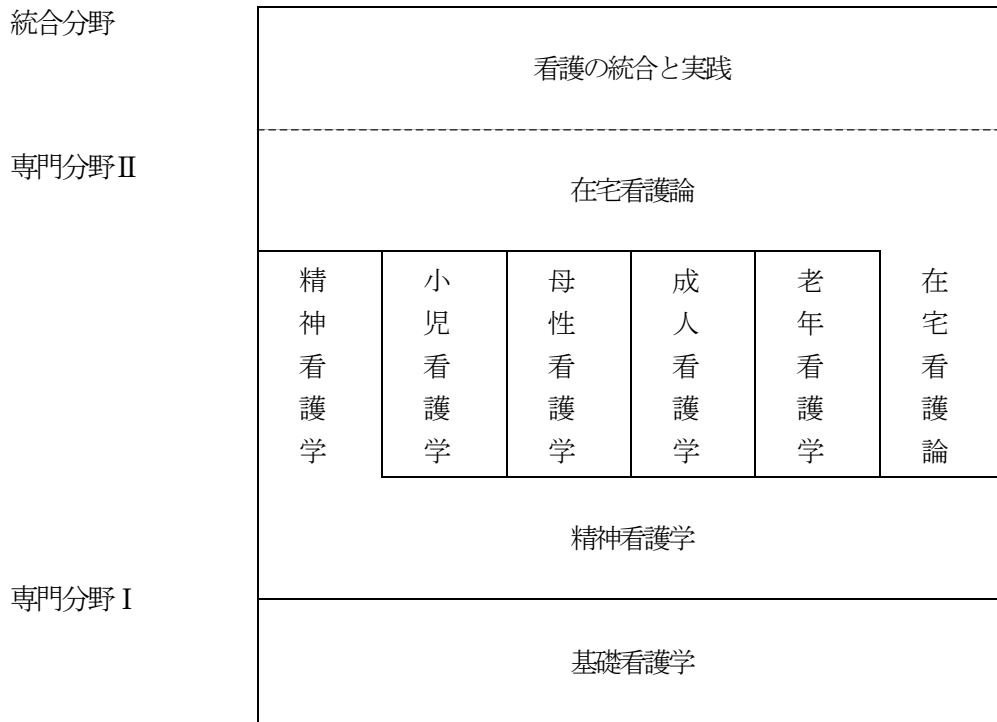
看護とは、「その人の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである」というナイチンゲールの提唱する看護に基づき、あらゆる人びとの成長と発達、健康の状態に応じて、自立を助け、その人らしく日常生活が営めるように援助する活動です。看護は、人間関係を基盤とし、その対象に応じて教育的機能や相談・支持的機能、支援的機能、調整的機能をもちます。

人間とは、基本的人権を有し尊重される存在です。人間は受精から死ぬまでの生命現象をもち、身体的・精神的・社会的・霊的に統合され、成長しつづける存在です。




健康とは、身体的・精神的・社会的に調和がとれている状態です。健康は、基本的権利の一つであり、個人のQOLに影響を与えるものです。健康のありようは流動的かつ連続的なもので、個人の価値観に基づいて自らが創り出していくものです。

環境は、人間を取り巻くすべてのものをさし、つねに相互に関連しあい、人間の成長・発達や、健康に影響を及ぼしています。人間もまた、その環境の一部です。

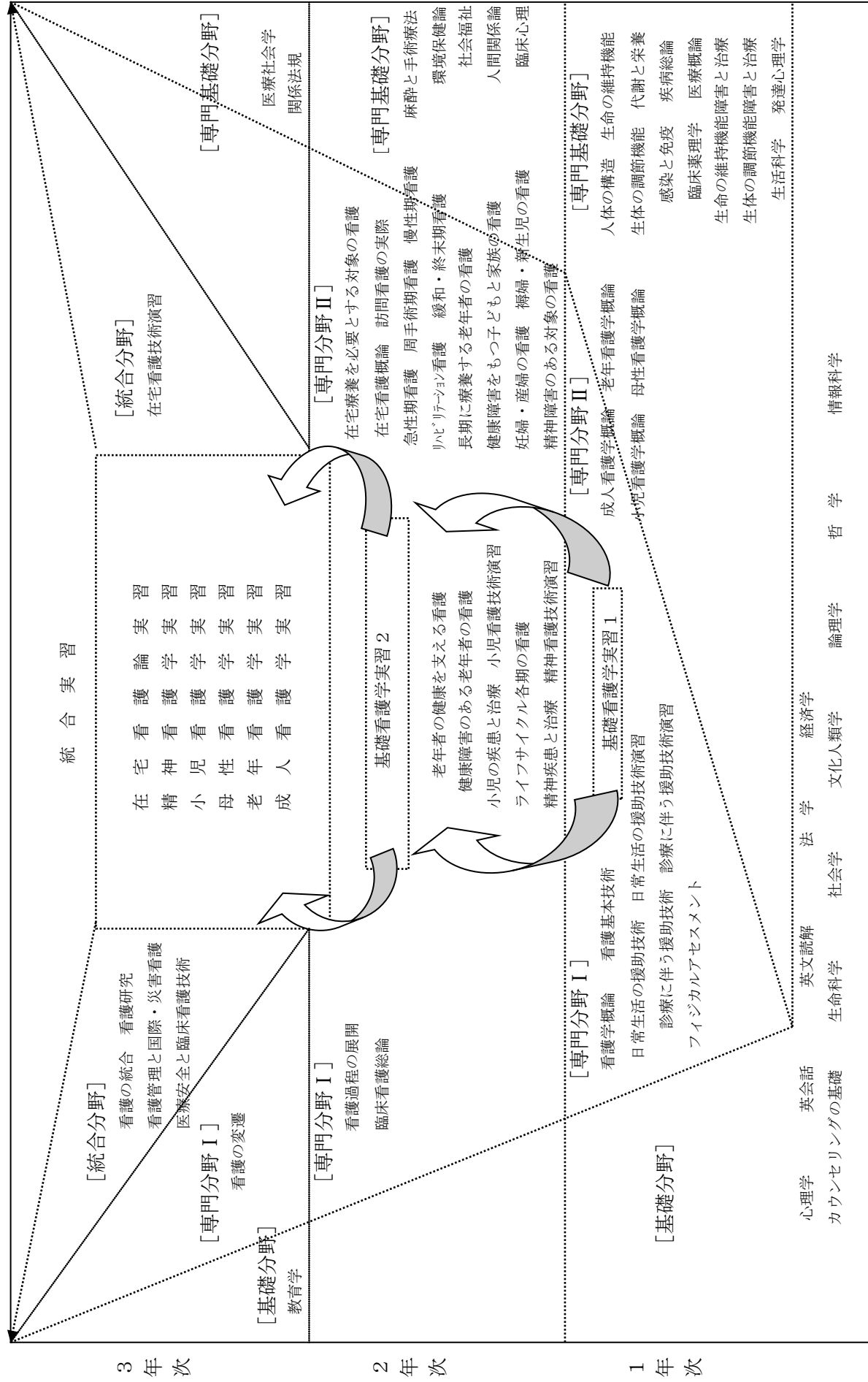
3. カリキュラム構造図



カリキュラム構造図 本校の考え方

- ・「基礎分野」は、「専門基礎分野」を学ぶための基礎であり、「専門分野」「統合分野」の基礎となる科目群である。
看護の対象である人間と生活、および人間を取り巻く社会の仕組みなどを理解できるようにすること、また看護職としてのコミュニケーション能力を高め、論理的な思考力を身に付けること、情報社会に対応できるようにすることを意図している。
 - ・「専門基礎分野」は、人間の身体の構造や機能を系統的に学び、臨地で担当する健康を障害された対象に起きている病態、症状や治療のあり方について理解するとともに、人々の保健医療福祉に関連する基本的な概念をについて学習する科目群で、看護を実践するために必要な専門知識を身に付けることを意図している。
 - ・「基礎看護学」は専門分野の一領域であり、「専門分野Ⅱ」、「統合分野」の土台となる領域でもある。専門分野Ⅰとして位置付けられたので、専門分野である領域別看護学の『土台』と考える。
 - ・「精神看護学」は、専門分野Ⅱの一領域として独立するが、他の領域看護学全体に関連のある分野であると考えて、その関係性を示すためL字型で表現した。
 - ・「在宅看護論」は、統合分野の位置付けであるとともに、専門分野Ⅱの一領域でもあると考えて独立して位置付けた。それを示すための表現をした。
 - ・「統合分野」は、「専門分野Ⅰ」、「専門分野Ⅱ」だけでなく、「基礎分野」、「専門基礎分野」の学習も踏まえて達成される分野である。
 - ・「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」および「統合分野」には、それぞれ臨地実習が含まれる。
- * 矢印 () は、それぞれの分野の学びと相互に関連することを示す。
- * 実線 () は、独立した分野、科目を示す。
- * 点線 () は、関連性があることを示す。

4. 各分野科目構成図



II. 教育計画

教育計画

	1 年 次		2 年 次		3 年 次	
学年目標	① 新しい環境に適応し、主体的に学習する習慣を身につける ② 自己をみつめ、良い人間関係を保つ ③ 「看護」「人間」「環境」「健康」について関心を持ち、概念を理解する ④ 看護に共通する基本となる技術を習得する		① 看護の対象・役割について理解を深める ② 個性を考慮した看護の必要性が分かり、実践に繋げることができる ③ 広く知識を深め、自己のあり方を考え、自己啓発に努める ④ 看護を学ぶ者として、責任ある行動がとれる		① 対象に応じた看護が実践できる ② 看護の本質を追求し、看護の学びを深める ③ 保健・医療・福祉における看護の役割を理解する ④ 社会人としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる	
主な行事予定	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 入学時ガイダンス 健康診断 スポーツ大会 実技試験 終講試験 	<ul style="list-style-type: none"> 戴帽式 キャンドルサービス 終講試験 実技試験 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断 スポーツ大会 終講試験 	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学 キャンドルサービス 終講試験 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断 スポーツ大会 	<ul style="list-style-type: none"> 学外セミナー 看護学生看護研究学会 施設見学 キャンドルサービス 終講試験 看護観発表 国家試験 卒業式
基礎分野	<ul style="list-style-type: none"> 心理学 論理学 社会学 生命科学 英会話 哲学 情報科学 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの基礎 法学 経済学 文化人類学 英文読解 				<ul style="list-style-type: none"> 教育学
専門基礎分野	<ul style="list-style-type: none"> 人体の構造 生命の維持機能 生体の調節機能 感染と免疫 代謝と栄養 医療概論 	<ul style="list-style-type: none"> 発達心理学 疾病総論 臨床薬理学 生命の維持機能障害と治療 生体の調節機能障害と治療 生活科学 	<ul style="list-style-type: none"> 麻酔と手術療法 環境保健論 臨床心理 社会福祉 人間関係論 		<ul style="list-style-type: none"> 医療社会学 	<ul style="list-style-type: none"> 関係法規
専門分野Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 看護学概論 看護基本技術 日常生活の援助技術 日常生活の援助技術演習（実技） 基礎看護学実習1（看護見学実習1） 	<ul style="list-style-type: none"> 診療に伴う援助技術 診療に伴う援助技術演習（実技） フィジカルアセスメント 基礎看護学実習1（看護見学実習2） 基礎看護学実習1 	<ul style="list-style-type: none"> 看護過程の展開 臨床看護総論 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎看護学実習2 	<ul style="list-style-type: none"> 看護の変遷 	
専門分野Ⅱ		<ul style="list-style-type: none"> 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期看護 周手術期看護 慢性期看護 リハビリテーション看護 緩和・終末期看護 老年者の健康を支える看護 健康障害のある老年者の看護 長期に療養する老年者の看護 小児の疾患と治療 健康障害をもつ子供と家族の看護 ライフサイクル各期の看護 妊娠・産婦の看護 精神看護学概論 精神疾患と治療 精神障害のある対象の看護 	<ul style="list-style-type: none"> 小児看護技術演習 褥婦・新生児の看護 精神看護技術演習 	<ul style="list-style-type: none"> 成人看護学実習2 老年看護学実習2 母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習 	
統合分野			<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護概論 訪問看護の実際 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅療養を必要とする対象の看護 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護技術演習 看護研究 看護の統合 在宅看護論実習 	<ul style="list-style-type: none"> 医療安全と臨床看護技術 看護管理と国際・災害看護
科目数 単位数	36科目／38単位		32科目／37単位		15科目／22単位	
	計 83科目／97単位					

Ⅲ. 科目の構成

科目の構成

	科目名	単位数	時間数
基礎分野	カウンセリングの基礎	1	30
	心理学	1	30
	論理学	1	30
	社会学	1	30
	生命科学	1	30
	哲学	1	30
	法学	1	15
	経済学	1	30
	文化人類学	1	30
	英会話	1	30
	英文読解	1	30
	情報科学	1	30
	教育学	1	30
小計		13	375
専門基礎分野	人体の構造	1	30
	生命の維持機能	2	30
	生体の調節機能	2	30
	代謝と栄養	1	30
	発達心理学	1	30
	医療概論	1	30
	感染と免疫	1	30
	疾病総論	1	30
	臨床薬理学	1	30
	生命の維持機能障害と治療	1	30
	生体の調節機能障害と治療	1	30
	麻酔と手術療法	1	30
	医療社会学	1	15
	生活科学	1	15
	環境保健論	1	30
	臨床心理	1	15
	人間関係論	1	15
社会福祉	1	30	
関係法規	1	15	
小計		21	495

	科目名	講義		実習		
		単位数	時間数	単位数	時間数	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30		
		看護基本技術	1	30		
		日常生活の援助技術	1	30		
		診療に伴う援助技術	1	30		
		日常生活の援助技術演習	1	45		
		診療に伴う援助技術演習	1	45		
		フィジカルアセスメント	1	15		
		看護過程の展開	1	30		
		臨床看護総論	1	30		
		看護の変遷	1	30		
		基礎看護学実習 1			1	45
		基礎看護学実習 2			2	90
小計		10	315	3	135	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30		
		急性期看護	1	30		
		周手術期看護	1	30		
		慢性期看護	1	30		
		リハビリテーション看護	1	30		
		緩和・終末期看護	1	30		
		成人看護学実習 1			3	135
		成人看護学実習 2			3	135
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		
		老年者の健康を支える看護	1	30		
		健康障害のある老年者の看護	1	30		
		長期に療養する老年者の看護	1	30	2	90
		老年看護学実習 1			2	90
		老年看護学実習 2				
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		
		小児の疾患と治療	1	15		
		健康障害をもつ子どもと家族の看護	1	30		
		小児看護技術演習	1	15		
		小児看護学実習			2	90
	母性看護学	母性看護学概論	1	15		
		ライフサイクル各期の看護	1	15		
		妊婦・産婦の看護	1	30		
		褥婦・新生児の看護	1	30		
		母性看護学実習			2	90
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		
		精神疾患と治療	1	15		
		精神障害のある対象の看護	1	30		
		精神看護技術演習	1	15		
		精神看護学実習			2	90
	小計		22	570	16	720

		科目名	講義		実習	
			単位数	時間数	単位数	時間数
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	15		
		訪問看護の実際	1	30		
		在宅療養を必要とする対象の看護	1	30		
		在宅看護技術演習	1	15		
		在宅看護論実習			2	90
	看護の統合と実践	看護管理と国際・災害看護	1	30		
		医療安全と臨床看護技術	1	30		
		看護研究	1	30		
		看護の統合	1	30		
		統合実習			2	90
		小計	8	210	4	180
		総計	74	1965	23	1035

IV. 学科進度

V. 学年別講義要綱

1 年次

基礎分野科目

専門基礎分野科目

専門分野科目

2 年次

基礎分野科目

専門基礎分野科目

専門分野科目

統合分野科目

3 年次 (72 期生)

基礎分野科目

専門基礎分野科目

専門分野科目

統合分野科目

臨地実習

1 年次

カウンセリングの基礎		単 位 数	1	時 間 数	30
1年次 9月開講～2月終講					
担当講師 村上志保					
科目目標 1. 人間関係成立におけるコミュニケーションの意義と方法が理解できる。 2. 看護におけるコミュニケーションの意義が理解でき、実践につなげられる。 3. カウンセリングを活かしたコミュニケーションの実際を学ぶ。					
講義内容					看護ふれあい学講座
	1. 看護者の神話とコミュニケーションにおこりやすいずれ 看護ふれあい学（ゴードンメソッド）とは				1・2章
	2. よりよい人間関係を築くもっとも重要な法則（行動の四角形と 問題所有の原則）				3・4章
	3. 心の声を引き出す能動的な聞き方				5・6章
	4. 能動的な聞き方の実例とその効果ロールプレイによる実習				7章
	5. 出産・誕生時のかかわり 患者のはげしい否定的感情に出会う時				8・9章
	6. 患者のインフォームド・チョイスの援助 認知症患者への対応				10・11章
	7. 死と向き合う人への援助、能動的聞き方を正しく行うには				12・13章
	8. 率直な自己表現とは（わたしを主語に語る） 自分の人生を主役になって生きる人の特徴				14章
	9. 肯定のわたしメッセージでよいところ探し、返事のわたしメッセージ で断る演習				15章
	10. 看護者にも受け入れられないことがある 患者の心に届く話し方と切りかえ				16章
	11. 対決のわたしメッセージと価値観に影響を与えるわたしメッセージ の実例とロールプレイによる実習				16・20章
	12. 環境を改善する、発達障害について考える				17章
	13. 勝者も敗者もない対立の解決法とブレイン・ストーミング 幼児にも可能な第三法（虐待の予防）、生きた看護の再構築				18章
	14. 患者どうしのトラブルをどう解決するか				19章
	15. 価値観の対立をどう解くか				20章
使用テキスト 看護ふれあい学講座 近藤千恵監修 中井喜美子著 照林社					
評価方法 1. 授業中に行う実習の成果（ミニレポート、対応の実習後 提出指示） 2. 終講試験（記述式：内容理解と提示された課題の論述） 3. 出席状況					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

<h1>心理学</h1>	単 位 数	1	時 間 数	30
1年次 4月開講～9月終講				
担当講師 木立静津子 沼田世里				
科目目標 人間の心と行動について学び、自分自身と他者を理解する。				
講義内容	<p>心理学を「専門」とする職は、災害や事件・事故の際にメディアで取り上げられたり、スクールカウンセラーとして学校の中に導入されたりしています。そのため、心理学=カウンセリングと思っている人が少なくないかもしれません。</p> <p>しかし、そもそも心理学は、人間の思考・感情・行動を科学的な方法で解明しようとしてきた学問です。そして、人間の<こころ>を理解しようとする過程で得た知見が、医療・福祉・教育・司法などさまざまな分野で役立つことを目指しています。</p> <p>本講義では、人間の<こころ>の働きについて、基礎的な理論を、身近なことからとりあげながら共に考えていきます。</p> <p>また、看護に活かす心理学として、随時、アサーションに関するエクササイズを紹介します。アサーションとは、状況に応じてさわやかに自己表現をすることをいいます。</p> <p>エクササイズを通して、自分を理解し大切にすることを体験します。それは他者を理解し大切にすること、さらに人間を大切にすることに通じます。</p> <p>講義の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <こころ>のありか 2. 自我と自己/自己意識 3. 感覚・知覚・認知 4. 記憶 5. 言語/思考 6. 感情 7. 動機づけ 8. 葛藤・フラストレーション/ストレスとコーピング/適応 9. 学習 10. パーソナリティー I 知能 11. パーソナリティー II 性格 12. 発達 13. 社会行動 14. 心理臨床 			
使用テキスト 田中一彦・長田久雄編 新体系看護学 心理学 メヂカルフレンド社 随時、必要な資料を配布し、参考文献を紹介します。				
評価方法 終講試験と課題提出によって総合的に評価します。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

<h1>論理学</h1>	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 松林陽子				
科目目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における論理の重要性を認識する。 2. 論理的に正確に明瞭に、話す力・書く力を習得する。 3. 目的に応じて、適切な情報を得たり、相手の言動の意味を考えたりして、解釈・判断する力を養う。 				
講義内容	<p>相手の発言に耳を傾け、考えや論拠、感情を理解しようとすることや、賛否両論の立場からじっくり考え、評価しようとすることは、看護においてのみならず、日常生活においても必要な態度といえるでしょう。本講義では、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を通して、論理的に考え、評価し、発信する力を身につけることを目指していききたいと思います。</p> <p>論理学オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理の定義および重要性 2. 看護における論理的思考の重要性 <p>論理的な言語表現</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正確・明瞭な話し方（相手意識・場面意識・目的意識） 2. 正確・明瞭な書き方（表記・表現） 3. 論理的な文章の構造・展開 <p>論理的に話したり、書いたりする実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文学的文章をめぐって 2. 説明的文章をめぐって 3. 看護における状況を設定した文章をめぐって 			
使用テキスト なし。配布するプリントを綴じるファイルを準備してください。 参考文献 「それゆけ論理さん」 仲島ひとみ 野矢茂樹 監修 筑摩書房 「クリティカル進化論 『OL 進化論』で学ぶ思考の技法」 道田泰司・宮元博章 北大路書房 「新版 日本語の作文技術」 本田勝一 朝日文庫 「看護におけるクリティカルシンキング教育」 楠見 孝・津波古澄子 医学書院				
評価方法 テスト・授業での取り組み・出席状況				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

社会学	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 石黒史郎				
科目目標 家族・地域社会・職場などの生活の場を通して社会的存在としての人間を理解する。				
講義内容	<p>たとえば、あなたの家族や身近な人が入院したばあいを想像してほしい。そのことは、多かれ少なかれあなたの生活に影響をあたえるのではないだろうか。また、われわれがけがや病気で病院へ行くとき、ふだんの仕事や生活を一時的に中断する必要があるのがふつうである。つまり、病院をおとずれる人、そこで一定期間を過ごす人の生活や人間関係は、病院にとどまらないひろがりをもっているのである。</p> <p>これは、患者だけでなく看護師などの医療関係者についても同様で、そうした人たちにも、やはり病院外での生活がある。講義では、このように病院をとりかこむ「ふだんの生活」と医療との関わりを確認した上で、現在のわたしたちの「ふだんの生活」の特徴、そのなかで患者や看護師なども深く関わってくる家族の現状について説明していく。わたしたちがあたりまえだと思っているような家族のありかたも、じっさいには歴史や社会によって大きく変化してきている。説明の際には、現在の家族を自明視しない研究を蓄積してきた家族社会学の視点を基本にしなが、統計資料、歴史・民俗資料、映像資料などをその補助に使用する。講義は毎回配布するレジュメにそってすすめ、教科書はとくに指定しない。講義中には、各回のテーマに関する質問を設定してグループワークを行い、たびたび発言をもとめるので、はずかしがらず、ふてくさらず参加すること。講義の各回のテーマは以下のとおり。</p> <p>第1回 ふだんの生活と医療化 第2回 ふだんの生活と医療のさかいめ 第3回 職住分離と複数の生活の場 第4回 現代の生活のなかの「役割」 第5回 公的な場面での役割と、私的な場面での役割 第6回 「ふつう」を支える家事の変遷 第7回 性別役割分業とケア役割 第8回 見学実習の感想から 第9回 子育て、こどもの位置づけの変化 第10回 若者の自立と親子関係 第11回 結婚の変化と現代の結婚難 第12回 産児調整の普及とこどもの数の変化 第13回 現代的な問題としての優生思想 第14回 現代の地域生活 第15回 今後の人口と医療</p>			
使用テキスト 参考図書 西野理子・米村千代 編著 『よくわかる家族社会学』 ミネルヴァ書房 2019 年				
評価方法 終講試験（100 点満点）による。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

生命科学	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 山田陽子				
科目目標 生きものとしての人間（ヒト）が、他の生物とどこまでが同じで、どこが異なるのか。 それを知るためには生命の誕生からヒトにいたる進化の歴史と、その産物としての細胞と人体の基本的な仕組みを知らなければならない。 それによって人間の生命のかけがえのない尊さを知ってほしい。				
講義内容	生物学の分野から生命科学の基礎を学ぶ。 1) 遺伝子は DNA 2) DNA の構造 3) 遺伝子からタンパク質へ 4) 遺伝子の発現 5) 遺伝 について解説し、生物あるいは生命の仕組みについて考える。			
使用テキスト ブルーバックス B1673 カラー図解アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学 D.Sadava 他著 石崎泰樹・丸山 敬監訳 講談社参考文献				
評価方法 終講試験により評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

英会話	単 位 数	1	時 間 数	30
1年次 4月開講～9月終講				
担当講師 白戸朝子				
科目目標 1. 看護に関する英語の文献を読み、基礎的な英文読解力をつける。 2. 語彙・文法・会話表現などの英語の知識を習得する。				
講義内容	<p>近年日本では外国人労働者や旅行者などが増加しており、医療の場においても、日本語を母語としない人々とかかわることが多くなると考えられます。英語を母語とする人たちばかりではありませんが、英語がコミュニケーションの助けになることは大いにあるでしょう。</p> <p>本講義は、看護師にとって実際に役に立つ英語を身につけることを目標に、学習を進めていきます。教科書の他、配布プリントや視聴覚教材も利用しながら会話練習等を行い、物怖じせずに英語で会話できるように訓練していきます。看護に関する英語特有の表現や語彙などの知識を増やすとともに、相手に自分の意思を伝えることのできる英語が身につくよう練習していく予定です。特に発音練習に関しては重点的に行います。</p> <p>より高いコミュニケーション能力を身につけるために、異文化に接する際にどのような態度をとるべきか、ということも考察しながら進めていく予定です。</p> <p>講義に際しては自発的・積極的な参加態度が望まれます。また、辞書は毎回忘れずに持参してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: English pronunciation 2. Requests 3. Assessing patients 4. Personal details and body parts 5. Pain and other symptoms 6. Symptoms and injuries 7. Giving instructions 8. Vital signs 1 9. Vital signs 2 10. Vital signs 3 11. Successful communication and pain assessment 1 12. Pain assessment 2 13. Pain assessment 3 14. Wound management 15. Roundup 			
使用テキスト Ros Wright / Maria S. Symonds 著 English for Nursing 2 (Pearson) 辞書を必ず持参すること。				
評価方法 終講試験の結果と平常点を総合的に評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

哲学	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 福山隆夫 伊野 連				
科目目標 人間の存在、価値観、ものの見方を理解する。				
講義内容	<p>「哲学は〈驚き〉とともに始まる」。これは、アリストテレスの言葉です。</p> <p>私たちは日常生活において、何の疑いも持たずに生きています。ところがあるとき、自分が当然だと思っていたことが当然ではないことに「気づき」ます。そのときに、哲学は始まるのです。みなさんもこれまで生きてきて「挫折」をしたことがあるでしょう。そういうときに、自分のこれまでの過ごし方、あるいは、生きてきた道を振り返ることがあります。そこに哲学は始まります。このような「挫折」は、未来にもつながっているのです。一見するとなぜこんなことが問題になるのかという疑問もわいてくると思います。ですが、みなさんが自分の経験に照らして、検証することが大事なのです。それは、みなさんがこれから進む道において、「挫折」に負けることなく、再び立ち上がり生きていく力になるのです。</p> <p>ですから、本講義では、忙しい勉強の中で、一度先人の考えに浸ってみることが大事なのではないかと考えております。</p> <p>だいたい3段階に分けて考えていきたいと思えます。</p> <p>この「哲学」の講義では、①このような「気づき」がどういった意味をもっていたかを、具体的な哲学者の言葉を紹介し、検討しながら考えていきたいと思っております。例えば、古代においてソクラテスが「汝自身を知れ」というデルフォイの神殿に書かれていた言葉を取り上げ、自らの哲学を展開しました。これが哲学の基本になるでしょう。そこから本講義は始めることにします。そして、この言葉が行き着いた道を探ります。それが、プラトン、アリストテレスへとつながっていきました。</p> <p>続いて、②近代哲学の中で、バコン、デカルト、カントを取り上げます。これらの人たちは、近代、すなわち私たちが生きている時代の初頭において、この時代の新しい、もはや後には戻れない時代であることを受け入れ、この新しさを理論的に定着させようとしてきました。</p> <p>そして、③倫理学の歴史（徳の倫理、義務論、功利主義）、さらに今私たちが生きている 21 世紀において、1960 年代から問題になり始め、大きく取り上げられるようになった「生命倫理」の問題について簡単にお話しし、一緒に考えていきたいと思えます。</p>			
使用テキスト 伊野 連 「哲学・倫理学の歴史」三恵社 伊野 連 「生命の倫理 入門編」三恵社				
学習上の注意 ①ノートをきちんと作成しましょう。ノートのチェックとアドバイスも実施します。 ②大事な用語を「キーワード」としていくつかあげられるようにします。したがって、このキーワードを中心に自分のノートをまとめましょう。 ③教科書は常に手元においておきましょう。				
評価方法 成績評価は、出席重視。また、最後に行うテストの結果で判断します。 なお、このテストは、ノート・プリント・参考書の持ち込み可です。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

法学	単 位 数	1	時 間 数	15
1 年次 10 月開講～2 月終講				
担当講師 小澤隆一				
科目目標 日本国憲法の形成と発展過程の概要を知る。 日本国憲法と社会生活を営むうえで関連する法律についてその目的と意義を学ぶ。				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法とは何か <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の生活と法 2) 権利と義務 3) 法と倫理 2. 日本国憲法とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 近代立憲主義とは一大日本帝国憲法と日本国憲法 2) 日本国憲法の成立過程 3) 日本国憲法の原理（その1）—平和主義 4) 日本国憲法の原理（その2）—国民主権と権力分立 5) 日本国憲法の原理（その3）—基本的人権の尊重 3. 現代日本における法の状況 <ol style="list-style-type: none"> 1) 民事法 2) 刑事法 3) 行政法 4) 司法の役割など 4. まとめ 医療者として法を学ぶ意義 			
使用テキスト 小澤隆一編「クローズアップ憲法」（法律文化社） 参考文献 野崎和義、柳井圭子「看護のための法学」第2版（ミネルヴァ書房）				
学習上の注意 毎日のニュースに関心を持ち、新聞（特に第1面）に目を通してください。				
評価方法 終講試験と出席、課題レポートなどにより総合的に評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

経済学	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 9月開講～2月終講				
担当講師 萩原伸次郎				
科目目標 経済学の理論を学び、経済学的な考え方に立って、年金、医療などの経済問題について考える基礎知識を理解する。				
講義内容	<p>私たちの生活に経済は様々な形で関与している。最近では、経済の国際化・金融化が進み、医療も国際化ということがよく言われるようになった。この講義では、人と人の関係である経済社会をグローバルにとらえ、21世紀の医療と福祉についての基本を学ぶ。</p> <p>そこで、本講義では、経済学的な立場にたって、以下の講義をすすめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学入門 2. 市場経済の形成 3. 世界経済と債権国・債務国 4. 大恐慌とケインズ経済 5. 戦後世界の経済体制 6. ケインズの経済社会と医療・福祉 7. ケインズの経済社会の崩壊と金融グローバリズム 8. 株主資本主義とは何か 9. 多国籍企業とは何か 10. 多国籍銀行の誕生 11. 金融グローバリズムの歴史的起点 12. 国際資本取引の自由化はどう進んだのか 13. WTO体制と医療・福祉 14. 格差社会と医療・福祉 15. まとめ <p>経済学的なものから見方から現代の福祉・年金・健康保険などについての理解を深める。</p>			
使用テキスト 萩原伸次郎 著 『金融グローバリズムの経済学』 かがわ出版 2020年 参考書 萩原伸次郎 著 『米国はいかにして世界経済を支配したか』 青灯社 2008年				
評価方法 終講試験（100点満点）と平常点により総合的に評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

<h1>文化人類学</h1>	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 9月開講～2月終講				
担当講師 杉井純一				
科目目標 さまざまな文化を学び、多様な文化・社会・価値観があることを理解する。				
講義内容	<p>現代世界では、仕事や観光、あるいは移民や難民といった理由で多くの人が絶えず各地を移動しています。それゆえ、私たちは自分とは異なる言語、習慣を持ち、独自の信仰や価値観を持つ人々との出会いを経験します。異質な人々が行き交う世界に生きる私たちは以前にもましてコミュニケーションの困難に遭遇します。お互いが先入観や偏見にとらわれず、十分な意思疎通を図るためには、相互の民族的、文化的背景への理解が前提となるでしょう。文化人類学はフィールドワークという方法を用いて、異民族の生活に入り込み、日々の出来事や人間関係を詳細に記録します。そして、その民族誌をもとに、それぞれの民族の個別性を明らかにすることで、「人間とは何か」という普遍的な問いに答えようとする学問なのです。</p> <p>講義予定は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間と文化（文化人類学とは何か 文化とは何か） 2 文化人類学と質的研究（マリノフスキーとフィールドワーク） 3 個人・家族・コミュニティ（家族と親族 地域共同体） 4 人生と通過儀礼（儀礼の種類と構造 人生儀礼） 5 宗教と世界観（呪術と宗教 神話とコスモロジー） 6 健康・病気・医療（健康と病気 医療の文化的体系） 7 人間と死（医療と死 死者儀礼と不浄観念） 			
使用テキスト 波平恵美子編 波平恵美子 他著『系統看護学講座 文化人類学』（医学書院） 授業時にプリントを配布し、それに基づいて講義を進めます。 また、関連する映像を視聴し、その感想文を書きます。				
評価方法 成績は、終講試験により評価します。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

英文読解	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 9月開講～2月終講				
担当講師 丸田晶子				
科目目標 看護に関する文献を通読できる基礎的能力を養う。				
講義内容	<p>様々なテーマに沿って英文を読んでいます。使用するテキストのリーディング・セクションは医療、健康、社会、生活など身近な話題について基礎的な英文で書かれています。それらは今の日本の社会で話題となっている問題の中から、特に看護や医療に視点を置いたものがテーマとして選ばれています。英語で読むことによって英文に慣れ、今まで身に付けてきた英語力をより確かなものとしていきます。</p> <p>そして将来必要となる文献を通読する力を養うだけでなく、看護の仕事に直結した表現力を身に付けることを目標とします。</p> <p>医療関係の基本用語はしっかりと身につけましょう。馴染みのない語が多く最初は覚えづらいかもしれませんが、練習問題などで繰り返し学び、そしてリスニングやライティングなどの活動を通して理解を深め、応用できるようになるとよいでしょう。</p> <p>言葉とは人間が長い年月を経て実生活の中から作り出してきたものです。そして、言葉を媒体として情報を発信し人はつながりコミュニケーションを持ち、社会生活を可能にしてきました。英語という言葉を知識として学ぶだけでなく、英語学習を通して日本の常識に囚われない価値観を認識しつつ異文化に対する興味を深め、物事の捉え方や習慣の違いに目を向けることによって視野を広めて欲しいと思います。</p>			
使用テキスト 笹島 茂・山崎朝子 共著 Take Care! : Communicative English for Nursing and Healthcare (医療と看護の総合英語[三訂版]) 三修社				
評価方法 終講試験と出席により総合的に評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

情報科学	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 坪井博之				
科目目標 1. 情報の意義について理解し、看護活動に活用できる基礎的能力を養う。 2. 情報処理の基本的な考え方、方法を理解する。				
講義内容	1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報科学 ・ 情報化 ・ 設計的・分析的な考え方 ・ 質的データと量的データ 2. Word・エクセル <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語入力・書式設定（様々な書式の練習、EX・昨年のテスト内容＋段組等） ・ 提出課題（自己紹介文） ・ データの入力方法・範囲の設定・表計算・内部・外部関数・グラフ化 ・ 式のコピー・印刷（表のみ、グラフのみ、表とグラフ） ・ 提出課題（授業の中で提示）：量的データや情報を使ってエクセルでデータの集計とグラフ化を行い、その集計表とグラフをコピーし考察し、書式を設定して印刷する。 3. データの処理の実際とまとめ方 看護業務データの分析と考察および、看護物品管理データの分析と考察を学習した手法を活用してまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ①文献検索 ②表の作成と計算 ③内部関数（合計、平均等）・外部関数の活用 ④グラフ化 ⑤研究のまとめ 			
使用テキスト 太田勝正 前田樹海 編著 エssenシャル看護情報学 医歯薬出版 坪井博之 ナースのためのデータ処理 技術評論社				
評価方法 演習課題と出席により総合的に評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

<h1>人体の構造</h1>	単 位 数	<h1>1</h1>	時 間 数	<h1>30</h1>
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 重谷安代 辰巳徳史 矢野十織 西條広起 庄野孝範 時本楠緒子				
科目目標 人体の形態と構造を理解する。				
講義内容	<p>解剖学総論</p> <p>人が生きていくためには様々な機能が必要であり、それらの機能を果たすための構造が備わっている。人を対象として扱うためには、人体がどのようにできていて、それぞれが何をしているのかを理解することは必須である。総論ではそれをどのように学んでいくのかの概略を解説する。</p> <p>総論では、以下の項目を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人体とはどのようなものか、大まかにどのように区分されるのか、各部の名称、それぞれの細分とその名称を述べることができる。 ● 自分の身体をモデルとして、それらの部位や構造の位置を指し示すことができる。 ● 体内で行われていることを分類し、それらを行っている器官系の概略を述べることができる。器官の大まかな構造を示し、それを構成する組織や細胞の特徴を述べることができる。 <p>循環器</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 動脈、静脈、リンパについて ● 脈を触れることができる動脈 ● 終動脈について ● 心臓の構造 ● 大動脈弓、腹部大動脈から分岐する主要な動脈 ● 大循環・肺循環のちがいについて ● 門脈について ● ウィリス動脈輪、前・中・後大脳動脈について 			

人体の構造

講義内容

消化器系

動物は、食物を体内に摂取し、消化、栄養素の吸収、そして不消化物の排泄を行っている。消化器系とは、これらの働きを担う器官（臓器）群を指す。

消化器系では、以下の項目を目標とする。

- 消化器系はどのような臓器によって構成されているのか、各臓器の構造および役割の概略を述べることができる。
- 吸収された食物がどこに貯蔵されるのか、どのように処理されるのか、について述べることができる。
- これらの臓器が体内のどこにどのように収められているかについて述べるができる。

呼吸器と血液の働き（第3章）

- 呼吸器の構造を理解する。
上気道（鼻、咽頭、喉頭）と下気道と肺（気管、気管支、肺）など
胸膜、縦隔（肺と周囲臓器との関連）
- 呼吸器の組織学的構造を理解する。（肺の上皮構造）。
- 呼吸運動の調節について理解する。
（呼吸の神経性調節、化学受容器、反射、呼吸の異常と病的呼吸など）
- 血液の組成と機能について理解する。（赤血球、白血球、血小板など）

内分泌

- フィードバック調節機構について
- 下垂体の構造と、分泌されるホルモンおよびその作用
- 甲状腺の構造と、分泌されるホルモンおよびその作用
- 副腎の構造と、分泌されるホルモンおよびその作用
- 膵ランゲルハンス島の構造と、分泌されるホルモンおよびその作用
- カルシウム代謝に関与するホルモンとその作用について
- 体液調節に関するホルモンとその作用について

講義内容

運動器系①上肢

- 上肢の骨格（鎖骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手の骨など）と関節（肩関節、肘関節、橈骨手根関節、手の関節など）について知り、その運動に関わる筋（大胸筋、三角筋、僧帽筋、上腕筋、上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、総指伸筋、長掌筋など）の作用と神経支配について述べるができる。

運動器系②（骨盤部・下肢）

- 下肢の骨格（寛骨、骨盤、大腿骨、膝蓋骨、腓骨、足の骨など）と関節（股関節、膝関節、距腿関節、足の関節）について知り、その運動に関わる筋（腸腰筋、大腿筋、大腿四頭筋、半腱・半膜様筋、大腿二頭筋、下腿三頭筋、前頸骨筋、長指伸筋、腓骨筋など）の作用と神経支配について述べるができる。

運動器系③（体幹・頭部）

- 脊柱の骨格（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨）について知り、その運動に関わる筋の作用につて述べるができる。
胸郭を構成する骨（胸骨、肋骨、胸椎）とその運動に関わる筋について述べるができる。
- 頭蓋を構成する骨（前頭骨、側頭骨、頭頂骨、後頭骨、蝶形骨、鼻骨、頬骨など）、および顔面頭蓋と脳頭蓋の違いについて述べるができる。顎関節の運動について説明できる。
- 顔の表情がどのようにして作られるかを述べるができる。

泌尿器系：体液の調節と尿の生成（教科書 第5章）

- 腎臓（糸球体、尿細管）の構造と機能の理解
- 排尿路（尿管、膀胱、尿道）の構造と機能の理解

生殖器系：生殖・発生と老化のしくみ（教科書 第10章）

- 男性生殖器（精巣、精路、外生殖器）の構造と機能の理解
- 女性生殖器（卵巣、卵管、子宮、膣、外陰部、乳腺）の構造と機能の理解
- 受精と胎児の発生、成長と老化についての理解

*授業開始時に簡単なテストを行う予定。

事前に教科書の予習をお願いします。

人体の構造

講義内容

末梢神経

- 脳神経（嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、三叉神経、外転神経、顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経）の分布とその働きを述べることができる。
- 脊髄神経（頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢）について述べるができる。

中枢神経

- 脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、終脳の構造について述べるができる。
- 主な神経伝達路を理解する。

感覚器

- 外皮、視覚器、平衡・聴覚器、嗅覚器、味覚器について神経と関連づけて感覚器の構造と機能を理解する。

使用テキスト

坂井建雄 岡田隆夫 著：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学
人体の構造と機能 [1] 医学書院

評価方法

終講試験（100点満点）により評価する。

留意事項

遠隔授業または課題授業になる場合があります。
授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

<h1>生命の維持機能</h1>	単 位 数	2	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～6 月終講				
担当講師 南沢 享 福田紀男 赤池 徹 小比類巻生 谷端 淳				
科目目標 生命の維持に必須の諸機能（植物機能）について学ぶ				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学とは：講義全体のオリエンテーションと生理学の語源、発達、進化、定義について学習し、生体の機能系、自動調節機構、恒常性、フィードバック・ループ、自然治癒力など生理学の基礎を理解する。（南沢 享） 2. 血液系：人体を構成する個々の細胞の生存に必要な細胞外環境（内部環境）を恒常的に維持するための血液による 1) 物質（栄養素、水、酸素、二酸化炭素、ホルモン、老廃物など）や熱の運搬機能、2) pH 緩衝作用、3) 免疫担当細胞や抗体などによる生体防御機能、4) 血液の通り道である血管が損傷した時の修復（止血）機能について学ぶ。1) が関連する機能として循環器系、呼吸器系、体温調節、腎・排泄系、消化器系、内分泌系が 2) が関連する機能として呼吸器系、腎・排泄系が密接に関連する。また、輸血の際、重要となる血液型について学ぶ。（小比類巻生） 3. 酸塩基平衡：血液の pH 恒常性を保つための仕組みを統合的に（血液系、呼吸器系、腎泌尿器系にまたがって）学習する。（赤池 徹） 4. 循環器系：肺内で一定のガス組成になった動脈血を全身に駆出する心臓のポンプ機能が効率良く規則正しく発揮される仕組みとその調節機構、動脈により血液の流れが円滑化され、環境の変化に応じて臓器や組織に供給される血液量が調節される仕組み、血圧測定法の原理、毛細血管と間質における物質交換、静脈血やリンパ液が心臓に戻る仕組みなどについて学ぶ。（福田紀男） 5. 呼吸器系：外界より酸素を取り入れ、体内で生成された二酸化炭素を排出する呼吸運動により肺および肺内を流れる血液のガス組成が一定に保たれるメカニズム、また、末梢・中枢化学受容器（領域）を介した呼吸運動の調節について学ぶ。さらに、肺の膨らみやすさや容積（肺気量）が決定されるメカニズムや気道閉塞の要因、呼吸による血漿 pH の調節などについても学ぶ。（谷端 淳） 6. 体温調節系：体温が恒常的に維持されている機構、および体熱の産出と放散の仕組みについて学ぶ。また、体温測定手技の根拠について学ぶ。（小比類巻生） 7. 消化吸収系：外界より摂取した 3 大栄養素を小腸の粘膜を通過しうる程度まで分解し、それらを体内（血液やリンパ液）に取り入れる仕組み、ならびに消化管運動や消化液の分泌が調節される仕組みについて学ぶ。また、肝臓や胆嚢の働き、排便の仕組みについても学ぶ。（谷端 淳） 8. 腎・排泄系：体内で生成された老廃物や過剰成分の除去、体液の恒常性（体液量、浸透圧、電解質組成、pH など）が維持されるメカニズムについて学ぶ。また、排尿の仕組みについて学ぶ。（小比類巻生） 			
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 [1] 医学書院 授業を受ける上での注意 教科書を事前に読み、講義をよく聴き、わからないことがあれば積極的に質問すること。				
評価方法 終講試験（100 点満点）により評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

<h1>生体の調節機能</h1>	単 位 数	2	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 竹森 重 暮地本宙己 平野和宏				
科目目標 私たち動物が身体に調節して生きる仕組みを理解しよう！				
講義内容	<p>並行する「生命の維持機能」で各臓器・組織の働きを学ぶが、これら各臓器・組織からなる私たちヒトは、想定される身体内外の変化を適切に感じ取って対処しながら健康にこの自然界を生き延びてきた。</p> <p>まず私たちの身体内外の変化を感じ取るのは感覚器だ。感覚器といえば目や耳を思い出すだろうが、身体内の変化の感覚もある。内蔵感覚だ。自覚しないことが多いから気づかなかったかも知れないが。</p> <p>これら感覚器が感じ取った身体内変化に対しては、自律神経系と内分泌系という二つの仕組みが各臓器・組織に働きかける。自律神経系は素早くこまごまと、内分泌系はゆっくりだが持続的に働きかける。</p> <p>身体外からの変化には身体を動かす筋肉を使って運動神経系が働きかける。</p> <p>様々な身体内外の変化を運動神経・自律神経・内分泌系経由の働きかけに結びつけるのが脳をはじめとする中枢神経系だ。私たち高等動物は将来の変化を想定した判断や意志まで持つようになった。</p> <p>ということで、生体の調節機能は三領域に分かれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動系：身体外の変化を感知して反応するのは主に運動神経系。想定される身体外からの変化に適した感覚器と、その変化に適した身体運動を中枢神経系が指令して実現する仕組みを学ぶ。(竹森重・平野和宏) 2. 自律神経系：生命維持に関わる諸機能が互いに拮抗する交感神経と副交感神経の両者により臓器特異的に適正な範囲に調節される仕組みについて、体系的に学ぶまた、自律神経系の高次中枢である視床下部の役割や内臓感覚を担う自律神経求心路について学ぶ。(竹森重・平野和宏) 3. 内分泌系：代謝・成長・生殖などの調節を担い生命維持に重要な役割を持つ内分泌の働きについて学ぶ。具体的には特定の分泌臓器から分泌され、血流に乗り標的臓器に作用するホルモンにより媒介される内部環境の恒常性維持、中間代謝の調節、発育と成長の制御、性の分化と生殖について学ぶ。(暮地本宙己) 			
使用テキスト 坂井建雄 他著：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 医学書院 授業を受ける上での注意 日々学ぶことを自らの身体にあてはめながら深めることが、医療に生きる理解への王道だ。試験のための勉強に終わらせては時間があまりにもったいない。 使用するテキストは高校までの教科書と違って初学者に優しくないので予習にはまるで向かない。優れた図がたくさん載っているから、講義で学び取ったことを手掛かりにまずはテキストの図に親しみ、その上で関連する本文へと理解を広げよう。そして9月までにこのテキストを読める人になろう。その時あなたは医療のエキスパートに向けて立派なスタートを切っている！				
評価方法 終講試験（100 点満点）により評価する。講義での提出物を評価の参考とする。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

<h1>代謝と栄養</h1>	単 位 数	<h1>1</h1>	時 間 数	<h1>30</h1>
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 田原義和				
科目目標 食物中の栄養素を消化・吸収・代謝して体を作り、動かし、調節・維持する仕組みを理解する。				
講義内容	<p>ヒトは糖質・脂質・蛋白質の三大栄養素とビタミン・ミネラルおよび水を飲食物から摂取し、酸素(O₂)の力を借りて生命を維持する。栄養とは摂取から排泄までの一連の過程を指し、代謝とは栄養素の体内での化学変化の総体を示す用語である。身体の健康は、適切に摂取した栄養素を酵素(こうそ)の触媒する細胞内化学反応の連続=代謝経路によって代謝しホルモンなどで調節することで実現する。化学反応の身近な例は燃料の燃焼だろうか。燃料を燃やして車を動かしたり調理したりするためのエネルギーを得ると同時に空気を暖め二酸化炭素を発生する。体も同じで細胞は炎を出さずに栄養素を燃やして筋肉を動かしたり体を作ったり必要な物質を合成したりするためのエネルギーを得ると同時に体を温め二酸化炭素を発生する。この講義では、栄養素で体を作り、体を動かすエネルギーを酵素の働きによって得る代謝と、代謝を調節して健康を維持する恒常性(ホメオスタシス)とその失調によって起こる生活習慣病を理解することが主な目的である。</p> <p>一度聞いただけではわからないことが多いかも知れないが、講義資料とテキストを読み返し、自分の頭で理解する努力を怠らなければ必ず理解できる。</p> <p>【全15回の予定】 その回の講義タイトルと内容紹介、対応するテキストの章を【】内に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖質と脂質の化学:体の主要な燃料。糖質は水に溶け脂質は溶けない。何が違うのか【1～3】 2. 蛋白質と核酸の化学:体や遺伝子の材料。糖質・脂質に含まれない窒素を含む【4,5】 3. 酵素:体内で起こる化学反応は酵素によって促進され、酵素の調節で制御されている【6】 4. ビタミン:ビタミンは酵素の役割の一部を担う。水に溶けるものと溶けないものがある【7】 5. 水とミネラル:栄養素ではない水もミネラルも共に酵素機能や生体機能に必須である【1,18】 6. 消化と吸収:栄養素は酵素で分解され輸送体で細胞膜を透過し細胞に吸収される【8,9】 7. 糖質の代謝:ブドウ糖のCO₂への燃焼はヒトのエネルギー代謝の中心である【10】 8. 脂質の代謝:エネルギーを生じる脂肪と生じないコレステロール。構造と役割の違い【11】 9. 蛋白質とアミノ酸の代謝:蛋白質は体をつくる最も大事な材料であり燃料にもなる【12,14】 10. エネルギー代謝と調節:細胞のエネルギーATPを作る代謝とその調節・相互作用【15,16】 11. ヌクレオチドの代謝:生命の設計図は「ヌクレオチド文字」で書かれている【13】 12. 遺伝子の発現と制御:遺伝子の異常は先天性代謝疾患やがんを生じる【12,20,21,23など】 13. 情報伝達とホルモン:身体の恒常性を維持するために分泌器官が細胞に下す命令【19】 14. 代謝の相互作用と調節:代謝経路は互いに独立ではなく臓器を越えて連携する【17など】 15. 栄養不良:栄養摂取の極端な不足や偏りはいわゆる栄養失調状態に至る【25など】 			

使用テキスト（少し難しいが定評のある本。卒業後も参照することのできる本格的な生化学書）
林典夫・廣野治子監修 野口正人・五十嵐和彦編集 シンプル生化学【改訂第7版】 南江堂

参考書（どうしても理解できなければ以下の2冊はわかりやすくおすすめである）

穂苅茂 他著 看護学生超入門シリーズ 生化学・栄養学 照林社（難しい内容を優しい言葉で解説する良書）
馬渡一浩著 看護の基礎固めひとり勝ち 3. 生化学編 メディカルレビュー社（学習項目の確認に適している）

評価方法

終講試験（100点満点）により評価する。

留意事項

遠隔授業または課題授業になる場合があります。
授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

発達心理学	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 10 月開講～2 月終講				
担当講師 岩崎美奈子				
科目目標 本講義では人の一生を「発達段階（ライフサイクル）」という各ステージに区切りながら、それぞれの段階での認知、心理的発達について理解を深めることを目標とします。 それぞれの発達段階で、テーマとなる課題やその年代で生じやすい心の問題などがあります。それらについても概説しながら、皆さんが接する様々な年代の方への発達の理解を深めていきます。				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概説 2. 胎児期・新生児期① 3. 胎児期・新生児期② 4. 乳児期① 5. 乳児期② 6. 幼児期① 7. 幼児期② 8. 児童期 9. 発達障がい児の発達 10. 発達障がい児の支援 11. 発達評価 12. 青年期 13. 成人期・中年期・老年期① 14. 成人期・中年期・老年期② 15. 全体のまとめ 			
使用テキスト 林洋一 史上最強図解 よくわかる発達心理学 ナツメ社 参考テキスト 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 監修 発達心理学 ミネルヴァ書房				
評価方法 最終評価は、授業態度と筆記試験（100 点満点）からの総合判断とします。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

医療概論		単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～12 月終講					
担当講師 栗原 敏 東條克能 眞柄直朗 北 素子 石川智久 穴澤貞夫 福島 統 桶土井清美					
科目目標 1. 現代医療の特徴と慈恵で学ぶ意義を理解する。 2. 「いのち」について考えることができる。 3. 医療を受ける対象の生命と人権の尊重および医療の倫理について理解する。 4. 医療における患者と医療者の関係および患者の自己決定権について述べるができる。 5. 健康と疾病のそれぞれの状態について述べるができる。 6. 医療を担う専門職とその役割、連携・協働の必要性を理解する。 7. 医療専門職としての役割を果たすための生涯学習の意義と必要性について学ぶ。 8. 医学と看護の歴史について簡単に述べるができる。					
講義内容	1. 医療を学ぶ人たちに 2. 医療の基本「人道主義・人権」について考える—生命への畏敬 3. 医療が辿ってきた道・看護の歴史 4. 現在の医療における医療者—患者関係の問題点とその克服について 5. 医療の進歩と未来への展望 6. 医療の場の拡 施設から在宅へ 地域で生活する人々への医療の提供 7. 医療者はどのように患者に関わるか— 各職種の役割と専門性 — ・医師の診断治療のプロセス ・「看護」の役割と専門 ・医療者の学・術・道 ・何故、生涯学習が必要か 8. ひとの健康を損なう因子と主要な病態 (1) 9. ひとの健康を損なう因子と主要な病態 (2) 10. 医療安全と医療者のとるべき態度 11. 医の倫理の基礎知識 —その考え方の変遷	東京慈恵会医科大学 理事長 慈恵看護専門学校 学校長 東條克能 東條克能 東條克能 東條克能 慈恵看護専門学校 副校長 桶土井清美 各職種の役割と専門性 — 慈恵看護専門学校 校医 東京慈恵会医科大学 看護学科長 東京慈恵会医科大学 客員教授 東京慈恵会医科大学 東京慈恵会 常務理事 東京慈恵会 常務理事 慈恵看護専門学校 学校長 慈恵看護専門学校 学校長	栗原 敏 東條克能 東條克能 東條克能 東條克能 桶土井清美 石川智久 北 素子 穴澤貞夫 福島 統 眞柄直郎 眞柄直郎 東條克能 東條克能		
使用テキスト 栗原敏編 医療入門 —より良いコレボレーションのために— 医学書院 千代豪昭 他編 学生のための医療概論 第3版 医学書院 参考書 小坂樹徳・田村京子編 現代医療論 (新体系看護学全書) メヂカルフレンド社					
評価方法 終講試験 (100 点満点) により評価する。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

感染と免疫	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 進士ひとみ 岩瀬忠行 田嶋亜紀子 千葉明生 小林伸行 嶋田和也 岡直美 石井 梓				
科目目標 1. 病原微生物が人体に感染した場合に及ぼす影響と感染予防について理解する。 2. 生体がもつ免疫という特別な働きについて理解する。				
講義内容	細菌学（進士ひとみ 岩瀬忠行 田嶋亜紀子 千葉明生） 1. 微生物と微生物学、細菌の性質 2. 感染源・感染経路からみた感染症 3. 感染症の予防と対策 4. 各論：グラム陰性菌 5. 各論：グラム陽性菌 6. 各論：その他の細菌、感染症の治療 7. 真菌・原虫による感染症 ウイルス学、免疫学（小林伸行 嶋田和也 岡直美 石井梓） 1. ウイルス総論、皮膚・胎児・新生児のウイルス感染症 2. AIDS、白血病を生じるウイルス 3. 呼吸器系のウイルス感染症 4. 肝炎ウイルス、消化器系のウイルス感染症 5. 中枢神経系のウイルス感染症 6. ウイルス感染の予防と治療 7. 感染と免疫 (1) 8. 感染と免疫 (2)			
使用テキスト 辻 明良 垣内史堂著：新体系看護学全書 微生物学・感染制御学 メヂカルフレンド社 参考図書 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院				
評価方法 終講試験（100 点満点）により評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

疾病総論	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 9 月開講～2 月終講				
担当講師 鹿 智恵 會澤大介 菊地 亮 佐々木祥久 福田隆浩 前田未来 坂口涼子				
科目目標 人体組織の形態学および機能的変化を理解し、疾患の概念を総合的に把握する。 さらに、それらの知識を看護実践にどう応用するかを学ぶ。				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学と医療 2. 細胞傷害・先天異常 3. 循環障害 4. 炎症・感染症 5. 免疫・全身性疾患 6. 腫瘍総論 7. 循環器系の疾患 8. 造血器系の疾患 9. 呼吸器系の疾患 10. 消化器系の疾患 11. 泌尿器系の疾患 12. 生殖器系と乳腺の疾患 13. 内分泌系・感覚器の疾患 14. 運動器系・皮膚の疾患 15. 脳・神経系の疾患 <p>※ 但し、若干順序や内容が異なることがある。</p>			
テキスト 堤 寛著 新クイックマスター病理学第2版 サイオ出版 参考書 大橋健一他著 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院				
評価方法 筆記試験（終講試験）の成績と出席状況を合せて総合的に評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

臨床薬理学	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 9月開講～2月終講				
担当講師 西 晴久				
科目目標 薬物に関する基礎知識、各薬物の薬理作用・副作用および薬物の使い方について理解する。				
講義内容	I. 薬理学総論 <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬としての基本的性質、使用目的 2. 薬理作用の基本形式、薬理作用発現機序 3. 薬の体内動態 4. 薬効に影響する因子 5. 薬の有害作用 6. 薬に関する法律 II. 各論 <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗感染薬：抗菌薬各論、特殊感染症治療薬 2. 抗がん薬 3. 免疫治療薬 4. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5. 末梢神経作用薬：交感神経作用薬 6. 末梢神経作用薬：副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 7. 中枢神経作用薬：全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬 8. 中枢神経作用薬：抗うつ薬、パーキンソン薬症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬 9. 心臓に作用する薬物：狭心症治療薬、強心薬、抗不整脈薬 10. 循環器に作用する薬物：抗高血圧薬、高脂血症治療薬、利尿薬 11. 血液に作用する薬物：貧血治療薬、抗血液凝固薬、抗血小板薬 12. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物：気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、性ホルモン 13. 物質代謝に作用する薬物：内分泌総論、下垂体ホルモン、糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬、カルシウム代謝に関連するホルモン、ビタミン 14. 救急の際に用いられる薬物、消毒薬 15. 漢方薬 			
テキスト 吉岡充弘 泉 剛 井関 健 他著 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 (3) 薬理学 医学書院 学習上の注意 薬理学は解剖学、生理学及び生化学を含む総合的な学問分野なので、おりに触れ、前期の専門基礎分野の講義で用いられている教科書「人体の構造と機能 [1]解剖生理学」「人体の構造と機能 [2]生化学」に目を通すことが、「薬」を理解するために必要である。				
評価方法 終講試験 (100 点満点) により評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

生命の維持機能障害と治療		単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 9月開講～11月終講					
担当講師 本郷賢一 南井孝介 石井敬人 郡司匡弘 村松弘康 保科斉生 坪井伸夫 丸山之雄					
<p>科目目標</p> <p>主な疾患の病態生理、検査、診断、治療を理解する。</p>					
講義内容	<p>【循環器系の疾患】（8時間 本郷賢一・南井孝介）</p> <p>1) 主な症状 動悸 胸痛 不整脈 浮腫 血圧異常 チアノーゼ 呼吸困難 うっ血 倦怠感 失神</p> <p>2) 代表的疾患の病態生理 (1) 弁膜症・心筋症 (2) 虚血性心疾患（心筋梗塞・狭心症） (3) 心不全（右心不全・左心不全） (4) 肺性心 (5) 動静脈系疾患 (6) 先天性疾患（心房中隔欠損症・心室中隔欠損症）</p> <p>3) 主な検査 生理学的検査（心電図など） 心臓カテーテル検査 血行動態モニタリング トレッドミル検査 心エコー検査 胸部X線検査 血液検査 など</p> <p>4) 主な治療 経皮的冠動脈形成術（PTCA） 経皮経管的冠動脈血栓溶解療法（PTCR） ペースメーカー埋め込み術 安静療法 食事療法 酸素療法 手術療法*</p> <p>【呼吸器系の疾患】（6時間 村松弘康）</p> <p>1) 主な症状 喀痰 血痰 咯血 咳嗽 胸痛 呼吸困難 チアノーゼ</p> <p>2) 代表的疾患の病態生理 (1) 感染による気道、肺の炎症 かぜ症候群 インフルエンザ 肺炎（マイコプラズマ・細菌性） 肺結核 (2) 気道疾患 気管支喘息 肺気腫 気管支拡張症 慢性閉塞性肺疾患（COPD） (3) 肺の腫瘍 肺がん (4) 胸膜疾患 自然気胸 (5) 過換気症候群</p> <p>3) 主な検査 呼吸機能検査 喀痰検査 血液ガス分析 血液検査 気管支鏡 結核関連検査 胸腔穿刺 肺生検 胸部X線検査 など</p> <p>4) 主な治療 酸素療法 肺理学療法 人工呼吸療法 薬物療法 放射線療法 手術療法*</p>				

生命の維持機能障害と治療

<p>講義内容</p>	<p>【血液・造血器系の疾患】（6時間 石井敬人・郡司匡弘）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主な症状 貧血 出血傾向 白血球増加・減少 易感染 発熱 脾腫 2) 代表的疾患の病態生理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 赤血球系疾患 鉄欠乏性貧血 再生不良性貧血 溶血性貧血 悪性貧血 (2) 白血球系疾患 白血病 (3) リンパ網内疾患 悪性リンパ腫 (4) 異常タンパク血症 多発性骨髄腫 (5) 出血性疾患 3) 主な検査 血液検査 骨髄穿刺 骨髄生検 リンパ節生検 など 4) 主な治療 化学療法 輸血療法 (GVHD) 造血幹細胞移植 遺伝子治療 <p>【腎・泌尿器系の疾患】（6時間 坪井伸夫・丸山之男）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主な症状 尿の異常 排尿異常 浮腫 高血圧 血液・循環器系の異常 電解質異常 尿毒症 2) 代表的疾患の病態生理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 糸球体腎炎・ネフローゼ症候群 (2) 腎不全（急性腎不全・慢性腎不全） (3) 尿路の疾患（前立腺肥大・結石） (4) 腎・泌尿器の腫瘍（腎がん・前立腺がん） 3) 主な検査 尿検査 血液検査 腎機能検査 画像検査（造影・CT・超音波・MRI） 経尿道的検査 内視鏡検査 など 4) 主な治療 安静療法 食事療法 薬物療法 透析療法 手術療法* 腎移植 <p>【感染症】（4時間 保科斉生）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 代表的疾患の特徴と治療 <ol style="list-style-type: none"> (1) ウィルス性感染症 (2) 細菌感染症 (3) 真菌感染症 (4) 寄生虫感染症 2) 個人および集団の感染症予防対策 																				
<p>テキスト</p>	<table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座 専門Ⅱ</td> <td>成人看護学 3</td> <td>循環器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座 専門Ⅱ</td> <td>成人看護学 2</td> <td>呼吸器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座 専門Ⅱ</td> <td>成人看護学 4</td> <td>血液・造血器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座 専門Ⅱ</td> <td>成人看護学 8</td> <td>腎・泌尿器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座 専門Ⅱ</td> <td>成人看護学 1 1</td> <td>アレルギー・膠原病・感染症</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>	系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 3	循環器	医学書院	系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 2	呼吸器	医学書院	系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院	系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 8	腎・泌尿器	医学書院	系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 1 1	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 3	循環器	医学書院																		
系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 2	呼吸器	医学書院																		
系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院																		
系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 8	腎・泌尿器	医学書院																		
系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学 1 1	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院																		
<p>評価方法</p>	<p>終講試験（100点満点）によって評価する。</p>																				
<p>留意事項</p>	<p>手術療法*については「麻酔と手術療法」で学びます。 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。</p>																				

生体の調節機能障害と治療		単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 11 月開講～2 月終講					
担当講師 石川智久 及川恒一 光永真人 山崎琢士 三村秀毅 大本周作 山城健二 的場圭一郎 黒坂大太郎					
科目目標 主な疾患の病態生理、検査、診断、治療を理解する。					
講義内容	<p>【消化器系の疾患】 (10 時間 石川智久・及川恒一・光永真人・山崎琢士)</p> <p>1) 主な症状 嚥下障害 嘔吐 腹痛 (圧痛) 吐血 下血 下痢 便秘 腹部膨満 食欲不振 腹水 黄疸 門脈圧亢進 肝性脳症</p> <p>2) 代表的疾患の病態生理 (1) 上部消化管の疾患 (食道がん 胃・十二指腸潰瘍 胃がん) (2) 下部消化管の疾患 (潰瘍性大腸炎・イレウス・ヘルニア・ポリープ・結腸がん・直腸がん) (3) 肝臓・胆嚢の疾患 (肝炎・肝硬変症・肝臓がん・胆石症・胆管がん) (4) 膵臓の疾患 (膵炎・膵臓がん)</p> <p>3) 主な検査 潜血検査 肝機能検査 腫瘍マーカー 消化管 X 線検査 経皮経肝胆道造影 (PTC) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) 内視鏡検査 組織生検 など</p> <p>4) 主な治療 薬物療法 食事療法 インターフェロン療法 経皮経肝胆道ドレナージ (PTCD) 外胆汁瘻造設 イレウス管挿入 手術療法* など</p> <p>【脳・神経系の疾患】 (8 時間 三村秀毅・大本周作)</p> <p>1) 主な症状 意識障害 高次機能障害 運動機能障害 感覚機能障害 痙攣 反射障害 頭蓋内圧亢進症状 (頭痛・嘔吐・うっ血乳頭) 脳浮腫</p> <p>2) 代表的疾患の病態生理 (1) 脳血管障害 クモ膜下出血 脳出血 脳梗塞 脳動脈瘤 (2) 脳腫瘍 (3) 脳神経変性・脱髄疾患 パーキンソン氏病 筋委縮性側索硬化症 (ALS) 重症筋無力症 (4) 認知症 (5) 脳・神経系の感染症 脳炎 髄膜炎</p> <p>3) 主な検査 神経学的検査 脳血管造影 CT・MRI・SPECT・PET 髄液検査 (腰椎穿刺)</p> <p>4) 主な治療 安静療法 薬物療法 理学療法 脳室ドレナージ 手術療法*</p>				

生体の調節機能障害と治療

<p>講義内容</p>	<p>【内分泌系の疾患】（4時間 山城健二）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主な症状 体重変化（るい瘦・肥満） 容貌変化 神経・筋症状 血圧異常 2) 代表的疾患の病態生理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 視床下部・下垂体の疾患（巨人症、尿崩症） (2) 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、低下症） (3) 副腎疾患（副腎皮質機能亢進症 - クッシング症候群、低下症 - アジソン病） 3) 主な検査 血液検査（ホルモン濃度）画像検査 など 4) 主な治療 薬物療法 安静療法 手術療法* <p>【代謝系の疾患】（4時間 的場圭一郎）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主な症状 高血糖（口渇・多飲・多尿） 低血糖 耐糖能障害 糖尿病合併症 脂質異常 尿酸代謝異常 2) 代表的疾患の病態生理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 糖尿病 <ol style="list-style-type: none"> 1型 2型 合併症 二次性糖尿病 (2) 高脂血症・高尿酸血症 (3) メタボリックシンドローム 3) 主な検査 血液検査（代謝産物とその異常）インスリン分泌能評価 尿検査 など 4) 主な治療 食事療法 運動療法 薬物療法 <p>【膠原病・アレルギー疾患】（4時間 黒坂大太郎）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主な症状 関節痛・関節炎 レイノー現象 皮膚・粘膜症状 発熱 筋力低下 アレルギー症状 2) 代表的疾患の病態生理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス・皮膚筋炎・多発性硬化症 (3) シェーグレン症候群・ベーチェット病 3) 主な検査 血液検査（血清・免疫学的検査）病理組織学的検査 など 4) 主な治療 薬物療法（副腎皮質ステロイド他） 理学療法 																				
<p>テキスト</p>	<table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門Ⅱ</td> <td>成人看護学5</td> <td>消化器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門Ⅱ</td> <td>成人看護学6</td> <td>内分泌・代謝</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門Ⅱ</td> <td>成人看護学7</td> <td>脳・神経</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門Ⅱ</td> <td>成人看護学11</td> <td>アレルギー・膠原病・感染症</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>	系統看護学講座	専門Ⅱ	成人看護学5	消化器	医学書院	系統看護学講座	専門Ⅱ	成人看護学6	内分泌・代謝	医学書院	系統看護学講座	専門Ⅱ	成人看護学7	脳・神経	医学書院	系統看護学講座	専門Ⅱ	成人看護学11	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ	成人看護学5	消化器	医学書院																	
系統看護学講座	専門Ⅱ	成人看護学6	内分泌・代謝	医学書院																	
系統看護学講座	専門Ⅱ	成人看護学7	脳・神経	医学書院																	
系統看護学講座	専門Ⅱ	成人看護学11	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院																	
<p>評価方法</p>	<p>終講試験（100点満点）によって評価する。</p>																				
<p>留意事項</p>	<p>手術療法*については「麻酔と手術療法」で学びます。 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。</p>																				

<h1>生活科学</h1>	単 位 数	1	時 間 数	15
1 年次 9月開講～12月終講				
担当講師 鈴木陽子				
科目目標 日常生活の様々な事象を通して住生活を理解する。				
講義内容	<p>生活科学とは、身体と精神にかかわる諸問題を人間生活という視点から捉え直す実践的な総合科学です。本講義では、「住む」ことに関する行為や環境を学び、日常生活の意義について考えます。</p> <p>「住む」ことは、人と人、人とのこと、人と空間、人と環境など、様々な関わりの中で成り立っています。人はそうした関わりから、普段の生活に何が必要かに気づき、考え、地道に実践することで、社会の中で多様な価値観と向き合い、どう生きていくかという「生きる力」を育んでいきます。</p> <p>みな生活者ですから、生活者としての視点を養うことは万人に求められるものですが、特に看護者には、人が健康的に生きていくための住生活のあり方を理解した上で、住環境に敏感な身体感覚を体得し、今後ますます多様化する個々の生活に対して、自ら思考し行動する能力が不可欠であるといえます。</p> <p>本講義は、以下のテーマで進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 住生活・住環境とは 2) 人と人 3) 人とモノ・コト 4) 人と空間 5) 人と環境 6) 光の環境 7) 熱と湿気の環境 8) 空気の環境 			
使用テキスト First Stage シリーズ 精選住居学 実教出版				
評価方法 終講試験と課題により総合的に評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

基礎看護学

1. 目的 人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目標
- 1) 看護の対象である人間を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。
 - 2) 看護の歴史の変遷を理解し、専門職業人としての自覚を高める。
 - 3) 看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。
 - 4) 物事を科学的、論理的に見つめる考え方を養う。
 - 5) 対象に応じた援助技術を習得する。
 - 6) 対象に応じた看護過程の必要性を理解できる。

3. 構成



看護学概論		単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 桶土井清美					
科目目標 看護と看護に関わる多様な概念について理解を深めつつ、看護の目的、対象、方法に関する知識や態度とこれからの看護の課題について学び、看護基礎教育課程全体の学習に発展させる礎とする。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1・2	講義 GW	看護とは何かについて学ぶ	看護の概念 看護の考え方の変遷 看護の定義		
3～5	講義	看護の目的と機能を理解する。	看護の目的と機能 看護活動の場		
6～9	講義 GW	看護の対象について理解を深める。	看護の対象 看護の対象である人間とは 人間の成長と発達 発達課題 看護の対象としての家族・集団・地域		
10・11	講義 GW	健康とは何かを学ぶ。 健康水準向上のための保健医療活動を理解する。	健康の概念 健康とは何か 健康に影響する要因 健康の段階と看護 セルフケアとプライマリーヘルスケア		
12	講義	看護の方法について理解する。	看護実践の方法 看護実践の特性 看護実践の方法としての看護過程		
13	講義	専門職としての看護職の教育及びキャリア開発の必要性について学ぶ。	専門職としての看護 看護職への期待 看護職の教育制度 看護職者の教育とキャリア開発		
14・15	講義 GW	看護の提供者としての責任と期待される行動について理解する。	看護の提供者としての責任と行動 倫理とは 医療と倫理 職業倫理としての看護倫理 看護職の倫理綱領		
使用テキスト 茂野香おる 編：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 野嶋佐由美 編：看護学の概念と理論的基盤 日本看護協会出版会 フローレンス・ナイチンゲール 著 湯楨ます 他訳：看護覚え書 改訳第7版 現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン 著 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 手島 恵 監修：看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会 厚生統計協会：国民衛生の動向 資料等は、授業で配付します。					
参考図書 湯楨ます 監修 薄井坦子 他 訳：ナイチンゲール著作集 第一巻～第三巻 現代社 時実利彦 著：人間であること 岩波新書					
評価方法 出席、レポート提出及び内容、筆記試験で評価する。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

看護基本技術		単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～7 月終講					
担当講師 佐藤千恵子 伊藤美鈴					
科目目標 1. 看護実践のあらゆる場面に共通する基本的な看護技術を理解する。 2. 看護活動を安全・安楽に行うための知識・技術を理解する。 3. 対象のヘルスアセスメントができるための基礎的能力を養う。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	看護における技術の意味について考えることができる。 看護場面に共通する基本的技術の意味について理解できる。	1. 看護技術の意義 2. 看護技術の特殊性 3. 看護技術の基本的構成要素 4. 看護技術と倫理		
2～4	講義	看護における安全・安楽の意義と重要性について理解できる。 感染予防に必要な知識、技術について理解できる。	1. 安全・安楽の意義 2. 安全・安楽を阻害する要因 3. 安全を守る技術 4. 感染と感染予防策		
5・6	講義	コミュニケーションの基礎的知識が理解できる。 看護におけるコミュニケーションの意義について理解できる。	1. コミュニケーションの意義 2. コミュニケーションの構成要素と過程 3. コミュニケーションの過程に影響を与える因子 4. 医療における信頼関係とコミュニケーション		
7～9	講義	看護における観察の意義、目的について理解できる。 看護活動に必要な観察内容が理解できる。 観察の方法について理解できる。	1. 観察の意義 2. 看護における観察の目的 3. 観察の方法と手段 4. 効果的な観察を行うための留意事項 5. 観察の視点と内容		
10・11	講義	看護における記録・報告の意義、目的について理解できる。	1. 看護における記録の意義 2. 看護記録の構成要素と形態 3. 記録の原則と留意事項 4. 報告の留意事項 5. 看護記録および診療情報の取り扱い		
12～15	講義	バイタルサインの観察の意義と重要性について理解できる。 バイタルサインを観察するための援助方法について理解できる。	1. バイタルサインとは 2. バイタルサイン測定の意義 3. 呼吸 4. 循環 5. 体温 6. バイタルサインの記録		
使用テキスト 深井喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社					
評価方法 9 月に筆記試験（100 点満点）を行う。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

日常生活の援助技術		単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 徳永久美子 他					
科目目標 1. 日常生活を整えるための援助の必要性について理解する。 2. 対象が安全に安楽に日常生活を送るための看護の役割について理解する。 3. 日常生活の援助技術について理解する。					
回数	学習 形態	学習目標		学習内容	
1～4	講義	活動と休息の意義と看護の役割を学び、援助の必要性とその方法が理解できる。 安楽な体位への援助の必要性、体位変換の方法が理解できる。 ボディメカニクスについて理解できる。 移動・移送の意義と方法が理解できる。		活動と運動の意義 体位の種類と身体への影響 ボディメカニクス 活動と運動の援助 休息と睡眠の意義 睡眠の生理 睡眠の援助	
5～7	講義	人間をとりまく環境について学び、望ましい生活環境が理解できる。 生活環境調整の必要性と方法が理解できる。		人間を取り巻く環境 健康と生活環境 環境調整の意義 病室と病床の環境調整	
8～11	講義	清潔の意義と清潔における看護の役割を学び、援助の必要性と方法が理解できる。 衣生活の意義と清潔における看護の役割を学び、援助の必要性と方法が理解できる。		清潔の意義 皮膚・粘膜の生理 清潔の援助 衣服の意義 衣生活の援助	
12・13	講義	食事の意義と食事における看護の役割を学び、援助の必要性とその方法が理解できる。		食事の意義 食欲の生理 食事の援助	
14・15	講義	排泄の意義と排泄における看護の役割を学び、援助の必要性とその方法が理解できる。		排泄の意義 排泄の生理 排泄の援助	
使用テキスト 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メヂカルフレンド社 必要な資料は、随時配布します					
評価方法 9月に筆記試験（100点満点）を行う。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

日常生活の援助技術演習（実技）		単 位 数	1	時 間 数	45
1年次 5月開講～9月終講					
担当講師 伊藤美鈴 徳永久美子 他					
科目目標 日常生活の援助技術を習得する。					
回数	学習目標	学習内容			
1～4	【体位・移送】 1. 基本体位の特徴を理解し、安楽な体位への援助ができる。 2. ボディメカニクスを活用した移動・体位変換ができる。 3. 安全・安楽な移送ができる。	1. 安楽な体位の援助 2. 移動・体位変換 3. 移乗 4. 車椅子・ストレッチャー・担架を用いた移送			
5～8	【ベッドメイキング・シーツ交換】 1. 対象にとって寝心地良く、崩れにくいベッドの作成ができる。 2. 患者の安全を配慮し、苦痛を与えずにシーツを交換することができる。 3. 対象にとって安全で快適な環境調整ができる。	1. クローズドベッドの作成 2. オープンベッドの作成と崩し方 3. 臥床患者のシーツ交換・環境調整			
9～12	【バイタルサイン測定】 1. 安全・安楽に配慮し、バイタルサインが正確に測定できる。	1. 体温・脈拍・呼吸測定 2. 血圧測定 3. バイタルサイン測定			
13～21	【身体の清潔・衣生活】 1. 安全・安楽に配慮し、対象に応じた清潔の援助ができる。	1. 全身清拭と寝衣 2. ケリーパッドを用いた洗髪 3. 足浴 4. 口腔ケア 5. 整容			
22・23	【食事】 1. 対象に応じた食事の援助ができる。	1. 食事介助			
使用テキスト 深井喜代子他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 深井喜代子他：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 事前・事後学習教材 「看護基本技術」「日常生活の援助技術」で使用したノートや資料を参考にする。 図書館にある参考図書・DVD・e-ラーニング（ナーシングスキル・ビジュランクラウド）を活用する。					
評価方法 9月に実技試験（100点満点）を行う。					
留意事項 1) 事前学習をして臨む。 2) 必要物品を準備し、身だしなみを整えて臨む。 3) デモンストレーションでは、教員の動きや、対象への配慮をどのように行っているかを注意深く見て学ぶ。 4) 適切な技術を身につけられるよう不明点や疑問点を教員に確認する。 5) 看護師役、患者役を通して気づいた点を互いに意見交換する。 6) 事後学習及び自己学習に励み、各単元の技術を習得したうえで次回の演習に臨む。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

診療に伴う援助技術		単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 9月開講～12月終講					
担当講師 徳永久美子 他					
科目目標 1. 診察時における看護の役割について理解する。 2. 診療に伴う援助技術を理解し、対象に合わせた援助の必要性について理解できる。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	診療場面における看護の役割が理解できる。 診察場面における看護の役割が理解できる。	診療場面における看護と看護の役割 診察時の看護		
2	講義	罨法の効果とその方法が理解できる。	罨法とは 温罨法の効果と方法 冷罨法の効果と方法		
3	講義	酸素吸入療法を受ける対象の援助が理解できる。	酸素吸入療法の目的 酸素吸入療法の方法と援助		
4	講義	救急時の看護の役割及び処置・方法が理解できる。	救急蘇生とは 一次救命処置の方法 救急時の看護師の役割		
5	講義	排尿障害のある対象の援助が理解できる。	排尿障害とは 導尿の種類と目的 導尿実施への援助		
6	講義	排便障害のある対象の援助が理解できる。	排便障害とは 排便に関する処置 浣腸実施への援助		
7	講義	食事療法を受ける対象の援助が理解できる。	食事療法とは 食事療法を必要とする対象の特徴 食事療法を受ける対象への援助		
8	講義	検査を受ける対象の援助が理解できる。	検査の意義と種類 検体の取り扱い 検査を受ける対象への援助		
9	講義	吸引を受ける対象の援助が理解できる。 穿刺を受ける対象の援助が理解できる。	吸引法の種類と援助 穿刺法の種類と援助		
10～13	講義	薬物療法を受ける対象の援助が理解できる。	薬物療法の意義と目的 薬物療法に携わる職種とその役割 薬物療法における看護師の役割 薬物の吸収経路と排泄機序 薬物療法の種類 与薬時の援助		
14	講義	輸液療法を受ける対象の援助が理解できる。	生体における体液とその調整 輸液療法の意義と目的 輸液療法を受ける対象への援助		
15	講義	輸血療法を受ける対象の援助が理解できる。	輸血療法の意義と目的 輸血療法を受ける対象への援助		
使用テキスト及び配布資料 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社					
評価方法 12月に筆記試験(100点満点)を行う。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

診療に伴う援助技術演習（実技）		単 位 数	1	時 間 数	45
1年次 9月開講～2月終講					
担当講師 徳永久美子 松澤亜希子 他					
科目目標 診療に伴う援助技術を習得する。					
回数	学習目標	学習内容			
1～3	【感染予防】 1. 正しい方法で手洗いができる。 2. 原理原則をふまえ無菌操作ができる。 3. 個人防護用具の取り扱いができる。 4. 感染性廃棄物の処理方法がわかる。 5. 消毒液の作成方法がわかる	1. 衛生的手洗い 2. 無菌操作・滅菌物の取り扱い 3. 個人防護用具の取り扱い 4. 感染性廃棄物の処理 5. 希釈液の濃度計算の方法			
4・5	【罨法】 1. 冷罨法を適切に実施できる。 2. 温罨法を適切に実施できる。	1. 氷枕・氷嚢の作成と貼用 2. 湯たんぽの作成と貼用			
6	【酸素吸入療法】 1. 酸素吸入を効果的に実施できる。	1. 酸素ボンベの組み立て 2. 酸素吸入の方法			
7～11	【排泄】 1. 床上排泄の援助を適切に実施できる。 2. 導尿を適切に実施できる。 3. 浣腸を適切に実施できる。	1. 便器を用いた床上排泄への援助 2. 尿器を用いた床上排泄への援助 3. 導尿（一時的導尿・膀胱留置カテーテル） 4. 浣腸（グリセリン浣腸）			
12・13	【救急法・包帯法】 1. 心肺蘇生法を理解し実施できる。 2. 包帯法の意義を理解し、包帯の基本的な巻き方を用いて対象に巻ける。	1. 心肺蘇生法 2. 包帯法			
14・15	【検査】 1. 身体の測定（身長・体重・腹囲測定）ができる。 2. 尿検査ができる。 3. 静脈血採血ができる。	1. 身長・体重・腹囲の測定 2. 尿検査（肉眼法・試験紙法・屈折計による尿比重測定） 3. シミュレータによる静脈血採血			
16～23	【薬物療法】 1. 指示を正確に理解し、安全・安楽に経口与薬ができる。 2. 指示を正確に理解し、安全・安楽に筋肉内注射ができる。 3. 指示を正確に理解し、安全・安楽に点滴静脈内注射ができる。 4. 指示を正確に理解し、安全・安楽に直腸内与薬・点眼ができる。 5. 吸入、塗布・塗擦の方法と援助がわかる。	1. 経口与薬法 2. 筋肉内注射法 3. 点滴静脈内注射法 4. その他の与薬法 直腸内与薬法、点眼法、吸入法、塗布・塗擦法			

診療に伴う援助技術演習（実技）

使用テキスト

深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社
深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

事前・事後学習教材

「看護基本技術」「日常生活の援助技術」で使用したノートや資料を参考にする。
図書館にある参考図書・DVD・ビデオ、e-ラーニング（ナーシングスキル）を活用する。

評価方法

2月に実技試験(100点満点)を行う。

演習時の留意点

- 1) 事前学習をして臨む。
- 2) 必要物品の準備、身だしなみを整えて臨む。
- 3) デモンストレーションでは、教員の動きや、対象への配慮をどのように行っているかを注意深く見て学ぶ。
- 4) 適切な技術を身につけられるよう不明点や疑問点を教員に確認する。
- 5) 看護師役、患者役を通して気づいた点を互いに意見交換する。
- 6) 事後学習及び自己学習に励み、各単元の技術を習得したうえで次回の演習に臨む。

留意事項

遠隔授業または課題授業になる場合があります。
授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

フィジカルアセスメント		単 位 数	1	時 間 数	15
1 年次 11月開講～2月終講					
担当講師 伊藤美鈴 他					
科目目標 1. フィジカルアセスメントの技術を学ぶ。 2. アセスメントの方法、身体検査の技術とその診査技術の意味を学ぶ。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解する。 フィジカル・イグザミネーションの技術について理解する。	1. 看護におけるフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの意義 2. フィジカルアセスメントの基本原則 3. フィジカルアセスメントの基本技術 1) 5つの基本技術 2) フィジカルアセスメントの進め方 4. フィジカルアセスメントの実際 1) 健康歴の聴取 (1) 一般状態のアセスメント (2) 系統別アセスメント		
2～8	演習	問診・視診・触診・打診・聴診によるフィジカルアセスメントの技術を学ぶ。	1. 皮膚・爪・頭頸部のフィジカルアセスメント 2. 鼻・口腔・頸部のフィジカルアセスメント 3. 眼・耳のフィジカルアセスメント 4. 胸部（呼吸）・心血管系のフィジカルアセスメント 5. 腹部、乳房、腋窩のフィジカルアセスメント 6. 関節・筋肉のフィジカルアセスメント 7. 神経系のフィジカルアセスメント		
使用テキスト及び配布資料 小野田 千枝子：実践 フィジカル・アセスメント 金原出版 必要な資料は、随時配布します。					
評価方法 2月に筆記試験（100点満点）を行う。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

成人看護学

1. 目的 成人期にある対象の健康の保持増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護を実践できる基礎的能力を養う。

2. 目標
- 1) 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。
 - 2) 成人期の対象の看護に有用な主な理論や考え方を理解する。
 - 3) 成人期の生活過程を理解し、健康の保持増進、疾病予防のための援助を理解する。
 - 4) 急激に心身の変化をきたす対象に対して、生体の侵襲を最小にし、生命維持に必要な看護を理解する。
 - 5) 周手術期の対象に対して、手術による生体の侵襲を最小にし、健康回復のために必要な看護を理解する。
 - 6) 生涯にわたりセルフケアを必要とする対象に対して、社会生活を継続していくための看護を理解する。
 - 7) 機能障害をもつ対象に対して、リハビリテーションの意義と円滑な社会復帰をめざした看護を理解する。
 - 8) 緩和・終末期ケアを必要とする対象に対して、心身の苦痛を緩和し、残された日々を有意義に過ごすための看護を理解する。
 - 9) 成人期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護の実践ができる。

3. 構成

成人看護学	講義	6単位 (180時間)		
		成人看護学概論	1単位 (30時間)	(1年次)
		急性期看護	1単位 (30時間)	(2年次)
		周手術期看護	1単位 (30時間)	(2年次)
		慢性期看護	1単位 (30時間)	(2年次)
		リハビリテーション看護	1単位 (30時間)	(2年次)
		緩和・終末期看護	1単位 (30時間)	(2年次)
	臨地実習	6単位 (270時間)		
		成人看護学実習1	3単位 (135時間)	(2年次)
		成人看護学実習2	3単位 (135時間)	(3年次)

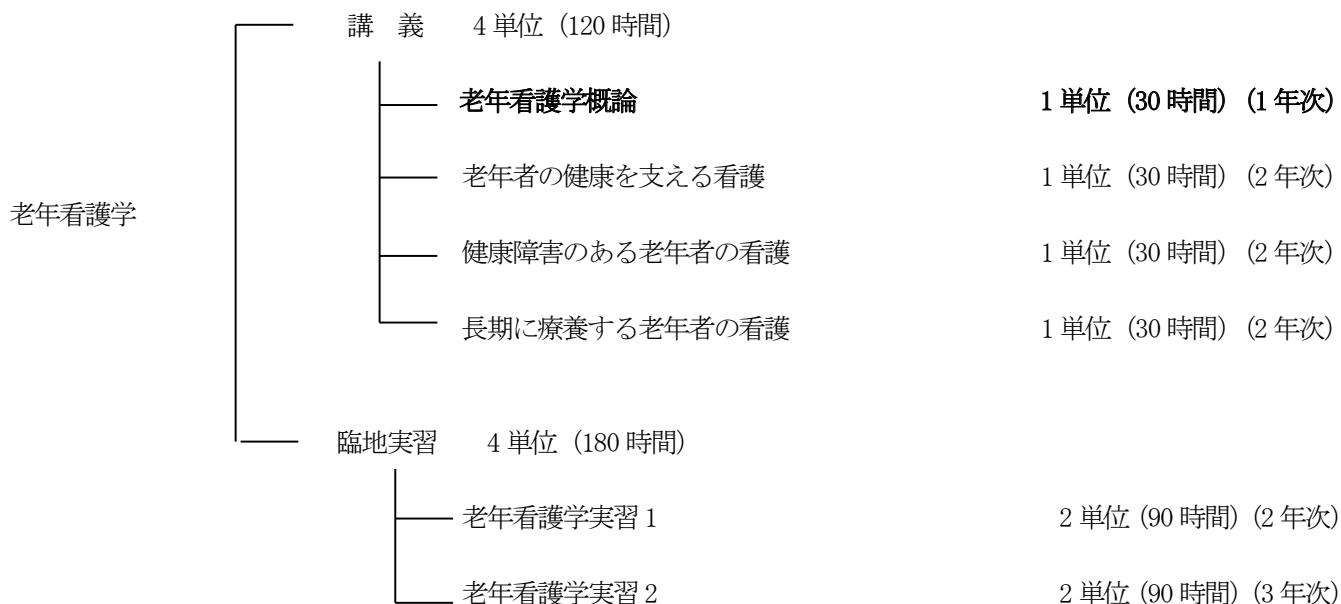
成人看護学概論			単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 9月～2月開講						
担当講師 佐藤千恵子 伊藤美鈴						
科目目標 1. 成人看護の対象と特性を学び、成人看護の意義・役割を理解する。 2. 成人保健の動向について学び、成人期の健康保持増進の対策と看護の意義・役割を理解する。 3. 成人看護に用いられる主な看護理論を理解する。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1～3	講義	成人看護学の理念と枠組みが理解できる。 成人期にある対象の成長と発達を理解できる。	1. 成人看護学の枠組み 1) 健康レベルによる枠組みの概要 2. ライフサイクルからみた成人期の特性 1) 身体・生理的側面 2) 知的・認知的側面 3) 心理・社会的側面 3. 成人期の成長・発達過程と発達課題 1) 成人期の区分(青年期・壮年期・向老期) 2) エリクソン・ハヴィガースト・レビンソンの理論 4. 成人各期の特徴および健康問題			
4・5	講義	成人期の生活と健康、健康破綻と看護が理解できる。	1. 成人の生活と健康問題 1) 生活習慣に関連する健康問題 2) 職業に関連する健康問題 3) ストレスに関連する健康問題			
6～8	講義	成人保健の意義と動向が理解できる。 成人期の健康保持増進のための看護の意義と役割が理解できる。	1. 成人保健活動の意義 2. ヘルスプロモーション 1) WHOのヘルスプロモーションの考え方 3. 健康指標にみる成人の特徴 1) 人口静態統計からみた特徴 2) 人口動態統計からみた特徴 4. 成人の社会生活の動向			
9～11	講義	成人期の保健対策の概要が理解できる。	1. 成人期の保健対策の動向 1) 一次予防・二次予防・三次予防 2) 成人保健に関わる対策の概要 3) 健康日本2 1 4) 健康増進法 2. 成人期の保健対策の実際と看護			
12～15	講義	成人看護に用いられる主な看護理論が理解できる。	1. 成人看護に用いられる主な理論 1) 危機 2) 適応 3) 病みの軌跡 4) セルフケア 5) 自己効力 6) アドヒアランス			
使用テキスト及び配布資料 大西 和子他 成人看護学 成人看護学概論 ノーヴェルヒロカワ 厚生統計協会：国民衛生の動向 2021 / 2022						
評価方法 2月に筆記試験(100点満点)を行う。						
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。						

老年看護学

1. 目的 老年期にある対象の特徴を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた老年者とその家族および支える人々の看護について学ぶ。

2. 目標
- 1) 生活する高齢者を総合的にとらえ、老年看護の対象を理解する。
 - 2) 社会構造の変化・高齢化に伴う老年者の保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。
 - 3) 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を理解する。
 - 4) 加齢・健康障害の程度に応じた高齢者と家族に必要な看護を理解する。
 - 5) 老年看護に必要な基本的な看護技術を習得する。
 - 6) 老年期にある対象の特徴と健康障害による問題を理解し、対象に応じた援助ができる。

3. 構成



老年看護学概論		単 位 数	1	時 間 数	30
1年次 9月開講～2月終講					
担当講師 河野直美 齊藤真梨恵					
科目目標 1. 生活者としての高齢者を総合的にとらえ、老年看護の対象を理解する。 2. 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。 3. 老年看護の機能と役割を理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～3	講義	老年期を生きる人々の特徴を理解する。	1. 老年期の理解 1) ライフサイクルから (1) 老年期の定義 (2) 加齢と老化 2) 人口学的指標・健康指標から (1) 高齢者人口の推移 (2) 前期・後期高齢者人口の年代別構成 (3) 性差・地域格差 (4) 平均寿命・疾病構造と有病率・有訴率・受療率 (5) 死亡率・死因 3) 生活の視点から (1) 生活のリズムと生活習慣 (2) 役割と社会活動・余暇活動 (3) 家族・世帯構成 (4) 住宅と環境 (5) 就労・雇用、収入・生計 2. 老年期を生きる人々の特徴 1) 老年期の発達と成熟 (1) 老年期の発達課題 (2) 喪失体験 2) 高齢者の多様性 (1) 高齢者の人生と経験の意味 (2) 高齢者の生活史 (3) 価値観・生活習慣・生活様式の多様化		
4～6	講義	老年期を生きる人々の健康を理解する。	3. 老年期を生きる人々の健康 1) 加齢に伴う変化の特徴 (1) 身体的機能の変化 (2) 精神的機能の変化 (3) 社会的機能の変化 2) 高齢者の健康 (1) 高齢者の健康の特徴 (2) 生きがいと生活の満足感 (3) 健康障害の特徴		

老年看護学概論

7	演習		4. 高齢者の擬似体験
8	講義	高齢者を取りまく保健・医療・福祉の動向と対策を理解する。	5. 高齢者を取りまく社会の理解 1) 高齢社会の到来（高齢社会とは）
9～11	講義	高齢者を取りまくソーシャルサポートシステムを理解する。	6. 高齢者の保健・医療・福祉の動向 1) 高齢者保健福祉の動向 2) 高齢者医療の動向 3) 高齢者のソーシャルサポートシステム 4) 介護保険制度と高齢者の生活 5) 高齢者の保健活動の意義
12・13	講義	高齢者各期の看護の特徴を理解する。	7. 高齢者の保健医療福祉と看護の役割 1) 在宅で療養する高齢者の看護 2) 長期療養を主とする施設や病院での看護の役割 3) 早期回復を主とする治療の場での看護の役割 4) 高齢者と家族
14	講義	高齢者の人生の質の保証と倫理的課題を理解する	8. 老年看護における倫理的課題 1) 権利擁護・自己決定権 2) 虐待と拘束 3) 成年後見制度
15	講義	老年看護の原理と目標を理解する。	9. 老年看護の原理・目標・特性 1) 高齢者への看護を検討する上での4つの要素 2) 老年看護の特徴 3) 老年看護に携わる責務

使用テキスト及び配布資料

北川公子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
厚生統計協会：国民衛生の動向

授業を受ける際の留意点

- ・身近にいる高齢者に、生きてきた時代のこと、ライフヒストリー、身体の変化、生活の大変さなどを積極的に聞くように努め、高齢者の理解を深めましょう。
- ・医療・保健・福祉を取りまく社会の動向、介護保険、医療保険、年金などの変化はめざましいので情報に関心を持つように心がけましょう。

評価方法

課題レポートと2月の筆記試験で評価を行う。

留意事項

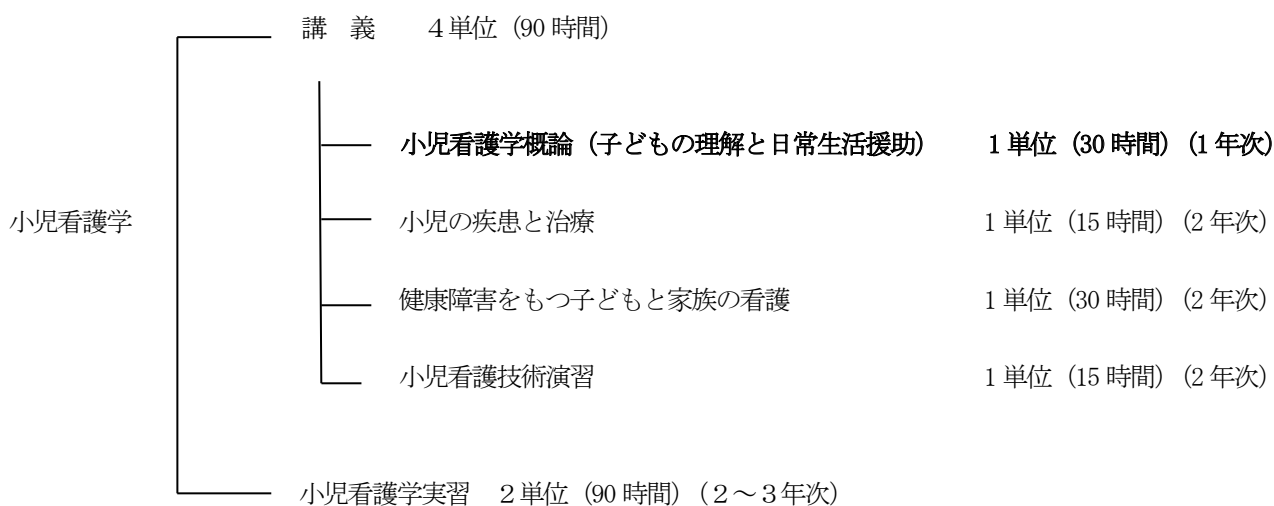
遠隔授業または課題授業になる場合があります。
授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

小児看護学

1. 目的 小児看護の対象となる子どもおよびその家族を理解し、成長発達に応じた養護と健康を障害された子どもおよびその家族に対する看護の基本となる知識、技術、態度を養う。

2. 目標
- 1) 子どもの成長発達の特徴と子どもを取り巻く環境を理解し、小児看護の目的および役割について理解する。
 - 2) 健康な子どもの日常生活の特徴を理解し、対象に応じた看護ができるための基本的知識と技術を習得する。
 - 3) 子どもに特有な健康障害の問題（疾患・主要症状）を理解する。
 - 4) 健康を障害された子どもとその家族に看護ができるように基本的知識と技術を習得する。
 - 5) 対象の特徴を理解し、成長発達を促すとともに、健康障害のある子どもとその家族への看護ができる。

3. 構成



小児看護学概論		単 位 数	1	時 間 数	30
1年次 9月開講～2月終講					
担当講師 吉田恵美					
科目目標 1. 小児看護の対象である子ども、子どもをとりまく環境および小児看護の目的・役割について理解する。 2. 小児保健・医療の動向について学び、小児期の健康の保持増進と看護の役割について理解する。 3. 小児期の成長発達について理解する。 4. 小児各期の日常生活の援助について理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～3	講義	小児の特性を捉えることができる。 看護・医療における法律、看護における倫理的配慮について理解できる。	1. 小児の特性 2. 小児看護・医療の歴史 3. 子どもの権利条約、児童憲章 4. 小児看護の対象と目標		
4・5	講義	小児保健・医療の動向についての問題を捉え、看護の役割について理解できる。	1. 出生と家族にかかわる統計 2. 小児看護・医療における法律 母子保健法・児童福祉法・児童虐待の予防と防止に関する法律・学校保健安全法 (引きこもり・自殺の予防) 予防接種法 3. 小児の事故防止と安全教育 4. 難病・障害児保健福祉 (児童発達支援・特別支援教育)		
6～9	講義	小児各期の形態的・機能的発達の特徴が理解できる。	1. 成長発達の概念と定義 成長の区分、成長発達の原則 2. 身体生理的特徴 呼吸機能、循環機能、体温調節機能、消化機能、体液生理・血液、免疫機能、神経系 3. 形態的特徴 身長、体重、頭囲、胸囲、身体バランス、骨の発育 生歯、生殖の発達		
10・11	講義	小児の精神・運動機能発達の特徴が理解できる。	1. 機能的特徴 運動機能、思考と認知機能、感覚機能、コミュニケーション機能、情緒・社会機能、視力・聴力の発達 2. 成長・発達の評価 身体発育評価・発達スクリーニング検査 発達指数評価・肥満度 3. 小児の環境が発達に与える影響 家庭・養育・社会環境		
12～15	講義	小児期の成長発達について理解し、小児各期の日常生活の援助について理解できる。	1. 基本的な生活習慣の獲得 清潔・衣服の着脱・睡眠・排泄・食事行動の発達 2. 子どもの栄養・食べる機能の発達 3. 子どもの遊びの意義と特徴 遊び・学びの機能 心身の発達・対人関係からみた遊び		

小児看護学概論

使用テキスト及び配布資料

奈良間美保他：小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院
奈良間美保他：小児看護学各論 小児看護学② 医学書院
厚生統計協会：国民衛生の動向

評価方法

2月に筆記試験（100点満点）を行う。

留意事項

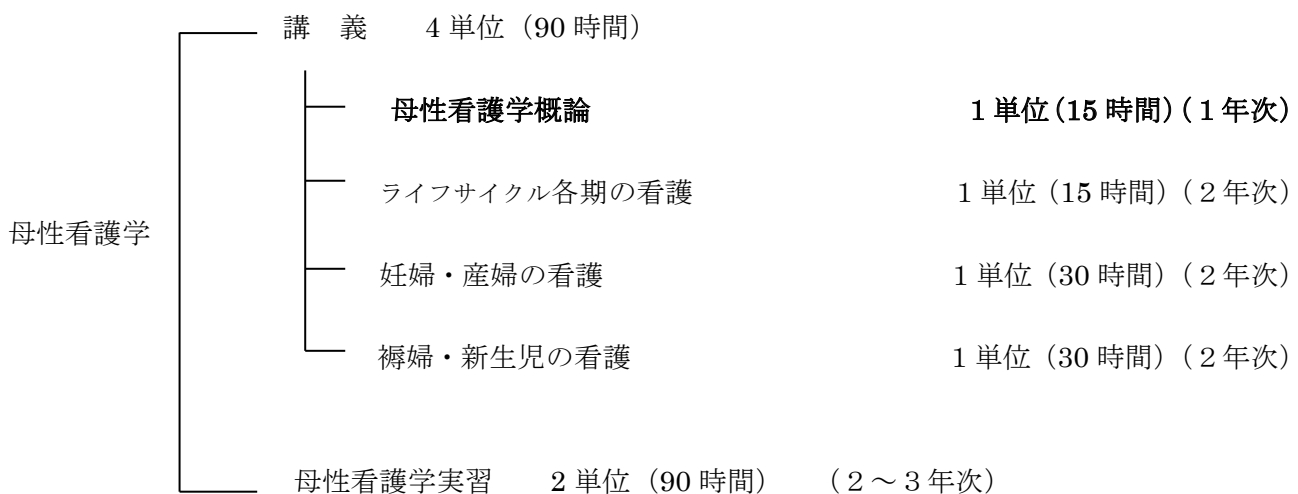
遠隔授業または課題授業になる場合があります。
授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

母性看護学

1. 目的 人のもつ種族保存の働き（生殖）とその意義、女性のライフサイクル各期における特徴と保健を理解するとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の看護を実践するための基礎的知識、技術、態度を養う。

2. 目標
- 1) 人の種族保存あるいは生殖の意義を理解すると共に母性の概念および母性の特性を知り、母性看護の目的を理解する。
 - 2) 母性看護の対象となる人のライフサイクルにおける特徴と看護を理解する。
 - 3) 周産期の生理を理解し、周産期にある母性と胎児および新生児、そして家族を対象とし健康問題を解決するための援助、および方法を理解する。
 - 4) 周産期にある母性および新生児の特徴を理解し、対象に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う。

3. 構成



母性看護学概論		単 位 数	1	時 間 数	15
1 年次 1 1 月開講～2 月終講					
担当講師 加藤章子					
科目目標 1. 母性の概念および意義を理解し、対象を理解する。 2. 母性保健の現状と今後の動向について学び、母性の保健対策の概要と看護の役割について理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	母性とは何かを幅広く考え、母性をめぐるさまざまな定義を理解できる。また母子関係形成の重要性や親役割過程について理解できる。	I. 母性看護の基盤となる概念 1. 母性の概念 1) 母性の定義 2) 「母性」は女性だけのものか 3) 母性看護における母性 2. 母子関係形成と母親役割獲得過程 1) 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2) 親役割獲得過程(母親及び父親) 3) 家族発達		
2	講義	人間の性と生殖について理解できる。	3. 人間の性と生殖 1) セクシュアリティ 2) 生殖の形態と機能 3) 性アイデンティティ		
3	講義	リプロダクティブ・ヘルス/ライツを踏まえた母性看護の役割について理解できる。	4. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 5. ヘルスプロモーション 6. 母性看護のあり方		
4	講義 討議	母性看護における生命倫理について考えを深めることができる。	II. 母性看護における倫理 1. 母性の権利と擁護 2. 母性看護における生命倫理諸問題		
5・6	講義	母子保健の動向を踏まえ、母性看護に関する組織や法律、母子保健施策の観点から、母性看護の現状を理解できる。	III. 母性看護の歴史的変遷と現状 1. 母性看護の変遷 2. 母子保健統計から見た動向 3. 母性看護に関係する主な組織と法律 4. 母子保健施策から見た現状 5. 母性看護活動の場と職種 6. 母性看護を取り巻く環境		
7・8	講義 討議	母性看護を取り巻く環境と女性の健康に生影響を及ぼす要因を理解し、リプロダクティブヘルスケアについて考えを深めることができる。	IV. リプロダクティブヘルスケア ～女性の生涯を通じた健康の保持・増進～		
使用テキスト 森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 厚生統計協会：国民衛生の動向 必要な資料は、随時配布します。					
授業を受ける際の留意点 母性に関連する最新情報や動向を新聞・雑誌・テレビ・インターネット等でキャッチしてください。自分自身の母性についても認識し、日常生活の中で健康管理できるようにしましょう。					
評価方法 筆記試験(2月)+課題レポートで評価する。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

2 年次

麻酔と手術療法			単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～9月終講						
担当講師 木山秀哉 川瀬和美 松平秀樹 古川賢英 後町武志 塩谷尚志 谷島雄一郎 小菅 誠 松村洋高 万代康弘 有村大吾 平田幸広 児玉智信 本田真理子						
科目目標 手術療法を必要とする主な疾患の病態生理、検査、治療を理解する。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1・2	講義	手術療法の基礎知識が理解できる。	1. 手術療法の基礎 1) 手術療法とは 2) 手術侵襲と生体反応 2. 手術療法の主な合併症 1) 呼吸器合併症 2) 循環器合併症 3) 消化器合併症 4) 創傷治癒過程と創感染			
3	講義	麻酔法の基礎知識が理解できる。	1. 全身麻酔と局所麻酔 2. 手術療法に伴う全身管理 1) 一般血液検査、呼吸機能、心機能、肝機能、腎機能 2) 呼吸・循環管理（酸素療法、体液管理など） 3) 疼痛管理（PCA法、術後訪問の実際）			
4	講義	頸部・甲状腺・乳房の手術療法が理解できる。	1. 甲状腺腫瘍 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 乳がん 1) 病態と検査（マンモグラフィー） 2) 主な手術と術後管理			
5	講義	肺・縦隔部の手術療法が理解できる。	1. 肺がん 1) 病態と検査（胸部レントゲン・CTの特徴と見方） 2) 主な手術と術後管理 2. 縦隔腫瘍 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 3. 気胸 1) 病態と検査（胸部レントゲンの特徴と見方） 2) 胸腔ドレナージ			
6	講義	食道・胃・十二指腸の手術療法が理解できる。	1. アカラシア・食道裂孔ヘルニア・食道がん 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 胃がん 1) 病態と検査（腹部レントゲン・CTの特徴と見方） 2) 主な手術（開腹術・腹腔鏡）と術後管理			
7	講義	肝臓・胆管・胆嚢の手術療法が理解できる。	1. 肝臓がん 1) 病態と検査（腹部レントゲン・CTの特徴と見方） 2) 主な手術と術後合併症・術後管理 2. 肝移植 1) 対象となる主な疾患と術後管理 3. 胆石症 1) 病態と検査（腹部レントゲン・CTの特徴と見方） 2) 主な手術と術後管理			
8	講義	小腸・大腸・直腸・肛門部の手術療法が理解できる。	1. 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病） 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 結腸がん・直腸がん 1) 病態と検査（腹部レントゲン・CTの特徴と見方） 2) 主な手術と術後管理			

麻酔と手術療法

9	講義	心臓血管系の手術療法が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査（冠動脈造影、心エコーなど） 主な手術（冠動脈バイパス術・カテーテル治療 PCI）と術後管理 弁膜症 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査 主な手術（弁置換術・形成術）と術後管理 大動脈瘤 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査 主な手術（人工血管置換術、血管内治療）と術後管理
10	講義	膵臓・脾臓の手術療法が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 膵臓がん <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査 主な手術と術後管理 脾臓摘出術 <ol style="list-style-type: none"> 対象となる主な疾患と手術
11	講義	救命救急の特性と治療が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 救命救急の特性 主要病態に対する救急処置 出血、熱傷、外傷、ショック、けいれんなど
12	講義	女性生殖器の手術療法が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 子宮筋腫、子宮内膜症 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査 主な手術と術後管理 子宮がん <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査（内診、膣鏡診、経膣超音波検査など） 主な手術と術後管理
13	講義	骨・関節・筋肉の手術療法が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 大腿骨頸部骨折、上腕骨骨折 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査（レントゲンの特徴と見方） 主な手術と術後管理 椎間板ヘルニア <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査 主な手術と術後管理 変形性関節症 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査 主な手術と術後管理
14	講義	腎・泌尿器系の手術療法が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 腎腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査 主な手術と術後管理 膀胱腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査 主な手術と術後管理 前立腺肥大症、前立腺がん <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査 主な手術と術後管理
15	講義	脳神経疾患の手術療法が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 頭部外傷 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査（頭部 CT、MRI の特徴と見方） 主な手術（血腫ドレナージ）と術後合併症・術後管理 脳腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査（頭部 CT、MRI の特徴と見方） 主な手術と術後管理 脳血管疾患 <ol style="list-style-type: none"> 病態と検査（頭部 CT、MRI の特徴と見方） 主な手術と術後管理（脳室ドレナージなど）
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学10 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学8 腎泌尿器 医学書院		
評価方法	9月に筆記試験（100点満点）を行う。		
留意事項	遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。		

環境保健論	単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～9月終講				
担当講師 柳澤裕之 須賀万智 与五沢真吾 山内貴史 木戸尊將 島崎崇史 中村杏菜				
科目目標 人間をとりまく社会環境と健康との関わりを理解するとともに公衆衛生的なものの見方・考え方を身につける。				
講義内容	<p>環境保健論は、健康およびその成立条件の追求のための科学・技術である。その領域は広く、生活環境の諸条件を物理学的・化学的・生物学的に捉え健康への影響との関わりを考えるとともに、ヒトとの関係においても個人・家族・地域社会および国民や地球規模での健康影響を包括的に捉えられるようにする。さらに、健康からの偏りの予防、積極的な健康推進のために公衆衛生的な把握・評価方法・対策等についても理解を深めることに重点を置いて学習する。</p> <p>具体的には、病院での看護業務をはじめとして地域での保健活動、在宅医療、学校保健活動、職場での産業看護活動等を実践する上で、基礎医学、臨床医学のみならず医学全般に精通し、公衆衛生的思考のできる看護師になるための基本的な知識と技術を習得し、応用力を養う。</p> <p>講義項目は以下の通りである。</p> <p>環境保健論概論 疫学 社会保障と医療経済、障害福祉、精神福祉 成人保健と健康増進、栄養、地域保健、在宅医療、国際保健、母子保健、学校保健、環境保健、水俣病のビデオ 高齢者保健、感染症対策、食品保健、産業保健総論、職業性疾病、産業中毒 医の倫理と患者の人権、終末期医療と死の概念、医療の質と安全の確保、医療法と医療体系、医療計画、医療従事者の現状、救急医療と災害医療、へき地医療</p>			
使用テキスト 1) 公衆衛生がみえる 第5版 メディックメディア 2) 厚生統計協会：国民衛生の動向 を使用します。 その他必要に応じてプリントを配布します。				
評価方法 9月に筆記試験（100点満点）を行う。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

臨床心理	単 位 数	1	時 間 数	15
2年次 4月開講～9月終講				
担当講師 高崎恵美				
科目目標 心の問題や葛藤をもつ人々に対しての援助的関わりを学ぶ。				
講義内容	<p>現代社会は、「こころの時代」とか「癒しの時代」とか言われている。一方で、高度情報化や家族形態の変化に伴う人間関係の希薄さが指摘され、発達障害への対応、犯罪や虐待などによる被害者のケア、高齢者ケア、更に不況による失業者の増大に伴う中年層の自殺率増加の防止など、様々な課題を抱えている。そして、このような問題は個々人の心理的状态と深く関連している。</p> <p>臨床心理学とは、問題を抱える人の心理状態を理解すること、問題の解決や改善、回復を援助することを目指す学問である。また、人々の精神的健康の増進に貢献することを目指す心理学の一分野である。つまり、「なぜ自分がこのような辛い思いをしなければならないのか？」という問いに苦しむ人の傍らにいて、その人が自分なりの答えを見出し、解決していくのを援助する学問といえよう。</p> <p>本講義で臨床心理学の基礎を学習し、心理学的援助の取り組みを看護の実践に活かしていただきたい。</p> <p>I. 臨床心理学とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の目的 2. 生物・心理・社会モデル 3. 臨床心理学の実践活動 <p>II. 心理アセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントとは何か 2. 面接法 3. 観察法 4. 検査法 5. 精神科領域でよく用いられる心理検査 <p>III. 心理療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合的視点 2. 精神分析 3. クライアント中心療法 4. 認知行動療法 5. 森田療法 6. 遊戯療法 7. 箱庭療法 8. 自律訓練法 9. 集団療法 10. コミュニティ心理学と予防 11. 危機介入とコンサルテーション 12. 心理教育・SST 13. リハビリテーション 14. デイケア 			
評価方法 終講試験（100点満点）と出席状況で総合的に評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

人間関係論		単 位 数	1	時 間 数	15
2年次 4月開講～12月終講					
担当講師 伊藤美鈴 他					
科目目標 文献を通して自己の看護について振り返りを行い、看護についての理解を深める。					
講義内容	【指定文献】 * デビット・アウグスバーガー著：親身に聞く 【学習方法】 1. 個人学習（8時間） 1) 本文全体を読み、第2章、第3章、第4章を要約し、感想をノートに記載し、夏期休暇明けに提出する。 2) 基礎看護学実習2終了後、1)でまとめたノートに、臨地実習での体験や学びを追記して提出する。 2. グループワーク（8時間） 1) 学生のみ（2時間） 基礎看護学実習2での体験や学びを追記したノートをもとに、話し合うテーマを決定する。 2) 各担当教員が加わる（6時間） 基礎看護学実習2での体験や指定文献の学びをもとに、テーマについて話し合う。 3. 個人学習とグループワークの学びをもとにレポートする。 学校指定用紙1枚以上を指定した期日までに提出する。				
評価方法 ・* 指定文献は、教材として4月に全員に配布する。 ・要約、感想を記載したノートの提出、出席、グループワークの参加態度、課題レポートの内容を合わせて評価する。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

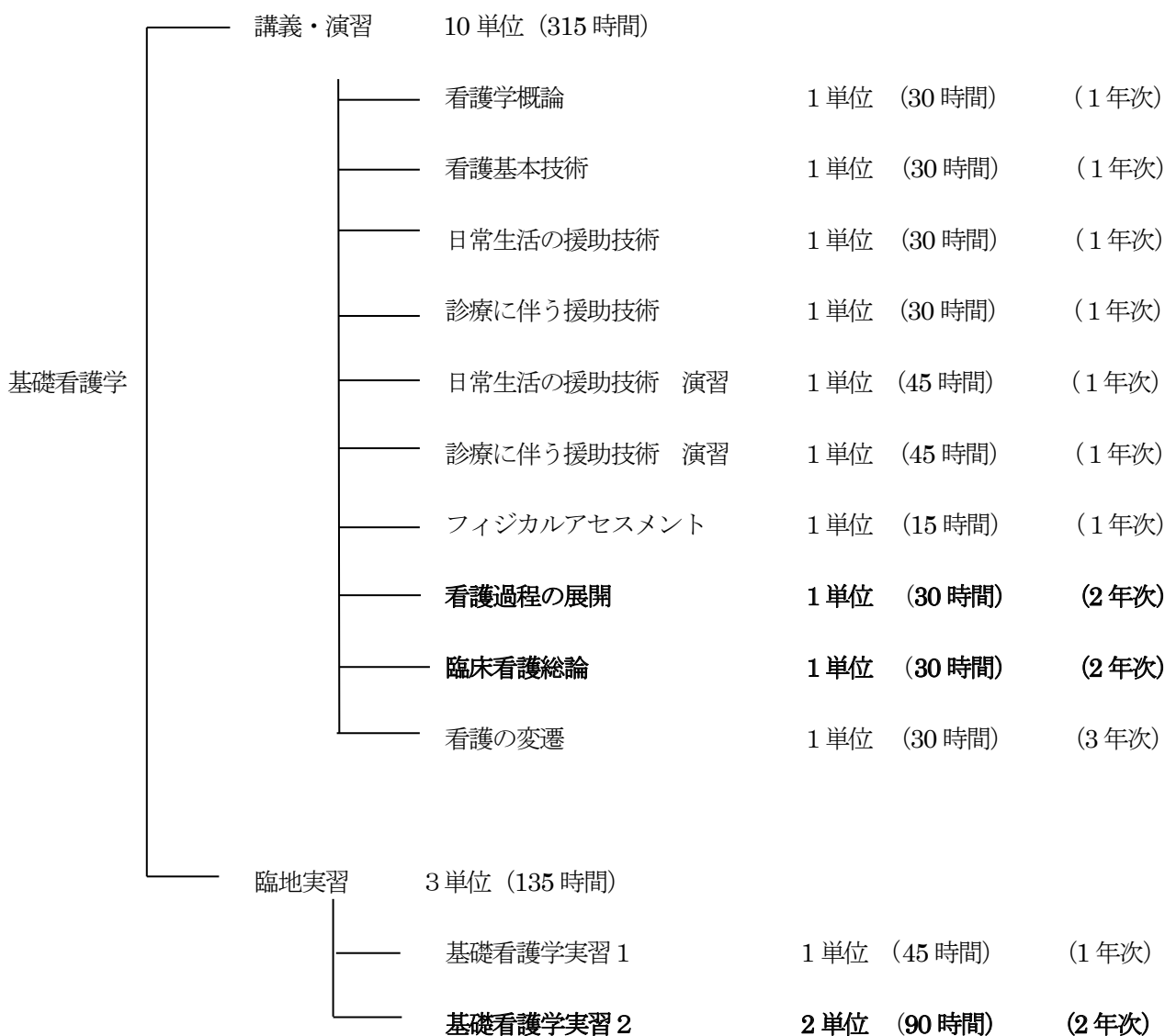
社会福祉	単 位 数	1	時 間 数	30
1 年次 4 月開講～9 月終講				
担当講師 高山直樹				
科目目標 わが国の社会保障、社会福祉の歴史・制度を理解する。 看護・医療・福祉等の連携を理解する。				
講義内容	<p>本講では、保健、医療、看護、福祉の連携や多職種の連携をキーワードとして、社会保障や社会福祉の制度に関する知識を修得していく。特に、地域包括ケアの流れのなかでの社会福祉と看護のあり方を掘りさげていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ～社会福祉とは何か～ 2. 現代社会における社会福祉の問題 3. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 4. 社会福祉の分野とサービスの概要（1） 5. 社会福祉の分野とサービスの概要（2） 6. 医療、看護、保健、福祉の連携 7. 公的扶助 ① 貧困・低所得問題 8. 公的扶助 ② 生活保護制度 9. 高齢者・障がいのある人の生活問題 10. 介護の現状と介護保険 11. 子育て家庭の現状と子育て支援 12. 児童虐待問題 13. 学校の児童生徒の諸問題と社会福祉援助 14. 医療ソーシャルワーカーの役割 15. まとめ 			
使用テキスト 毎回、資料を配布する。				
学習上の注意点 主体的な授業の参加を求める。				
評価方法 終講試験と平常点（授業内レポートと受講態度）により、総合的に評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

基礎看護学

1. 目的 人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目標
- 1) 看護の対象である人間を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。
 - 2) 看護の歴史の変遷を理解し、専門職業人としての自覚を高める。
 - 3) 看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。
 - 4) 物事を科学的、論理的に見つめる考え方を養う。
 - 5) 対象に応じた援助技術を習得する。
 - 6) 対象に応じた看護過程の必要性を理解できる。

3. 構成



看護過程の展開			単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～7月終講						
担当講師 森美由紀 前田聡子 他						
科目目標 看護過程の概念を理解し、看護過程展開に必要な知識・方法を学ぶ。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1～6	講義	1. 看護過程の意義と概念を理解する。 2. 看護過程の展開方法を理解する。	1. 看護過程の概念と意義 1) 看護過程の意義 2) 看護過程の構成要素 3) 看護過程の意義と必要性 4) 看護過程の展開に必要な技術 2. 看護過程の展開方法 1) アセスメントの目的と方法 (1) 情報収集 (2) 情報の分析：分析の概要 2) 看護計画 (1) 看護目標 (2) 優先度の決定 (3) 看護目標の立体的構造 3) 実施 4) 評価			
9～15	演習 GW	事例を通して看護過程の展開ができる。	【アセスメント：情報収集】 1. 情報収集の内容と方法について 2. 看護日誌、医師の指示簿、カルテ（検査結果伝票・処方箋・食事箋）、体温表などからの情報収集の実際 3. 情報の記載 得た情報の整理 4. 模擬患者、家族、看護師からの情報収集 【アセスメント：分析】 1. 「対象の障害された機能が全身に及ぼす影響」から考えられる問題を挙げ、「回復過程をたどるために必要な条件」を明確にする。 2. 「日常生活の規制、患者・家族の反応、援助の方向性」を見出す。 3. 1と2を統合し優先順位を決定する。 【看護計画】 1. 対象の実現可能な上位目標を設定し、中位目標を整理する。 2. 下位目標を設定する。			
使用テキスト 薄井坦子 科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会						
参考図書 薄井坦子「何がなぜ看護の情報なのか」 日本看護協会出版会						
評価方法 課題提出状況、グループワークの参加度、出席を統合して評価する。						
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。						

臨床看護総論			単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 5月開講～12月終講						
担当講師 徳永久美子 大滝佐織 他						
科目目標 1. 看護の場、対象に応じた指導ができるよう指導方法の基本を習得する。 2. 健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた援助を学ぶ。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1・2	講義	1. 看護の機能における保健指導の必要性と指導方法について学ぶ。	1. 患者指導と援助技術 1) 患者指導の意義、必要性 2) 患者指導のねらい 3) 患者指導の基本姿勢 4) 患者指導のアセスメント 5) 指導の原則 6) 指導の手段 7) 指導技術の基礎			
3～9	GW 演習	1. 健康障害をもつ成人期にある対象の看護過程の展開ができる。	1. 手術直後の援助 1) 術後ベッドの準備方法 2) 手術直後の対象の観察 3) 早期離床の援助 2. 呼吸器合併症予防のための援助 1) トリフロー・コーチⅡ他 2) 超音波ネブライザー 3. 深部静脈血栓症予防のための援助 1) 弾性ストッキングの装着 2) 下肢の運動 4. 創傷処置 1) 消毒とドレッシング材の交換 5. 胃癌手術後の対象の看護計画立案			
10～15		2. 健康障害をもつ成人期にある対象に必要な看護技術を習得する	1. 糖尿病のある対象の看護計画立案 2. インスリン療法を必要とする対象の看護 1) 血糖自己測定 2) インスリン注射 3. 食事・運動療法を必要とする対象の看護 1) 食事療法の献立作成 2) 食事・運動療法の低位目標立案 4. 指導案作成・発表			
使用テキスト 黒江ゆり子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 日本糖尿病学会編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 文光堂 矢永勝彦、高橋則子編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 北島政樹、江川幸二編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 松田明子、永田博司編：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院						
評価方法 課題レポート、授業の参加度、出席など総合して評価する。						
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。						

成人看護学

1. 目的 成人期にある対象の健康の保持増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護を実践できる基礎的能力を養う。

2. 目標
- 1) 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。
 - 2) 成人期の対象の看護に有用な主な理論や考え方を理解する。
 - 3) 成人期の生活過程を理解し、健康の保持増進、疾病予防のための援助を理解する。
 - 4) 急激に心身の変化をきたす対象に対して、生体の侵襲を最小にし、生命維持に必要な看護を理解する。
 - 5) 周手術期の対象に対して、手術による生体の侵襲を最小にし、健康回復のために必要な看護を理解する。
 - 6) 生涯にわたりセルフケアを必要とする対象に対して、社会生活を継続していくための看護を理解する。
 - 7) 機能障害をもつ対象に対して、リハビリテーションの意義と円滑な社会復帰をめざした看護を理解する。
 - 8) 緩和・終末期ケアを必要とする対象に対して、心身の苦痛を緩和し、残された日々を有意義に過ごすための看護を理解する。
 - 9) 成人期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護の実践ができる。

3. 構成

成人看護学	講義	6単位 (180時間)		
		成人看護学概論	1単位 (30時間)	(1年次)
		急性期看護	1単位 (30時間)	(2年次)
		周手術期看護	1単位 (30時間)	(2年次)
		慢性期看護	1単位 (30時間)	(2年次)
		リハビリテーション看護	1単位 (30時間)	(2年次)
		緩和・終末期看護	1単位 (30時間)	(2年次)
	臨地実習	6単位 (270時間)		
		成人看護学実習1	3単位 (135時間)	(2年次)
		成人看護学実習2	3単位 (135時間)	(3年次)

急性期看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～9月終講					
担当講師 前田聡子 他					
科目目標 1. 身体の危機的な状況にある対象の特徴と看護の役割を理解する。 2. 重篤で急激に変化する対象の状態を身体・精神・社会的側面からアセスメントし、生命維持に必要な看護を理解する。 3. 感染症に対する社会的問題をふまえ、感染症に罹患した対象の看護について理解する。 4. 救急医療・看護体制をふまえ、迅速で適切な救命処置と看護について理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	急性期看護の概念が理解できる。 急性期看護を必要とする対象の特徴が理解できる。	1. 急性期看護の考え方 1) 急性期看護とは 2) 急性期看護における倫理 2. 急性期にある対象の特徴と理解 1) 急な発症における身体的反応 2) 急な発症における心理的反応		
2	講義	急性期看護に用いられる主な概念と看護活動が理解できる。	3. 急性期にある対象への看護援助 1) 急性期援助に必要な概念 2) 急性期の看護活動		
3～5	講義	急性の循環機能障害のある対象の看護が理解できる。	4. 急性の循環機能障害のある対象の看護 1) 急性心筋梗塞の対象の看護 (1) 心筋梗塞の病態生理、アセスメント (2) 急性心筋梗塞の対象の看護		
6～8	講義	急性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護が理解できる。	5. 急性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護 1) 急性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の特徴 2) 内視鏡検査を受ける対象の看護 3) 急性膵炎の対象の看護 (1) 急性膵炎の病態生理、アセスメント (2) 急性膵炎の対象の看護 4) 消化管出血で吐下血のある対象の看護 (1) 吐下血の病態生理、アセスメント (2) 消化管出血で吐下血のある対象の看護		
9	講義	感染症に罹患した対象の特徴と看護の役割について理解する。 多剤耐性菌に罹患した対象の特徴と看護の実際が理解できる。	6. 急性の生体防御機能障害・感染のある対象の看護 1) 感染症に罹患した対象の特徴 2) 感染経路別予防策 3) 多剤耐性菌に罹患した対象の看護 (1) 多剤耐性菌感染の機序、アセスメント (2) 多剤耐性菌に罹患した対象の看護		
10	講義	AIDSに罹患した対象の特徴と看護の実際が理解できる。	4) AIDSに罹患した対象の看護 (1) HIV感染の機序、アセスメント (2) HIV感染者・AIDS患者の療養経過 (3) HIV感染者・AIDS患者の看護		

急性期看護

11	講義	施設内の感染制御と感染制御看護師の役割・看護の実際が理解できる。	<p>7. 感染制御看護と院内感染</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 院内感染とは、院内感染の分類 2) 病院内における感染制御チームの役割 3) 感染制御看護師の役割と看護の実際
12	講義	救急看護の概念や救急看護体制、救急看護の特徴が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急看護の考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急看護の概念 2) 救急医療体制 3) 救急看護における法律と倫理 2. 救急看護を受ける対象の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急患者の特徴 2) 救急患者の家族の特徴 3. 救急看護を受ける対象への看護
13～15	講義	<p>救急看護を必要とする対象と家族の特徴が理解できる。</p> <p>救命救急処置と看護が理解できる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 4. 救急処置と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心肺蘇生法（BLSとALS） 2) 緊急時の基本処置と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 救急患者の搬送 (2) 血管確保 (3) 輸液・輸血 (4) 止血法 (5) 創傷処置 (6) 整復固定 5. 救急看護を受ける対象の主要病態と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 意識障害 2) ショック 3) 外傷 4) 熱傷 5) 熱中症 6) 中毒
<p>使用テキスト</p> <p>大西和子他：成人看護学 成人看護学概論 ニューベルヒロカワ 山勢博彰他：系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 吉田俊子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 南川雅子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 岩田健太郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院</p>			
<p>評価方法</p> <p>9月に筆記試験（100点満点）を行う。</p>			
<p>留意事項</p> <p>遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。</p>			

周手術期看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～9月終講					
担当講師 松澤亜希子 他					
科目目標 1. 周手術期にある対象の特徴と看護の役割を理解する。 2. 周手術期にある対象の身体・精神・社会的な側面からアセスメントできる能力を養う。 3. 手術による生体の侵襲を最小にし、回復に向けた看護を理解する。 4. 手術による変化に適応し、社会復帰できるための看護を理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	周手術期看護の理念と専門性について理解できる。	1. 周手術期看護の考え方 1) 周手術期看護の専門性と看護の役割 2) インフォームドコンセントにおける看護師の役割 3) 周手術期におけるリスクマネジメント		
2・3	講義	手術を必要とする対象の特徴が理解できる。 手術・麻酔による侵襲と全身への影響が理解できる。	2. 周手術期にある対象の特徴と理解 1) 手術を受ける対象の心理的特徴 2) 手術を受ける対象の身体的特徴		
4	講義	心身ともに最良の状態に手術に臨むための援助が理解できる。	3. 手術前の看護 1) 全身状態を整えるための援助 2) 心理状態を整えるための援助 3) 手術前日・当日の援助		
5	講義	手術室における看護の役割が理解できる。	4. 手術中の看護 1) 安全な手術のための環境管理 2) 手術室における看護の展開 (入室前～手術室退室時)		
6～9	講義	術後合併症を予防し、回復に向けた看護が理解できる。 手術後の継続看護について理解できる。	5. 手術後の看護 1) 帰室時の援助 2) 術後疼痛緩和のための援助 3) 呼吸器合併症予防のための援助 4) 循環器合併症予防のための援助 5) 消化器合併症予防のための援助 6) 術後感染症予防のための援助 7) 創傷治癒促進のための援助 6. 手術後の継続看護 1) 手術による変化・喪失の受容支援 2) 社会復帰に向けた援助		
10	講義	集中治療を受ける対象の看護が理解できる。	7. 集中治療を受ける対象の看護 1) 集中治療を受ける場と対象の特徴 2) 集中治療における看護師の役割		
11	講義	乳房切除術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる。	8. 乳房切除術を受ける対象の看護 1) 乳房切除術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助		

周手術期看護

12	講義	開胸術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる。	9. 開胸術を受ける対象の看護 1) 開胸術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助
13	講義	開腹術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる。	10. 開腹術を受ける対象の看護 1) 開腹術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助
14	講義	広汎子宮全摘出術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる。	11. 広汎子宮全摘出術を受ける対象の看護 1) 広汎子宮全摘出術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助
15	講義	開頭術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる。	12. 開頭術を受ける対象の看護 1) 開頭術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助

使用テキスト

矢永 勝彦 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 北島 政樹 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 川村 雅文 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院
 南川 雅子 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
 井手 隆文 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院
 末岡 浩 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院

必要な資料は、随時配布します。

評価方法

9月に筆記試験（100点満点）を行う。

留意事項

遠隔授業または課題授業になる場合があります。
 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

慢性期看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～9月終講					
担当講師 大滝佐織 他					
科目目標 1. 慢性期にある対象の特徴と看護の役割について理解する。 2. 生涯にわたりセルフケアを必要とする対象の健康上の問題をとらえ、対象への看護を理解する。 3. 社会生活を継続していくための社会資源の活用について理解する。 4. 放射線療法・化学療法を受ける対象への看護を理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1・2	講義	1. 慢性期看護の概念が理解できる。 2. 慢性期看護を必要とする対象の特徴と看護が理解できる。	1. 慢性期の考え方 1) 慢性期看護とは 2) 慢性期疾患の特徴 3) 生活習慣病の予防とヘルスプロモーションの促進 2. 慢性期にある対象の特徴と理解 1) 慢性期にある対象の心理・社会的特徴 2) 疾病がライフサイクルに及ぼす影響 3) 疾病の受容過程 4) 慢性期疾患をもつ対象と家族 3. 慢性期にある対象への看護援助 1) 慢性期にある対象のQOL 2) 疾病の理解と受容過程への援助 3) 自己管理への取り組みを促す援助 4) 生涯にわたる自己管理の支援 5) 療養生活を支える社会資源の活用 6) 家族への支援		
3～5	講義	3. 慢性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護が理解できる。	4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護 1) 栄養摂取・消化機能障害の病態生理と治療 2) 肝硬変代償期・非代償期の対象の看護 3) 肝臓の対象の看護		
6・7	講義	4. 慢性の代謝機能障害のある対象の看護が理解できる。	5. 慢性の代謝機能障害のある対象の看護 1) 代謝機能障害の病態生理と治療 2) 糖尿病の対象の看護		
8・9	講義	5. 慢性の内部環境調節障害のある対象の看護が理解できる。	6. 慢性の内部環境調節障害のある対象の看護 1) 内部環境調節障害の病態生理と治療 2) 慢性腎不全の対象の看護		
10・11	講義	6. 放射線療法を受ける対象の看護が理解できる。	7. 放射線療法を受ける対象の看護 1) 放射線療法とは 2) 放射線防護・管理の基本 3) 放射線療法の効果と副作用 4) 放射線療法時の援助		
12～15	講義	7. 化学療法を受ける対象の看護が理解できる。	8. 化学療法を受ける対象の看護 1) 化学療法とは 2) 抗がん剤の種類と作用機序 3) 抗がん剤の効果判定 4) 白血病の対象の看護		

慢性期看護

使用テキスト

大西和子他：成人看護学 成人看護学概論 スーヴェルヒロカワ
飯野京子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院
南川雅子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器疾患 医学書院
吉岡成人他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院
今井亜矢子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院
尾尻博也他：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院
黒川 清他：腎臓病食品交換表 治療食の基準 第9版 医歯薬出版
日本糖尿病学会編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会・文光堂

評価方法

9月に筆記試験（100点満点）を行う。

留意事項

遠隔授業または課題授業になる場合があります。
授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

リハビリテーション看護

単
位
数

1

時
間
数

30

2年次 4月開講～9月終講

担当講師 伴美智子 他

科目目標

1. 身体の機能や形態に障害をもつ対象の特徴と看護の役割を理解する。
2. 対象の障害の受容過程を学び、障害受容への看護を理解する。
3. 残存機能を最大限に生かし、生活の再構築を支援するための看護を理解する。

回数	学習形態	学習目標	学習内容
1	講義	リハビリテーションの概要と特徴が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションとは <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーションの理念・歴史・定義 2) リハビリテーションの領域 2. 障害の分類と構造 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害とは 2) 社会の障害への態度 3) 国際生活機能分類 (ICF) 3. リハビリテーションにおける倫理、法律、施策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者の定義と動向 (障害者権利宣言、障害者基本法、障害者の数の推移) 2) 障害者に関する主要概念 (ノーマライゼーション、QOL等)
2・3	講義	リハビリテーションを必要とする対象の特徴が理解できる。 リハビリテーション看護の概要と特徴が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 4. リハビリテーション看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーション看護の定義と目的 2) リハビリテーションを必要とする対象の特徴 3) リハビリテーションチームアプローチと看護の役割 4) リハビリテーションを必要とする対象への看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活の再構築とは (2) 主体性回復への支援 (3) 安全・安楽の確保 (4) 代償機能の活用 (5) 障害受容への支援 (6) 社会復帰への支援 (7) 家族への支援
4～6	講義	運動機能に障害のある対象の看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 5. 運動機能に障害のある対象の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨折のある対象の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 骨折のある対象の特徴 (2) 骨折のある対象への援助 (3) ギプス療法を受ける対象の看護 2) 脊髄損傷のある対象の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 脊髄損傷のある対象の特徴 (2) 脊髄損傷のある対象への援助

リハビリテーション看護

7	講義	心臓リハビリテーションを必要とする対象の看護が理解できる。	6. 心臓リハビリテーションを必要とする対象の看護 1) 心臓リハビリテーションの概念と目的 2) 心臓リハビリテーションの構成要素 3) 心臓リハビリテーション看護の実際
8・9	講義	排泄経路の形態に変更をきたした対象の看護が理解できる。	7. 排泄機能に障害のある対象の看護 1) ストーマ造設術を受ける対象の特徴 2) ストーマ造設術を受ける対象への援助
10	講義		3) ストーマリハビリテーションの実際 4) 院内における皮膚・排泄ケア認定看護師の役割
11・12	講義	脳・神経系に障害のある対象の看護が理解できる。	8. 脳・神経機能に障害のある対象の看護 1) 筋萎縮性側索硬化症の対象の特徴 2) 筋萎縮性側索硬化症の対象への援助
13・14	講義	発声機能を喪失した対象の看護が理解できる。	9. 感覚機能に障害のある対象の看護 1) 喉頭全摘出術を受ける対象の特徴 2) 喉頭全摘出術を受ける対象への援助
15	講義		3) 発声機能を喪失し生活する人の体験談

使用テキスト

奥宮暁子 他：ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版
 北島政樹 編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 上塚芳郎 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院
 金田 智 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器疾患 医学書院
 井手隆文 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院
 大東貴志 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
 田中 栄 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 医学書院
 小松浩子 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院

評価方法

9月に筆記試験（100点満点）を行う。

留意事項

遠隔授業または課題授業になる場合があります。
 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

緩和・終末期看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 7月開講～12月終講					
担当講師 蝦名總子 前田聡子 他					
科目目標 1. 緩和・終末期にある対象を理解する。 2. 家族の特徴と看護の役割について理解する。 3. 死を迎える対象のQOL向上にむけた看護について理解する。 4. 人間の尊厳・告知・命の重要性などについての理解を深め、自己の死生観を養う。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	緩和・終末期看護の意義が理解できる。 人間の生と死の理解が深められる。 終末期にある対象の特徴が理解できる。 終末期にある対象への看護の役割が理解できる。	I. 緩和・終末期看護の考え方 1. 緩和・終末期看護の必要性 1) 終末期における緩和ケア (1) 終末期とは (2) なぜ終末期看護が必要なのか (3) 終末期医療の問題		
2	講義		II. 緩和・終末期看護の歴史と現状 1. わが国の緩和ケアの歴史 2. 緩和・終末期にある人の療養の場 1) 一般病棟における緩和・終末期看護 2) 緩和ケア病棟・ホスピスにおける緩和・終末期看護 3) 在宅における緩和・終末期看護 3. 緩和ケアの必要性		
3	講義		III. 生死をめぐる倫理的問題 1. 人間の死について 2. 日本人の死生観 3. 生死をめぐる倫理的問題 1) 死の判定・脳死・臓器移植の問題 2) 尊厳死と安楽死 3) 終末期における鎮静の問題 4) 延命治療の問題 リビングウィル 5) 死生観について		
4・5	講義		IV. 終末期にある対象の特徴と理解 1. 患者の特徴 1) 全人的苦痛とは 2) 身体的側面からの理解 3) 心理的側面からの理解 4) 社会的側面からの理解 5) 霊的特徴からの理解 2. 家族の特徴 1) 心理的反応 2) さまざまな対処行動 3) 予期的悲嘆		
6	講義		V. 終末期にある対象への援助 1. 緩和・終末期看護の機能・目的 2. 主な医療チームメンバーの構成と看護の役割 3. 最期をどこで過ごすかという調整 4. 終末期の看護に関わるということ		

緩和・終末期看護

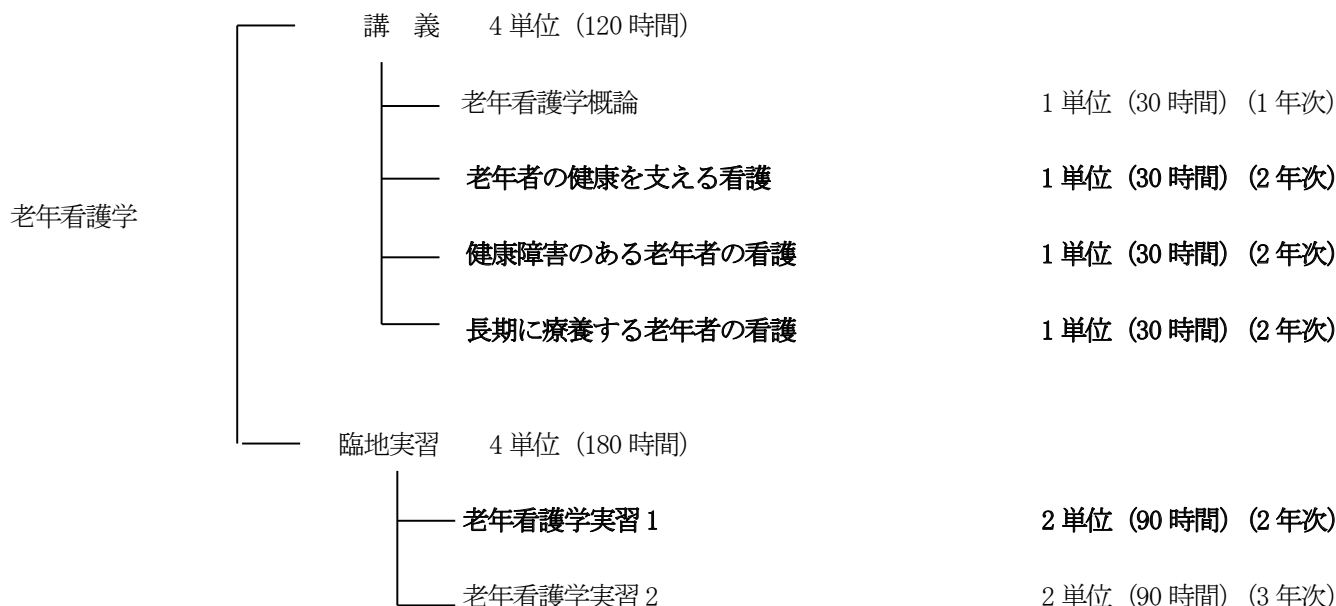
7～9	講義	身体的苦痛への援助が理解できる。	VI. 終末期における緩和ケア 1. 痛みのある終末期の対象への援助 1) がん性疼痛の定義 2) がん性疼痛の分類 3) がん性疼痛に伴う全身的な反応 4) がん性疼痛の観察とアセスメント 5) WHO 方式がん疼痛治療法 6) 治療薬の種類と特徴 7) レスキュードーズ 8) オピオイド・スイッチング 9) がん性疼痛緩和のための看護
10	講義		2. 倦怠感のある終末期の対象への援助 1) 倦怠感とは 2) 倦怠感の原因 3) 倦怠感に対する援助 3. 呼吸器症状のある終末期の対象への援助 1) 呼吸困難とは 2) 呼吸困難の原因 3) 呼吸困難に対する援助
11	講義	精神的な支援が理解できる。	4. 精神症状のある終末期の対象への援助 1) 終末期にある対象の不安・抑うつに対する援助 2) 終末期にある対象のせん妄に対する援助
12	講義	組織横断的に活動するチームおよびメンバーの役割について理解できる。	VII. がん性疼痛看護認定看護師の機能と役割 1. 病院内における緩和ケアチームの役割 2. がん性疼痛看護認定看護師のコンサルテーションの実際
13	講義	ホスピスケアについて理解を深めることができる。	VIII. ホスピスケアの理念・現状 1. ホスピスケアと看護者の役割
14	講義	終末期にある対象を理解できる。	IX. がんで闘病中の患者や病で愛する家族と死別を体験された家族の語り
15	講義	家族・遺族への看護について理解できる。	X. 看取りと悲嘆への援助 1. 臨死期の援助 2. 臨終時の援助 3. 臨終後の家族の援助 4. 死後のケア 5. 悲嘆(グリーフ)への援助 ～ビリーブメントケア～ XI. 緩和・終末期看護を担うあなたへの支援
使用テキスト 田村恵子 編：経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社 参考図書 E. キューブラーロス著 川口正吉 訳：死ぬ瞬間 読売新聞社 1971年			
評価方法 12月に筆記試験(100点満点)を行う。			
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。			

老年看護学

1. 目的 老年期にある対象の特徴を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた老年者とその家族および支える人々の看護について学ぶ。

2. 目標
- 1) 生活する高齢者を総合的にとらえ、老年看護の対象を理解する。
 - 2) 社会構造の変化・高齢化に伴う老年者の保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。
 - 3) 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を理解する。
 - 4) 加齢・健康障害の程度に応じた高齢者と家族に必要な看護を理解する。
 - 5) 老年看護に必要な基本的な看護技術を習得する。
 - 6) 老年期にある対象の特徴と健康障害による問題を理解し、対象に応じた援助ができる。

3. 構成



<h1>老年者の健康を支える看護</h1>			単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～9月終講						
担当講師 齊藤真梨恵 他						
科目目標 加齢・健康障害の程度に応じた高齢者と家族に必要な看護を理解する。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1～4	講義	加齢・健康障害の程度に応じた看護が理解できる。	1. 加齢・健康障害による日常生活の変化 2. 日常生活上の問題の特徴と看護 1) 環境 2) コミュニケーション 3) 移動 4) 生活リズム 5) 食事と食生活 6) 清潔・衣生活 7) 排泄			
5～7	講義	高齢者に多い症状・健康状態に応じた看護が理解できる。	1. 高齢者に多い症状・健康状態に応じた看護 1) 脱水症・熱中症 2) 失禁 3) 皮膚搔痒 4) 感染症 2. 外来診療・入院時の看護			
8～10	講義	認知症のある高齢者の看護が理解できる。	1. 認知症高齢者の看護 1) 認知症高齢者の概念 2) 認知症の分類・評価 3) 認知症高齢者への援助 4) 家族への援助 5) 社会資源の活用			
11	講義		2. 認知症看護認定看護師の役割と実際			
12・13	講義	事故・災害に被災した高齢者の看護が理解できる。	1. 高齢者の事故への看護 1) 転倒 2) 誤嚥 3) 熱傷 2. 被災した際の高齢者の看護			
14・15	講義	終末期にある高齢者の看護が理解できる。	1. 高齢者にとっての死 2. 意思決定への支援 1) リビングウィル・事前指示 2) アドバンス・ケア・プランニング 3) 意思決定のための看護の役割 3. 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア			
使用テキスト 北川公子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 鳥羽研二他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 山勢博彰他：系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院						
評価方法 9月に筆記試験（100点満点）を行う。						
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。						

健康障害のある老年者の看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～9月終講					
担当講師 河野直美 他					
科目目標 1. 健康障害のある高齢者の看護を理解する。 2. 治療を受ける高齢者の問題と看護を理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	薬物療法や検査を受ける高齢者の看護が理解できる。	1. 薬物療法を受ける高齢者の看護 2. 検査を受ける高齢者の看護		
2～4	講義	循環器系に障害のある高齢者の看護が理解できる。	1. 高血圧症のある高齢者の看護 2. 慢性心不全のある高齢者の看護		
5・6	講義	呼吸器系に障害のある高齢者の看護が理解できる。	1. 拘束性肺疾患のある高齢者の看護 2. 慢性閉塞性肺疾患のある高齢者の看護		
7～10	講義	脳・神経系に障害のある高齢者の看護が理解できる。	1. 脳血管障害（高次脳機能障害を含む）の特徴 2. 各機能障害のある高齢者の看護 1) 運動障害 2) 嚥下障害 3) 高次脳機能障害（言語障害・失行） 3. パーキンソン症候群のある高齢者の看護		
11	講義	感覚器系に障害のある高齢者の看護が理解できる。	視覚障害のある高齢者の看護		
12	講義	免疫系に障害のある高齢者の看護が理解できる。	関節リウマチのある高齢者の看護		
13～15	講義	手術療法を受ける高齢者の看護が理解できる。	1. 手術療法を受ける高齢者の看護 2. 経尿道的内視鏡術を受ける高齢者の看護 3. 人工骨頭置換術を受ける高齢者の看護		
使用テキスト 北川公子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 鳥羽研二他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 浅野浩一郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 医学書院 吉田俊子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[3]循環器 医学書院 井手隆文他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経 医学書院 今井亜矢子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 田中栄他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[10]運動器 医学書院 岩田健太郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 大鹿哲郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[13]眼 医学書院 矢永勝彦他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 北島政樹他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院					
評価方法 9月に筆記試験（100点満点）を行う。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

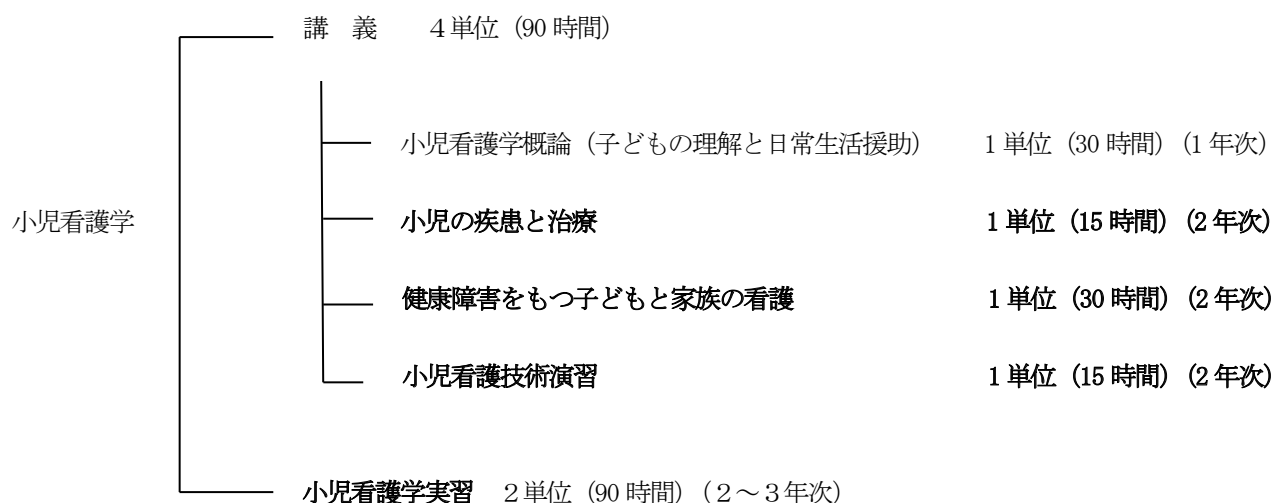
長期に療養する老年者の看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 9月開講～12月終講					
担当講師 齊藤真梨恵 他					
科目目標 1. 長期療養が高齢者にもたらす影響と長期療養の高齢者を支える看護を理解する。 2. 長期療養の高齢者の看護に必要な看護技術を習得する。 3. 老年看護に必要な看護過程の展開を理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～3	講義	廃用症候群のある高齢者の看護の必要性について理解し、対象に応じた援助ができる。	1. 廃用症候群のある高齢者の看護 1) 寝たきりの原因・要因 2) 寝たきり高齢者への援助 (1) アセスメントのポイント (2) 寝たきりに伴う合併症の予防 (3) 家族への支援 (4) 日常生活への援助の特徴 経管栄養・PEGの援助の特徴		
4～6	演習		(5) 日常生活への援助の実際 ①排泄（オムツ交換）の援助 ②清潔（フットケア）の援助 ③食事（口腔ケア・経管栄養）の援助		
7	講義	機能障害のある高齢者の援助の必要性について理解し、対象に応じた援助ができる。	2. 機能障害のある高齢者の看護 1) 生活機能障害の程度と現存する能力の評価 2) 高齢者のリハビリテーションの特徴と看護		
8・9	演習		3) 移動動作の維持にむけたリハビリテーションの実際 (1) 片麻痺のある高齢者の移動動作の方法 (2) 関節拘縮の予防・筋力低下予防のための自動運動・他動運動		
10	講義		4) 摂食・嚥下障害および失語症のある高齢者のリハビリテーション (1) 言語聴覚士の役割と訓練の実際		
11～14	GW 発表		5) 機能障害のある高齢者への運動・レクリエーションの企画・運営		
15	講義	高齢者を対象とした看護過程の展開を理解する。	高齢者の特徴を踏まえた看護過程の展開		
使用テキスト 泉キヨ子 他：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社 北川公子 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 鳥羽研二他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 奥宮睦子他：ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版					
評価方法 事前学習と12月の筆記試験により総合的に評価する。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

小児看護学

1. 目的 小児看護の対象となる子どもおよびその家族を理解し、成長発達に応じた養護と健康を障害された子どもおよびその家族に対する看護の基本となる知識、技術、態度を養う。

2. 目標
- 1) 子どもの成長発達の特徴と子どもを取り巻く環境を理解し、小児看護の目的および役割について理解する。
 - 2) 健康な子どもの日常生活の特徴を理解し、対象に応じた看護ができるための基本的知識と技術を習得する。
 - 3) 子どもに特有な健康障害の問題（疾患・主要症状）を理解する。
 - 4) 健康を障害された子どもとその家族に看護ができるように基本的知識と技術を習得する。
 - 5) 対象の特徴を理解し、成長発達を促すとともに、健康障害のある子どもとその家族への看護ができる。

3. 構成



小児の疾患と治療			単 位 数	1	時 間 数	15
2年次 4月開講～7月終講						
担当講師 宮田市郎 田知本寛 秋山政春 小林正久 日暮憲道 安藤達也 三輪沙織 黒部 仁						
科目目標 小児特有の疾患・症状を理解する。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1～8	講義	1. 小児特有の疾患・症状・治療を理解することができる。 2. 小児特有の疾患が身体に及ぼす影響について理解できる。	【先天異常・内分泌・代謝疾患】（宮田 市郎） 1. 先天異常の分類・遺伝子と染色体 2. 小児糖尿病			
			【呼吸器・アレルギー疾患】（田知本 寛） 1. 乳幼児の呼吸器疾患の特徴 2. アレルギー（アナフィラキシーショック） 3. アトピー性皮膚炎 4. 小児気管支喘息			
			【血液疾患と腫瘍】（秋山 政春） 1. 小児白血病（化学療法・骨髄移植） 2. 神経芽腫 3. 血友病 4. 血管性紫斑病			
			【循環器疾患】（安藤 達也） 1. 小児循環器疾患の特徴 2. 心室中隔欠損症・心房中隔欠損症・ファロー四徴症 心内膜欠損症・動脈管開存 3. 川崎病			
			【感染症 腎・泌尿器疾患】（三輪 沙織） 1. 感染症の診断 2. 細菌感染症：細菌性（化膿性）髄膜炎 3. ウイルス感染症：RSウイルス 4. 急性糸球体腎炎・ネフローゼ症候群 5. 尿路感染症			
			【神経・精神疾患】（日暮 憲道） 1. 脳性麻痺、熱性痙攣、小児欠神てんかん 2. 発達障害：多動性障害、自閉症スペクトラム障害			
			【新生児の疾患・超低出生体重児】（小林 正久） 1. 新生児仮死・呼吸窮迫症候群 2. 頭蓋内出血 3. 慢性肺疾患・無呼吸発作			
			【小児外科】（黒部 仁） 1. 幽門狭窄症・腸重積症・ヒルシュスプルング病・鎖肛 2. 先天性胆道閉鎖症 3. 二分脊椎			
使用テキスト 奈良間美保他：小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 奈良間美保他：小児看護学各論 小児看護学② 医学書院						
評価方法 7月に筆記試験（100点満点）を行なう。						
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。						

健康障害をもつ子どもと家族の看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～9月終講					
担当講師 吉田恵美 他					
科目目標 健康を障害された子どもとその家族への看護について理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～3	講義	健康を障害された子どもとその家族について理解できる。 入院が必要な子どもの発達段階に応じた援助が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の病気の理解と発達に応じた説明 2. 病気や診療・入院が小児に与える影響 3. 小児の病気がきょうだい・家族に及ぼす影響 4. 小児の一般状態のアセスメント 5. バイタルサイン測定 フィジカルアセスメント 		
4・5	講義	活動制限を必要とする子どもの看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動制限や隔離の目的・方法 2. 活動制限や隔離の身体的,社会的,心理的影響 3. 活動制限や隔離が必要な小児と家族への援助 (ネフローゼ症候群・骨折) 5. 用手・用具による固定の方法 		
6	講義	慢性期にある子どもへの指導の必要性と看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期にある小児と家族の理解 2. 家庭で療養している慢性疾患のある小児と家族への看護 3. 在宅・地域で医療的ケアを必要とする小児 気管支喘息をもつ子どもの家族への看護 糖尿病を持つ子どもへの看護 		
7・8	講義	治療・処置に伴う苦痛が大きい子どもの看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療処置・検査を受ける小児と家族の反応 2. 治療・処置におけるプレパレーション 採血、採尿、酸素療法、吸入、吸引) 		
9・10	講義	急性症状のある子どもの看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児にみられる主な症状の特徴 発熱・嘔吐・下痢・脱水・けいれん 2. 急性リンパ性白血病の小児の看護 化学療法・腰椎穿刺・骨髄穿刺 		
11	講義	周術期にある子どもの看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の手術の特徴 2. 周術期の援助 (プレパレーション) 3. 退院に向けての支援 		
12	講義	低出生体重児の看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 低出生体重児の特徴 2. 低出生体重児と家族への援助 (ファミリーケア) 		

健康障害をもつ子どもと家族の看護

13	講義	先天性の障害・心身障害をもつ子どもの看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先天性の障害の子をもつ家族の受容過程 2. 先天異常の種類と特徴 3. 小児と家族の生活調整への支援
14	講義	終末期にある子どもと家族への看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 死の概念の発達 2. 終末期の子どもとその家族への援助
15	見学	健康障害を持ち地域で暮らす子どもと家族の生活が理解できる。	【日本聾話学校 施設見学】 聴覚障害をもつ子どもへの関わり
使用テキスト 奈良間美保他：小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 奈良間美保他：小児看護学各論 小児看護学② 医学書院			
評価方法 9月に筆記試験（100点満点）を行なう。			
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。			

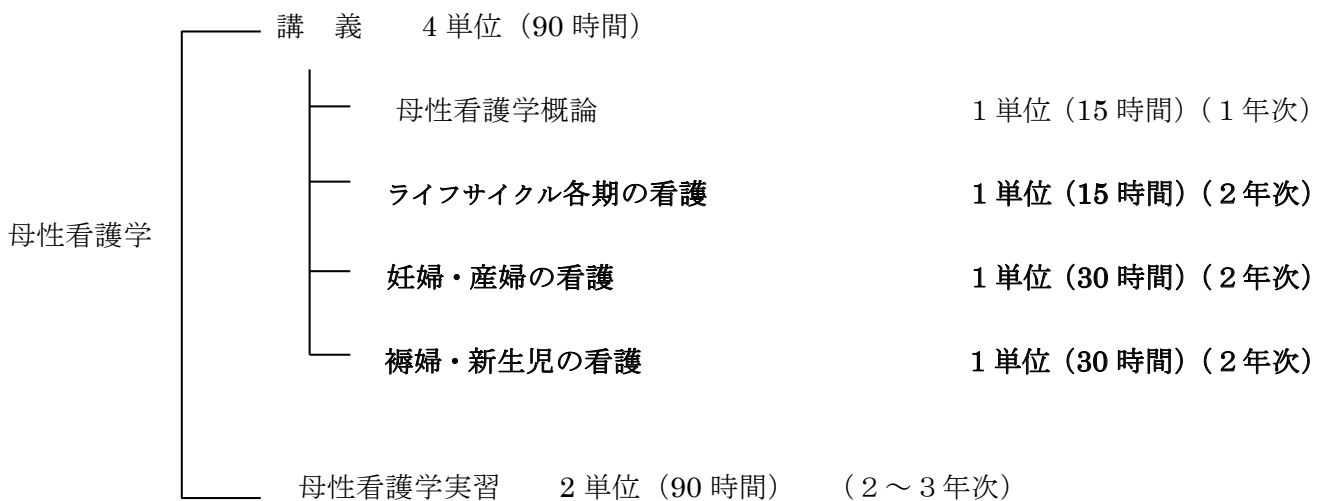
小児看護技術演習			単 位 数	1	時 間 数	15
2年次 9月開講～12月終講						
担当講師 吉田恵美 他						
科目目標 1. 小児看護に必要な基礎的な援助技術を習得する。 2. 小児看護に必要な看護過程の展開について学ぶ。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1	演習	年齢に応じたバイタルサイン測定ができる。	1. 子どものバイタルサイン測定 年齢に応じた方法と留意点 2. 呼吸・心拍・血圧・体温測定			
2	演習	年齢や症状に応じた清潔の援助ができる。	1. 乳幼児の清拭 2. 衣服の着脱（寝衣・オムツ） 3. 乳児の臀部浴			
3	GW 発表	発達段階、病態の安静度に応じた遊びを企画し、玩具が作成できる。	1. 健康障害を持つ子どもに応じた遊びの企画 玩具の作成 2. 発達段階、病態に応じた遊びの発表			
4	演習 ロールプレ イ	子どもの状況に応じた与薬の援助ができる。	1. 子どもに経口与薬を行なうための方法 プレパレーション・内服の工夫 2. 点滴静脈内注射の固定方法と安全な環境			
5	演習	授乳・離乳食の援助ができる。	1. 離乳食の献立の作成と試食 2. 授乳方法（準備と飲ませ方） 3. 小児の経管栄養			
6～8	演習 個人ワーク	発達段階を踏まえた看護過程の展開方法が理解できる。	【小児の特徴を踏まえた看護過程の展開】 1. 子ども・家族の特徴を捉えた情報収集 2. 症状・成長発達の視点から考える情報の分析 3. 子ども・家族の看護目標 4. 子ども・家族の看護計画			
使用テキスト 奈良間美保他：小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 奈良間美保他：小児看護学各論 小児看護学② 医学書院						
参考図書 東京都看護協会 会長 山元恵子 監修：写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ						
評価方法 出席時間、事前・事後学習の提出、看護過程の最終提出で評価する。						
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。						

母性看護学

1. 目的 人のもつ種族保存の働き（生殖）とその意義、女性のライフサイクル各期における特徴と保健を理解するとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の看護を実践するための基礎的知識、技術、態度を養う。

2. 目標
- 1) 人の種族保存あるいは生殖の意義を理解すると共に母性の概念および母性の特性を知り、母性看護の目的を理解する。
 - 2) 母性看護の対象となる人のライフサイクルにおける特徴と看護を理解する。
 - 3) 周産期の生理を理解し、周産期にある母性と胎児および新生児、そして家族を対象とし健康問題を解決するための援助、および方法を理解する。
 - 4) 周産期にある母性および新生児の特徴を理解し、対象に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う。

3. 構成



ライフサイクル各期の看護			単 位 数	1	時 間 数	15
1年次 4月開講～7月終講						
担当講師 興枿清美 柏倉宏美						
科目目標 1. 女性のライフサイクルにおける特徴と保健について理解する。 2. ライフサイクルにおいて起こり得る女性の健康上の問題および看護について理解する。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1	講義	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性が理解できる。	1. ライフサイクル各期における対象理解と健康管理 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 3) ライフサイクル各期の健康問題と看護			
2	講義	思春期にある人の特徴が理解できる。	2. 思春期の健康と看護 1) 思春期の特徴 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴			
3・4	講義	思春期にある人の健康問題と看護が理解できる。	2) 思春期における健康問題と看護 (1) 月経異常 (2) 思春期貧血 (3) 性がもたらす問題の多様化 3) 思春期の健康教育 (1) 健やか親子21 (2) 日常生活教育 (3) 月経に関する教育 (4) 性教育			
5	講義	成熟期にある人の看護が理解できる。	3. 成熟期の健康と看護 1) 成熟期の特徴 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴			
6・7	講義	成熟期にある人の健康問題と看護が理解できる。	2) 成熟期における健康問題と看護 (1) 月経前症候群 (2) 成熟期に起こりやすい健康障害 (3) 親になる選択の問題 (4) 性暴力・DV 3) 成熟期の健康教育 (1) 女性のセルフコントロールへの支援 (2) 子育てへの支援			
8	講義	更年期にある人の特徴と看護が理解できる。	4. 更年期の健康と看護 1) 更年期女性の特徴 2) 更年期における健康問題と看護 3) 更年期女性の健康教育			
使用テキスト 森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 ：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院						
参考図書 池田 正 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院 (社)日本家族計画協会 目で見る家族計画						
授業を受ける際の留意点 母性に関する最新情報や動向を新聞・雑誌・テレビ・インターネット等でキャッチしてください。 自分の母性について認識し、日常生活の中で健康（性的健康含）が管理できるようにしましょう。						
評価方法 7月筆記試験と 課題レポートで評価する。						
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。						

妊婦・産婦の看護			単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 4月開講～9月終講						
担当講師 桶谷礼子 柏倉宏美 他						
科目目標 1. 妊娠の経過と看護について理解する。 2. 分娩の経過と看護について理解する。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1	講義	妊娠の経過と胎児の発育について理解できる。	1. 妊娠期の身体的特徴 1) 妊娠の生理 2) 胎児の発育とその生理 3) 母体の生理的变化			
2	講義	妊婦の心理について理解できる。	1. 妊婦の心理的特徴 1) 妊娠への適応と心理 2) 妊娠各期の心理的特徴			
3～5	講義	妊婦の看護について理解できる。	1. 妊婦と胎児のアセスメント 2. 母子の健康を保つための看護 1) 妊娠初期 2) 妊娠中期 3) 妊娠後期			
6	講義	ハイリスク妊娠の概念と異常の予防について理解できる。 異常妊娠とその看護について理解できる。	1. ハイリスク妊娠 1) ハイリスク妊娠とは 2. 妊娠の異常と看護 流産、早産、感染症、常位胎盤早期剥離 前置胎盤、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病			
7	講義	妊婦の看護について理解できる。	1. 妊娠の経過と看護のまとめ			
8・9	演習	妊婦の看護の実際について理解できる。	1. 妊婦体験 2. 妊婦の健康診査 腹囲・子宮底の測定、レオポルド触診法、 胎児心拍の聴取			
10	講義	分娩の経過と胎児の健康状態について理解できる。	1. 分娩の生理と経過 2. 産婦の健康診査 1) 分娩の進行状態 2) 胎児の健康度			
11	講義	産婦と家族の心理について理解できる。	1. 産婦の心理的特徴 1) 分娩経過と心理的变化 2) 家族の心理と支援			
12～14	講義	分娩の進行状態に合わせた看護について理解できる。	1. 産婦・胎児のアセスメント 2. 分娩の経過と看護 1) 入院時の看護 2) 分娩第1期～第4期の看護			
15	講義	ハイリスクな状況にある産婦の看護について理解できる。	1. 分娩の異常と看護 前期破水、産科出血、胎児機能不全、 帝王切開術後			
使用テキスト 森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 参考図書 村本淳子 高橋真理 他：周産期ナースング ニューベルヒロカワ他						
評価方法 月に終講試験（100点満点）を行う。						
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。						

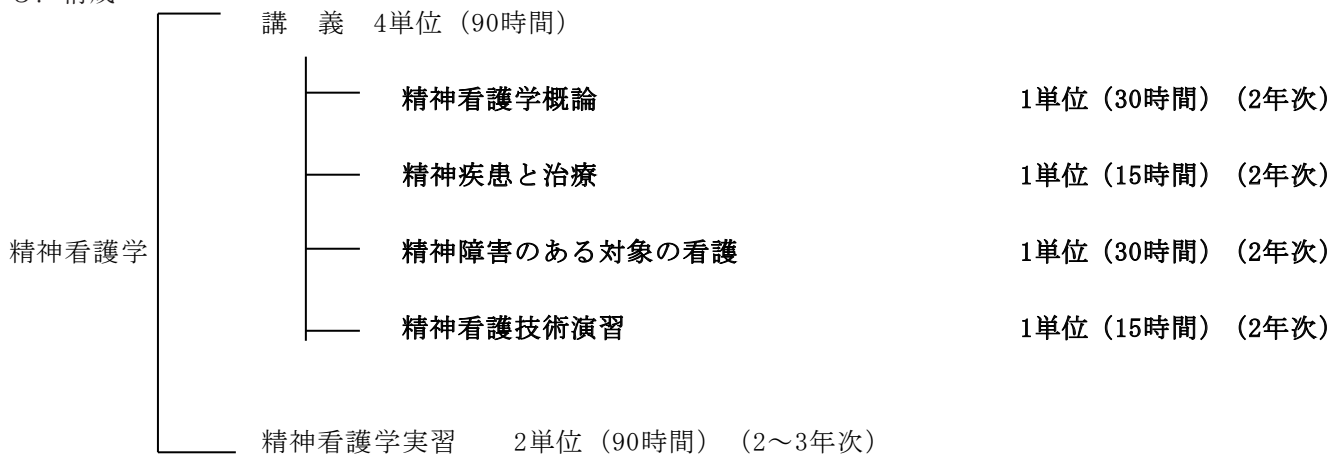
褥婦・新生児の看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 10月開講～12月終講					
担当講師 柏倉宏美 他					
科目目標 1. 産褥期の経過と看護について理解できる。 2. 新生児期の経過と看護について理解できる。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	産褥期の経過について理解できる。	1. 産褥の生理と経過 2. 褥婦の健康診査		
2	講義	褥婦の心理について理解できる。	1. 褥婦の心理的特徴 2. 家族の心理		
3・4	講義	褥婦の日常生活とセルフケアについて理解できる。	1. 褥婦のアセスメント 2. 褥婦の健康を促す看護 1) 産褥復古を促す看護 2) 母乳育児を促す看護 3) 育児技術習得のための援助 4) 退院後の生活を円滑に進めるための援助 乳腺炎、産後うつ		
5～8	演習 個人ワーク	褥婦への看護過程の展開方法が理解できる。	1. 正常な経過をたどる褥婦の看護過程の展開		
9	講義	産褥の異常とその看護について理解できる。	1. 産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産後うつ 帝王切開術、死産 2. 児を亡くした褥婦、家族への看護		
10	演習	褥婦の看護の実際について理解できる。	1. 褥婦への看護 1) 産褥復古状態の観察 2) 授乳への援助		
11・12	講義	新生児期の経過について理解できる。	1. 新生児の生理と経過 1) 新生児の健康と発育のアセスメント 2. 新生児の日常生活の援助 1) 保育環境		
13・14	講義	新生児の異常と看護について理解できる。	1. 新生児の異常と看護 新生児の健康逸脱、新生児仮死、早産児、 低出生体重児 2. 児に健康上の問題がある時の家族への看護		
15	演習	新生児の看護の実際について理解できる。	1. 新生児への看護 1) 新生児の観察 2) 沐浴		
使用テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 医療情報科学研究所編集：病気がみえる Vol.10 産科 第4版 メディックメディア				
参考図書	馬場 一憲 編集：目でみる妊娠と出産 文光堂 平澤 美恵子 監修：写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディアカ				
評価方法	「褥婦の看護過程の展開」の課題提出と12月の筆記試験（100点満点）で評価する。				
留意事項	遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

精神看護学

1. 目的 人間の精神の健康を成長・発達と社会適応の面から捉え、精神の健康の保持・増進、予防および精神障害のある対象の看護を学ぶ。

2. 目標
- 1) 人間の心の発達と健康について多角的に学び、精神看護の対象についての理解を広げる。
 - 2) 精神保健・医療・福祉の動向を学び、現代社会に生きる人々に対する精神看護の意義と役割について理解する。
 - 3) 精神障害と治療について理解する。
 - 4) 精神障害がもたらす症状が対象に及ぼす影響を知り援助方法を理解する。
 - 5) 精神障害のある対象を理解し、その状態に応じた看護の実践を学ぶ。

3. 構成



精神看護学概論		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 月開講～9月終講					
担当講師 伴美智子 他					
科目目標 1. 心の発達と健康について学び、精神看護の意義を理解する。 2. 精神保健・医療・福祉の動向と課題について理解する。 3. 精神看護の対象について学び、精神看護の機能と役割について理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	精神看護学の目的と意義が理解できる。	1. 「心のケア」と現代社会 2. 精神看護学とその課題 3. 精神障害のとらえ方		
2～4	講義	人間の心のはたらきについて理解できる。	1. 人格と気質 2. 心の構造と働き ・脳の仕組みと神経伝達物質 ・精神機能と障害 3. 精神分析学的概念		
5～8	講義	人間の心の発達と健康について理解できる。	1. ライフサイクルと心の発達 ・成長発達理論（ワトソン・ピアジェ） ・フロイトの自我の発達理論 ・エリクソンの漸成的発達理論 2. 人格形成と情緒体験 ・対象関係論の基本的な考え方 3. 心身の健康の相関関係 ・ストレスと不安 4. 危機状況と心の働き ・危機理論 5. 嗜癖と依存		
9～11	講義	精神保健・医療・福祉の動向が理解できる。	1. 精神医療と看護の変遷 2. 精神保健福祉活動と法制度 3. 精神看護の倫理と人権擁護		
12～14	講義	精神看護の役割と機能が理解できる。	1. ケアにおける人間関係 2. リスクマネジメント 3. コンサルテーション・リエゾン精神看護 (CNS)		
15	演習	音楽療法の意義が理解できる。	1. 音楽療法とは 2. 心の健康と音楽（体験学習）		
使用テキスト 武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 参考図書 厚生統計協会：国民衛生の動向					
評価方法 9月に筆記試験（100点満点）を行う。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

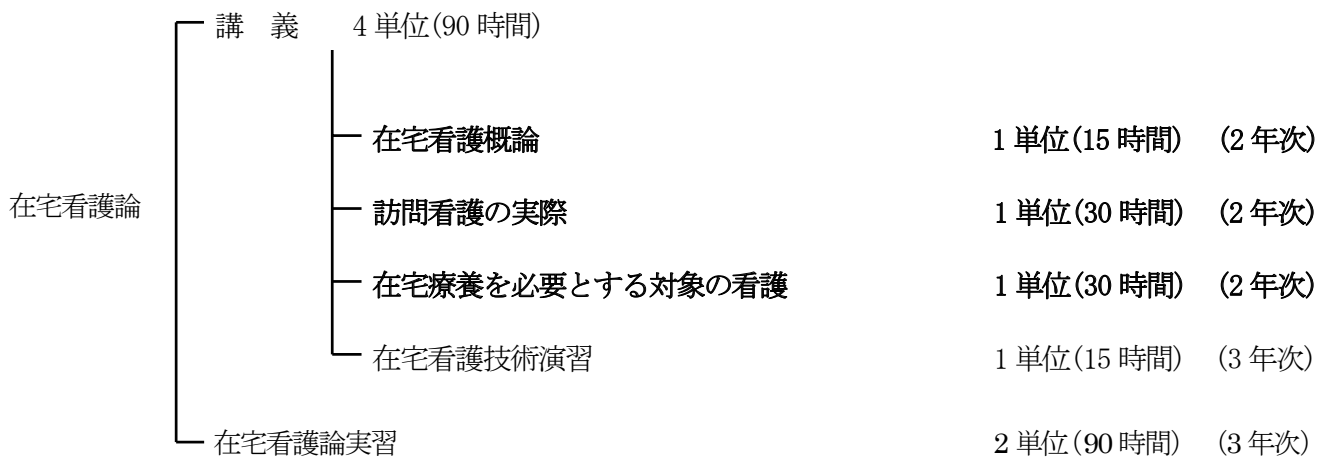
精神疾患と治療		単 位 数	1	時 間 数	15
2年次 4月開講～6月終講					
担当講師 岩下正幸 中澤亜美 森 啓輔 山田洸大					
科目目標 精神障害と治療について理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～8	講義	精神障害のある対象を理解するために必要な基礎的知識が理解できる。	<p>1. 精神障害の理解</p> <p>1) 精神障害の分類</p> <p>2) 精神症状の理解</p> <p>2. 精神疾患と治療</p> <p>1) 統合失調症</p> <p>2) 気分（感情）障害</p> <p>3) 神経性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害</p> <p>4) 生理的障害および身体要因に関連した行動障害 (摂食障害・睡眠障害・性同一性障害など)</p> <p>5) パーソナリティ障害</p> <p>6) 器質性精神障害 (認知症・精神作用物質使用による精神障害・ 症状精神病)</p> <p>7) 児童精神領域の疾患 (てんかん・精神遅滞・心理発達障害・行動 情緒障害・心身症など)</p> <p>*精神科治療と検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物療法 ・精神療法・認知行動療法 ・修正型電気けいれん療法 ・検査（脳波・脳画像検査・心理性格検査） 		
使用テキスト					
武井 麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院					
武井 麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院					
評価方法					
7月に筆記試験（100点満点）を行う。					
留意事項					
遠隔授業または課題授業になる場合があります。					
授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

精神障害のある対象の看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 9月開講～12月終講					
担当講師 伴美智子 他					
科目目標 1. 精神障害のある対象を理解し、精神看護における看護の役割について学ぶ。 2. 精神保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～3	講義	対象の観察の視点とアセスメントについて理解できる。	1. 精神障害のある対象への援助の基本 1) 精神の健康を保持するためのセルフケア 2) 対象の観察とアセスメント 3) 入院環境と看護		
4～6	講義	精神科の治療を受ける対象の看護が理解できる。	2. 治療を受ける対象の看護 1) 薬物療法・修正型電気けいれん療法 (m-ECT) を受ける対象の援助 2) 作業療法を受ける対象の看護 3) SST・認知行動療法を受ける対象の援助		
7～9	講義	回復段階の特徴を知り、対象の看護が理解できる。	3. 回復段階に応じた対象の看護 1) 急性期にある対象の援助 2) 回復期・慢性期にある対象の援助 3) 地域で生活する対象の援助		
10～15	講義	対象の状態に合わせた看護が理解できる。	4. 主な症状・状態にある対象の看護 1) 幻覚・妄想のある対象の援助 2) うつ状態・躁状態にある対象の援助 3) 強迫行為・解離・パニックのある対象の援助 4) 操作・試し行為・自傷行為のある対象の援助 5) 嗜癖・依存のある対象の援助 6) 児童・思春期における精神障害のある対象の援助		
使用テキスト 武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 坂田三充：症状別にみる精神科の看護ケア 中央法規出版					
評価方法 12月に筆記試験(100点満点)を行う。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

精神看護技術演習		単 位 数	1	時 間 数	15
2年次 9月開講～12月終講					
担当講師 伴 美智子 松澤亜希子					
科目目標 1. 患者－看護師関係の発展に必要な技術について学ぶ。 2. 精神障害のある対象の看護過程の展開について学ぶ。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～4	講義 演習	看護場面の再構成について理解できる。	1. 患者－看護師関係の理解（講義） 2. 看護場面における再構成の方法（講義） 3. ロールプレイによる再構成の実際（GW） *課題：「場面の再構成：様式A・様式B」 4. 精神看護学実習事例の検討（GW） 5. 当事者の体験から学ぶ ー幻聴かるた		
5～8	演習	精神障害のある対象の看護過程の展開方法が理解できる。	1. 統合失調症患者の理解（講義） 1) 情報収集 2) 統合失調症患者の看護 3) 演習の導入 2. 障害された機能が全身に及ぼす影響（講義） 3. 日常生活の規制と患者・家族の反応から 援助の方向性を導く。 *課題：GWと発表 4. 看護計画の立案 *課題：GWと発表 5. 当事者の体験から学ぶ（DVD視聴）		
使用テキスト 武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 宮本真巳：改訂版 看護場面の再構成 日本看護協会 坂田三充：症状別にみる精神科の看護ケア 中央法規出版 参考図書 坂田三充：精神疾患・高齢者の精神障害の理解と看護 中央法規出版					
評価方法 出席時間、「看護場面の再構成」課題の提出状況、「看護過程の展開」課題内容、参加状況で評価する。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

在宅看護論

1. 目的 地域で生活する人々と生活しながら療養する人々及びその家族を理解し、在宅看護における必要な知識・技術・態度を習得する。
2. 目標
 - 1) 在宅看護の意義と役割について理解する。
 - 2) 在宅看護の対象を理解する。
 - 3) 在宅におけるケアシステムと看護活動について理解する。
 - 4) 在宅看護における必要な技術を習得する。
 - 5) 対象の社会資源の活用方法と関連機関・職種との連携・協働について理解する。
 - 6) 地域で生活している人々および療養している人と家族への看護を学ぶ
3. 構成



在宅看護概論				単 位 数	1	時 間 数	15
2年次 4月開講～6月終講							
担当講師 栗原則子 森 美由紀							
科目目標 1. 地域看護における在宅看護の概念と必要性を理解する。 2. 在宅看護の対象と看護の役割を理解する。							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1・2	講義	1. 地域看護における在宅看護の概念と必要性を理解する	1. 地域看護の概念 1) 地域とは 2) 看護者として地域を見るときは 3) 地域保健医療福祉 4) 地域看護とは 2. 在宅看護の概念 1) 地域看護の領域と構成分野 2) 在宅看護が必要とされる背景 3) 在宅看護の目的 4) 在宅看護の特性				
3	講義	2. 在宅看護の変遷を理解する	1. 在宅看護の変遷 1) 在宅看護の歴史 (1) 公衆衛生看護活動 巡回看護 (2) 訪問看護活動 派出看護 (3) 訪問看護制度の創設と発展				
4	講義	3. 在宅看護の対象を理解する	1. 在宅看護の対象 1) 在宅看護の対象とは 2) 在宅療養者の状況 3) 在宅看護における家族				
5・6	講義	4. 在宅における看護師の役割を理解する	1. 在宅看護における看護師の役割 1) 地域包括ケアシステム 2) 治す医療から支える医療へ ・地域連携ケアパス・退院支援・退院調整				
		5. 在宅看護の実践活動としての訪問看護について理解する	1. 制度に基づいた在宅看護 1) 訪問看護ステーションの法的枠組み 2) 在宅看護を提供する機関				
		6. 在宅看護における関係職種と社会資源について理解する	1. 在宅療養における社会資源 1) 社会資源とは 2) 利用者・提供主体それぞれから見た社会資源 3) 社会資源活用と看護者の役割				
7・8	講義	7. 訪問看護における看護者の責務と倫理的課題について理解する	1. 訪問看護における看護者の責務 1) 保助看護に基づく看護師の業務 2) 訪問看護師が行なう医療行為 3) 「療養上の世話」と「介護」				
		8. 在宅看護の展望と今後の課題を理解する	1. 在宅看護における課題 1) チームケア 2) 在宅看護におけるケアマネジメント 3) 在宅療養者と家族の権利 4) 在宅看護における倫理 5) 在宅療養者の安全への援助 6) 在宅看護の課題				
使用テキスト 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院							
評価方法 7月に筆記試験（100点満点）を行う。							
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。							

訪問看護の実際		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 6月開講～12月終講					
担当講師 森美由紀 千葉早希子 他					
科目目標 1. 訪問看護活動の実際を理解する。 2. 訪問看護に必要な基本的姿勢と看護技術を理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～3	講義	1. 訪問看護活動の特性と機能を理解する	1. 訪問看護の特性と機能 1) 訪問看護の特性 2) 訪問看護の機能		
4～8	講義	2. 施設内看護と在宅看護間の連携を理解する 3. 在宅看護と診療報酬の構造を理解する	1. 医療施設と地域の連携 1) 看護職による在宅療養に向けた退院支援 2) 退院支援看護師の専門性 3) 東京慈恵会医科大学附属病院における退院支援看護師の役割 4) 地域のお他機関・他職種との連携 5) 地域医療の実際 2. 在宅看護と診療報酬 1) 診療報酬の土台となる社会保障の考え方 2) 在宅看護に関わる診療報酬の現状 3) 介護保険法における訪問看護の位置付け		
9～12	講義	4. 訪問看護の形態を理解する 5. 訪問看護のプロセスを理解する	1. 訪問看護の形態 1) 訪問看護サービスの流れ 2) 訪問看護サービスの実施者と従事者 3) 訪問看護サービスの提供方法 2. 訪問看護のプロセス 1) 療養者と家族のアセスメント 2) 計画立案・実施・評価 3) 訪問看護におけるケアマネジメント 4) 訪問看護における社会資源の種類と活用方法		
13～15	講義	6. 訪問看護師に必要な基本的姿勢を理解する 7. 訪問看護に必要な援助技術を理解する	1. 訪問看護に必要な基本的姿勢と援助技術 1) 訪問看護師の基本姿勢 2) 訪問看護に必要な援助技術		
使用テキスト 河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の基盤 医学書院 河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の基盤 医学書院					
評価方法 12月に筆記試験（100点満点）を行う。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

在宅療養を必要とする対象の看護		単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 9月開講～12月終講					
担当講師 森 美由紀 他					
科目目標 1. 在宅療養を必要としている対象と家族への看護を理解する 2. 在宅療養をする対象の日常生活援助を理解する。 3. 在宅で医療処置を必要とする対象への援助を理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1・2	講義	1. 在宅における慢性呼吸不全の対象の看護が理解できる。	1. 在宅における慢性呼吸不全のある対象の看護 1) 慢性呼吸不全のある対象の特性 2) 訪問時の観察の視点と指導内容		
3・4	講義	2. 在宅でターミナルを迎える対象の看護が理解できる。	1. 在宅でターミナルを迎える対象の看護 1) 在宅におけるターミナルケアの意味 2) 在宅ターミナルケアの視点		
5・6	講義	3. 在宅における精神障害のある対象の看護が理解できる。	1. 在宅における精神障害のある対象の看護 1) 社会復帰推進のための法制度 2) 地域で生活する精神障害者の特徴 3) 精神障害のある対象と家族への援助		
7	講義	4. 難病で在宅療養をしている対象の看護が理解できる。	1. 難病で在宅療養をしている対象の看護 1) 難病とは 2) 難病療養者の在宅療養上の課題 3) 難病療養者と家族への看護の視点 4) 難病療養者を支える在宅ケアシステムと看護 5) 家族のセルフケア能力の開発と支援		
8～11	演習	5. 在宅看護における日常生活の援助技術が理解できる。	1. 在宅における日常生活の援助 1) 在宅療養をしている対象の洗髪援助 2) 片麻痺のある対象の熱布清拭と寝衣交換 3) 片麻痺のある対象の入浴介助		
12～15	演習	6. 在宅で医療処置を必要とする対象の看護が理解できる。	1. 在宅で医療処置を必要とする対象の看護 1) 人工呼吸器を必要とする対象の看護 2) 気道清浄化を必要とする対象の看護 3) 褥創のある対象の看護 4) 在宅酸素療法を実施している対象の看護		
使用テキスト 河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院					
学習課題 演習前に事前・事後学習が提示される。					
評価方法 12月に筆記試験（100点満点）を行う。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

3 年次

(72 期生)

教育学	単 位 数	1	時 間 数	30
2年次 3年次 4月開講～11月終講				
担当講師 高野雅暉				
科目目標 教育学の基礎的な知識を得るとともに、その知識を自身を取り巻く人間関係に対する理解へと広げ、医療・看護の現場における「教育」について考える。				
講義内容	<p>本講義では、学校教育にとらわれない「教育」を対象としています。</p> <p>「教育」は、学校のなかだけで行われていることではありません。自身が置かれる環境や人間関係のあらゆる場面で、教育的な現象が生じています。</p> <p>本講義では、そのように「教育」を捉え、自身の経験した「教育」を相対化していくとともに、看護師となった際に活かせるものとして「教育」を理解することを目指します。</p> <p>そのために、まず、教育の領域を「学校教育」「家庭教育」「社会教育」と区分したうえで、それぞれを支える基礎理論について概説します。次に、その知識を活かして様々な教育的な現象を議論していきます。</p> <p>講義の形式は、前半に基礎知識の講義を行い、後半には教材として映画などの鑑賞をしてもらい、最後にその映画を教育学的視点から考察・議論してもらいます。</p> <p>大まかではありますが、講義内容は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育の理論・制度・方法 なぜ「学校」をつくるのか／「教科」はどのように決まるのか 2. 家庭教育の理論・制度・方法 「親」の学習／「虐待」の原因と子どもへの影響／学校と家庭の関係性 3. 社会教育の理論・制度・方法 「学校外」での学び／「大人」への教育機会 4. 医療・看護と教育 「院内学級」の制度／「特別支援教育」 			
使用テキスト	テキストは指定しません。 講義ごとにレジユメを配布し、それをもとに講義します。			
評価方法	出席状況・課題で総合的に評価します。			
留意事項	遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。			

医療社会学	単 位 数	1	時 間 数	15
3年次 4月開講～11月終講				
担当講師 前田聡子 他				
科目目標 保健・医療・福祉に関する知見を広げ、専門職としての自らの考え方を深める。				
講義内容	<p>1. 自主選択活動（12時間）</p> <p>さまざまな団体、組織が運営、企画する講演会や学習会、またはボランティア活動などを選択したうえで参加し、レポートを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で参加する講演会や学習会、ボランティア活動などを検索し、選択する。 ・参加前に「参加計画書」*に所定の内容を記載し、担当教員の確認を受ける。 ・選択した活動に参加し、参加レポートを提出する。 <p>レポートは400字詰め横書き原稿用紙5枚以上、講演や活動等で配布された資料等、参加が証明されるものを必ず添付する。</p> <p>2. 規定講演（4時間）</p> <p>学校が指定した保健・医療・福祉に関する講演会に参加し、学びについてレポートを提出する。レポートは原則として学校指定用紙に記載する。</p>			
留意事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 開講時、学習内容・学習方法についてオリエンテーションする。 2) 「参加計画書」*は、開講時全員に配布する。 3) 規定講演の日時・講演内容は、決定しだい提示する。 4) 自主選択活動・規定講演のレポート提出場所・期日は別途指示する。 5) 講義内容が変更になる場合がある。 				
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・*「参加計画書」は、開講時に全員に配布する。 ・1と2の出席、課題レポートの内容を合わせて100点満点で評価する。 				

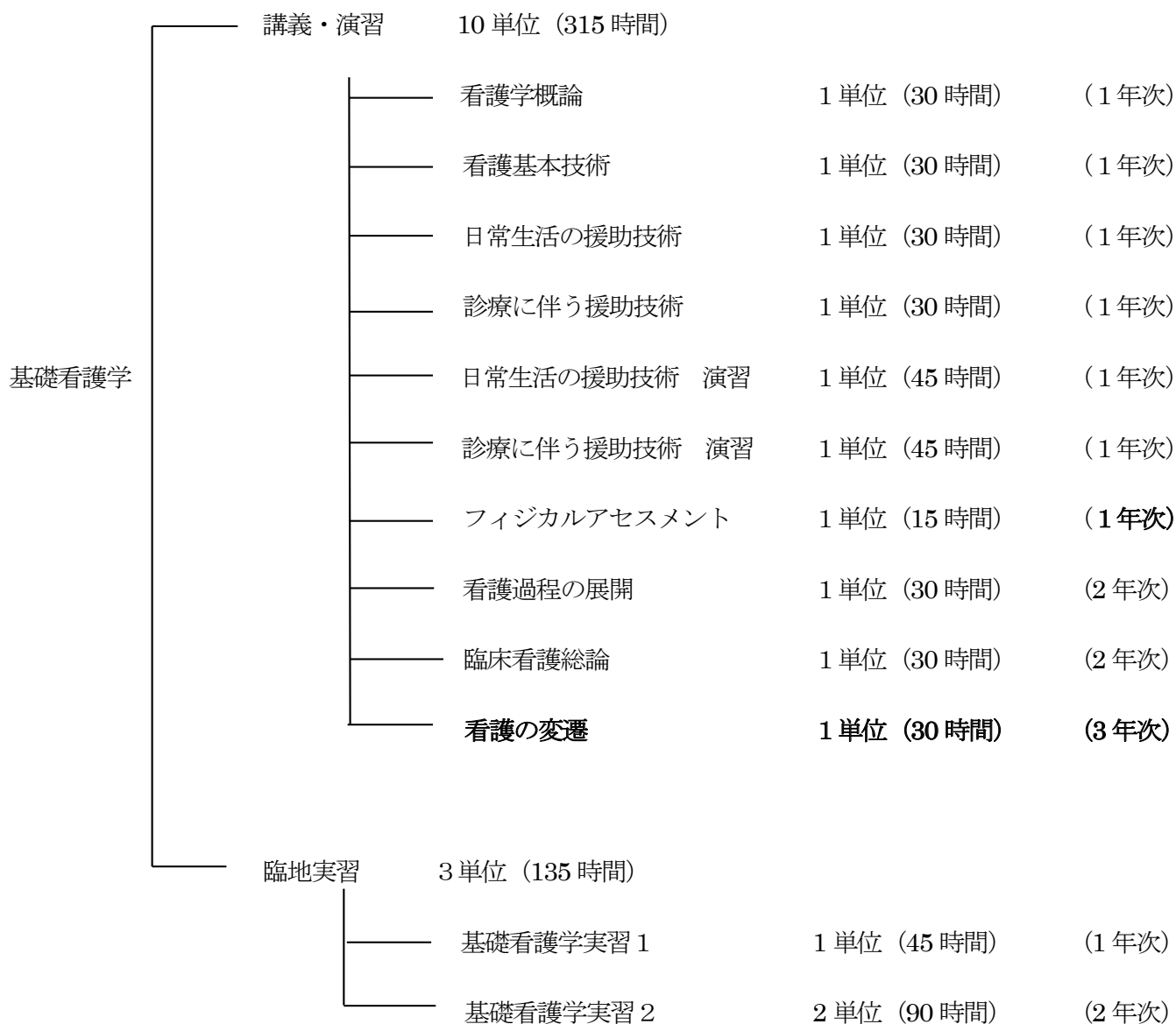
関係法規	単 位 数	1	時 間 数	15
3年次 10月開講～12月終講				
担当講師 前田聡子 宗像 雄				
科目目標 看護を中心とする関係法令を学び、看護師としての責任と義務について理解する。				
講義内容	<p>1. 看護法</p> <p>対象に安全で質の高い看護を提供するために、また、医療者としての責任を果たし、自らの立場を理解して行動するためにも、専門職として必要な法律、条令、規則などを理解し、それらを遵守する姿勢が期待される。</p> <p>この科目では、看護職の身分、業務などを規定した「保健師助産師看護師法」、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」、医療チームとして協働する医師を規定した「医師法」、医療全体にかかわる「医療法」など、様々な法律と、実際に起きている問題などを例に挙げながら学習する。これらの学習を通して、看護職の責務について各自が理解を深められるようにしたい。</p> <p>1) 法律の沿革</p> <p>2) 保健師助産師看護師法</p> <p> (1) 看護師の定義</p> <p> (2) 看護師免許</p> <p> (3) 国家試験</p> <p> (4) 看護師養成機関と学校</p> <p> (5) 看護師の業務と責任</p> <p>3) 看護師等の人材確保の促進に関する法律</p> <p>4) 医療法</p> <p>5) 医療関連資格法 など</p> <p>2. 医療過誤</p> <p>1) 看護師の法的責任</p> <p> (1) 看護師を取り巻く法的リスク</p> <p> (2) カルテ、看護記録の意義</p> <p> (3) 看護師の業務</p> <p> 「療養上の世話」と「診療の補助」</p> <p> (4) 患者の自己決定権と医療機関の説明の義務 ほか</p>			
使用テキスト 森山幹夫 編著 系統看護学講座 看護関係法令 医学書院 上泉和子他 編著 系統看護学講座 看護管理 医学書院 川村治子 編著 系統看護学講座 医療安全 医学書院 *必要時資料配布する。				
評価方法 12月筆記試験（100点満点）により評価する。				
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。				

基礎看護学

1. 目的 人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目標
- 1) 看護の対象である人間を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。
 - 2) 看護の歴史の変遷を理解し、専門職業人としての自覚を高める。
 - 3) 看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。
 - 4) 物事を科学的、論理的に見つめる考え方を養う。
 - 5) 対象に応じた援助技術を習得する。
 - 6) 対象に応じた看護過程の必要性を理解できる。

3. 構成



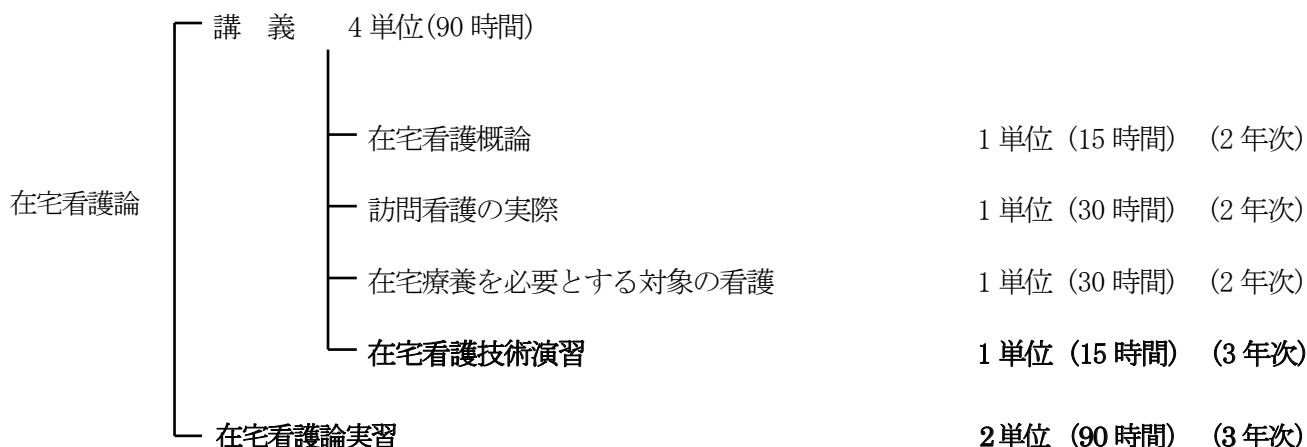
看護の変遷		単 位 数	1	時 間 数	30
3年次 4月開講～1月終講					
担当講師 蝦名總子 桶土井清美 他					
科目目標 看護の歴史の変遷や先人たちの看護を学ぶ。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	先人の看護理論を学び、看護観を深める。	【看護理論】 関心ある看護理論家の著作、関連資料を用いて討議および発表		
2～5	グループ ワーク				
6・7	講義	看護の歴史の変遷について理解できる。	【看護の変遷】 1) ナイチンゲール以前の医療・看護 2) 近代看護の芽生え ・ナイチンゲールの功績 ・近代看護の変遷 ・アメリカの看護・看護教育の変遷 ・日本の看護・看護教育の変遷 3) 昭和の戦後から平成・令和までの看護制度		
8～11	講義	慈恵における看護の歴史を学び、看護の本質について考える。	【慈恵における看護の歴史】 1) 慈恵史 2) 「看病の心得」平野 鏡 著 解説		
12～14	グループ ワーク		「看病の心得」平野 鏡 著 1) 抄読会 グループで選択した章について討議 2) 技術演習 討議内容の中から項目を選択して実施		
15	施設 見学	病に関する人間の偏見や差別が社会にもたらす影響、人間の尊厳の意義を理解し、看護のあり方を考える。	【国立療養所多磨全生園・ハンセン病資料館見学】 1) ハンセン病に関する講義 2) 施設見学		
使用テキスト 平野 鏡 著：看病の心得 インフォレスト 慈恵看護教育130年史編集委員会 編：慈恵看護教育百三十年史 フローレンス・ナイチンゲール 著：看護覚え書き—看護であること、看護でないこと— 現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン 著：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 野嶋佐由美 編：看護学の概念と理論 日本看護協会出版会 小林富美栄 著：現代の看護の探究者たち 人と思想 日本看護協会出版会 必要時、文献を配布・提示する。					
参考図書／ビデオ 金井一薫 著：ナイチンゲール看護論・入門—看護であるものとなないもの—を見分ける眼 現代社白鳳選書14 現代社 湯楨ます 監修 薄井坦子 他 訳：ナイチンゲール著作集 第一巻～第三巻 現代社 看護論シリーズ フローレンス・ナイチンゲール／科学的看護論／ヒルデガート・E・パブロー／ドロシア・E・オレム ビデオ・パック・ニッポン					
評価方法 出席、各レポートの内容、および12月終講試験で評価する。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

在宅看護論

1. 目的 地域で生活する人々と生活しながら療養する人々及びその家族を理解し、在宅看護における必要な知識・技術・態度を習得する。

2. 目標
- 1) 在宅看護の意義と役割について理解する。
 - 2) 在宅看護の対象を理解する。
 - 3) 在宅におけるケアシステムと看護活動について理解する。
 - 4) 在宅看護における必要な技術を習得する。
 - 5) 対象の社会資源の活用方法と関連機関・職種との連携・協働について理解する。
 - 6) 地域で生活している人々および療養している人と家族への看護を学ぶ

3. 構成



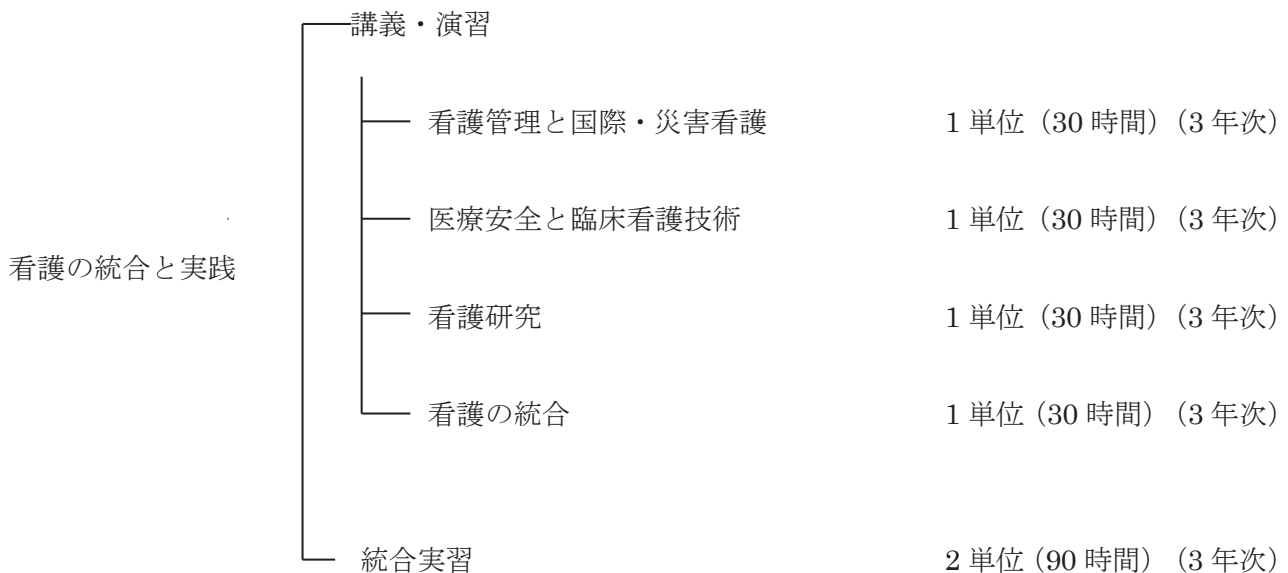
在宅看護技術演習		単 位 数	1	時 間 数	15
3年次 4月開講～4月終講					
担当講師 森 美由紀 千葉早希子					
科目目標 1. 地域における社会資源の実際を理解する。 2. 在宅療養者の看護過程の展開を通して在宅看護の特徴を理解する。 3. 訪問場面における必要な技術を理解する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～3	自己 学習	1. 居住地における社会資源の現状を知る	1. 在宅療養者に対する居住地域のサービス現状の調査 ・介護保険に基づくサービス ・各自自治体における高齢者福祉サービス ・在宅療養者のサービス利用に伴う諸経費など		
4～7	講義 演習	1. 在宅療養者と家族への看護が展開できる	1. 在宅看護における看護過程の展開 1) 看護過程展開の特徴と在宅看護の目指すもの 2. 看護過程の展開 1) 上位目標・中位目標に沿った下位目標の立案および利用しているサービス利用料の算出		
8	演習	1. 訪問看護に必要な基本的姿勢が理解できる 2. 訪問看護に必要な技術が理解できる	1. 訪問看護の技術 1) 訪問看護師の基本的姿勢・訪問時の必要物品 2) 訪問場面のロールプレイ 3) 実施後のグループワーク		
使用テキスト 特に指示しない。 参考図書 河原加代子他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院					
学習課題 別紙にて提示する。					
評価方法 課題内容、課題提出期限、グループワーク参加状況、出席で評価する。					
授業を受ける際の留意点 提出物の期限、規定を守ること。 介護保険、地域の社会資源に関するパンフレット・資料等必要と考えられるものを各自持参する。					
留意事項 遠隔授業または課題授業になる場合があります。 授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。					

看護の統合と実践

1. 目的 既習の学習を統合し看護の実践力を向上できるような知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目標
- 1) 看護のマネジメントの基礎的能力を習得する。
 - 2) より実践に即した技術を習得する。
 - 3) 質の高い安全な医療を提供できる能力を養う。
 - 4) 国際看護や災害看護の実情を知り専門職としての自覚を高める。
 - 5) 専門職業人として研究的姿勢と自己研鑽する姿勢を身に付ける。
 - 6) 看護の本質を探求し自己の看護観を深める。

3. 構成



看護管理と国際・災害看護		単 位 数	1	時 間 数	30
3年次 4月開講～12月終講					
担当講師 桶土井清美 他					
科目目標 1. 医療を支える質の高い看護サービスを提供するための看護管理の必要性を学ぶ。 2. 保健医療制度の中の看護制度について理解する。 3. 国際化が進む社会における看護のあり方について理解を深める。 4. 災害看護に関する基礎的理解を深める。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～4	講義	【看護管理】 1. 看護におけるマネジメントを理解する。 2. 看護サービス管理を構成する要素を理解する。 3. 保険医療の機能分化に伴う看護管理のあり方と他職種連携の重要性を理解する。 4. 医療情報の活用と管理方法を理解する。	1. 看護とマネジメント ・マネジメントとは ・看護におけるマネジメント ・組織経営と看護 2. 看護サービスの管理 1) 医療と看護の標準化と質保証 ・医療と看護の標準化 クリニカルパス ・病院機能評価 ・看護提供システム 重症度 看護必要度 ・看護業務基準、看護手順 ・看護業務管理、交替制勤務 ・看護サービスの質評価 3. 保険医療の機能分化と連携協働 ・看護独自の視点と他職種連携 ・病床機能評価と報告 ・継続看護と入退院調整 ・地域包括システムにおける看護の役割 4. 情報のマネジメント ・診療記録の電子化と医療情報の活用 ・個人情報の管理と診療情報公開		
5～7	講義	【看護管理】 1. 看護政策について理解する。 2. 看護制度を理解する。 3. 看護管理における倫理課題を理解する。	1. 政策とは ・政策過程とは ・看護政策の立案 ・政策実施における行政の役割 2. 看護制度とは ・看護制度を規定する法律 ・看護制度を理解するための視点 看護マンパワー確保と課題 看護教育制度、継続教育とキャリア 看護の対価と処遇 看護職の労働安全とリスク 3. 看護管理における倫理課題		
8～10	講義	【国際看護】 1. 看護と国際協力の必要性が理解できる。	1. グローバリゼーションの考え方 2. グローバリゼーションと看護 ・世界各地における健康問題とその現状		

看護管理と国際・災害看護

		<p>2. 多様な文化を考慮した看護について理解する。</p> <p>3. 国際看護活動の実際を理解する。</p>	<p>3. 国際看護活動を担う組織とその活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WHO（世界保健機関）における取り組み ・ ICN（国際看護師協会） ・ 政府開発援助（ODA） ・ 非営利組織（NPO） <p>4. 文化を考慮した看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多文化と異文化看護 ・ 在日外国人への看護 <p>5. 国際協力と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際看護活動の実際 <p>6. 国際看護活動の展望</p>
11～14	講義	<p>【災害看護】</p> <p>1. 災害・災害看護に関する基本的事項について理解する。</p>	<p>1. 災害とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害のさまざまな定義 2) 災害の種類 <p>2. 災害医療とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害医療と救急医療の違い 2) 災害サイクル各期と災害医療 3) 災害医療の3T 4) トリアージの目的と方法
	講義	<p>2. 災害看護の特殊性について理解する。</p>	<p>1. 災害看護の定義</p> <p>2. 災害看護の特徴</p> <p>3. 災害が人々の健康と生活に与える影響</p> <p>4. 災害時の看護の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害サイクルに応じた看護 2) 活動の場に応じた看護
	講義	<p>3. 被災者と救援者の心のケアについて学ぶ。</p>	<p>1. 被災者のストレスと心のケア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 被災者のストレス 2) 被災者のこころのケア <p>2. 援助者のストレスとその対応</p>
	講義	<p>4. 災害発生時の対応を学ぶ。</p> <p>5. 災害時における慈恵医大の役割を学ぶ。</p>	<p>1. 防災計画整備の必要性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「災害拠点病院」としての計画 2) 看護部としての計画 <p>2. 災害発生時の対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 被災状況の把握、在院患者の避難・誘導、被災患者収容体制の確立 2) 各部門への連絡と対応 看護体制の確立 3) 医療救護所への救護班の派遣
15	演習	<p>6. 災害時の救護活動に必要な技術を学ぶ。</p>	<p>港区総合防災訓練参加 避難生活での健康体操指導（DVT 予防）</p>

使用テキスト

上泉和子他：系統看護学講座 専門分野 看護管理 医学書院

竹下喜久子他：系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 医学書院

評価方法

12月に筆記試験（100点満点）を行う。

留意事項

遠隔授業または課題授業になる場合があります。

授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

医療安全と臨床看護技術		単 位 数	1	時 間 数	30
3年次 4月開講～12月終講					
担当講師 佐藤千恵子 他					
科目目標 1. 安全を意識した看護実践が行えるよう医療安全の基礎的理解を深める。 2. 臨床場面に応じた看護実践の能力を向上させる。 3. 看護技術の総合的な評価を行い、より実践能力を強化する。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1	講義	1. 医療安全の必要性を理解する。	1) 医療事故の概念 (1) 医療事故の概念 ①医療事故の現状とその要因 ・医療事故、アクシデント、医療過誤 インシデント、ヒヤリハット (2) 国の医療安全対策 ①医療安全推進の背景 ②医療機関における医療安全管理体制		
2	講義	2. 人間の行動とヒューマンエラーを理解する。	1) 人間の行動特性 (1) ヒューマンエラーとは (2) エラーと違反(不安全行動) (3) 不安全行動の防止対策 ①リスク知覚(感覚)を高める ②危険予知トレーニング(KYT) ③エラー防止対策(危険予知活動)		
3	講義	3. 看護業務の特性と医療事故の実態を理解する。	1) 看護業務の特性から見た医療事故 (1) 診療の補助業務に伴う医療事故 (2) 療養上の世話に伴う医療事故 (3) 業務の領域を超えて起こる医療事故 ①医療側者の要因 ②患者側要因 ③状況要因		
4	講義	4. 医療事故防止対策を理解する。	1) リスクマネジメント(医療安全管理) (1) リスクマネジメントとは (2) 組織における安全管理システムの構築 (3) 医療事故発生時の対策 2) 医療安全対策の展望 (1) 医療の質向上のための取り組み ①組織として ②医療に携わる者として		

医療安全と臨床看護技術

5～15	演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数事例の看護の優先度や安全に配慮した援助計画が立案できる。 2. 援助計画に沿い、アクシデントに対処しながら援助が実施できる。 3. 援助の振り返り、安全への配慮、対処行動・技術について検討する。 4. 医療安全の視点から自己の課題を見出す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 複数事例の援助について各グループで討議し決定する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 複数事例の看護内容・方法・優先度を検討する。 <ol style="list-style-type: none"> ①複数事例の援助計画を立案する。 ②援助中予測される問題の明確化を図る。 ③実施上の留意点を挙げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・患者の安全への配慮 ・メンバー間の協力、調整 など ④複数事例の看護の優先度を判断する。 2) 看護師、患者役、観察者役を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①患者・観察者の役割を把握する。 ②看護師同士、援助内容・留意点について打ち合わせを行う。 3) 医療安全の視点から実施内容を振り返る。 <ol style="list-style-type: none"> ①患者・看護師・観察者の立場から援助計画・実施内容を検討する。 ②グループ毎に振り返りの内容をまとめる。 ③グループ毎にまとめた内容を発表し、学びを共有する。 4) 振り返った内容を活かし、医療安全の視点から自己の課題を明確にする。
------	----	--	---

使用テキスト

川村治子 著 : 系統看護学講座 専門分野 医療安全 医学書院

評価方法

授業の出席・演習の事前の課題提出状況と演習の参加度・演習実施後のレポートで総合的に評価する。

留意事項

遠隔授業または課題授業になる場合があります。
授業方法の変更により評価方法が変更となる場合があります。

看護研究			単 位 数	1	時 間 数	30
3年次 4月開講～11月終講						
担当講師 齊藤真梨恵 他						
科目目標 1. 看護研究の意義および研究のプロセスを理解する。 2. 事例研究の実際を通し研究の実際を学ぶ。 3. 研究的態度を身につける。						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1	講義	研究的思考について理解する。 看護研究とは何かがわかる。 研究の意義と目的が理解できる。	1. 研究とは 2. 看護領域における研究 1) 看護研究とは 2) 看護研究の意義と目的			
2	講義	研究のプロセスがわかる。	3. 研究の構成要素とプロセス 1) 研究論文の種類 2) 研究論文の構成要素 3) 研究のプロセス			
3	講義	研究の方法を理解する。	4. 研究の方法 1) 研究のアプローチ法 2) 研究の種類 3) データの種類と収集の方法 4) 量的研究・質的研究			
4	講義	研究疑問を明確にする必要性がわかる。 問題を明確化するための視点がわかる。	5. 研究テーマの設定 1) 問題の意識化 2) 問題の明確化 3) 問題の客観化 4) 問題の一般化 5) エピソード記述			
5	講義	文献検索の意義と方法を理解する。 文献の読み方を理解する。	6. 文献検索と文献購読 1) 文献とは 2) 文献検索の意義 3) 文献の種類 4) 文献検索の方法 5) 文献の読み方（クリティーク） 6) 文献整理の方法			
6	講義	研究計画書作成の意義がわかる。 研究における倫理的配慮の必要が理解できる。	7. 研究計画書作成の意義と要点 1) 研究計画書の意義 2) 研究計画書の記載事項 8. 看護研究における倫理 1) 研究において擁護されるべき権利 2) 検討考慮される項目 3) 倫理的配慮の記載例			
7	講義	事例研究の目的・特徴を理解する。 事例研究の構成を理解する。	9. 事例研究とは 1) 研究方法の一つとしての事例研究 2) 事例研究の構成 10. 研究における発表の意義と実際 1) 発表・共有の場 2) 発表の種類 3) 発表の準備 4) 発表の実際			
8～14	演習	事例研究論文が作成できる	詳細は別紙を配布する			
15	発表	事例研究論文を発表できる				
使用テキスト 李 節子著 看護研究ころえ帳 医師薬出版 高谷 修著 看護学生のためのレポート・論文の書き方 金芳堂						
評価方法 事例研究論文の作成プロセス、出席、論文の内容、発表で評価する。						
留意事項 授業に出席し、指導確認を受けながら論文を作成すること。 研究対象は、領域別実習において履修した事例とする。						

看護の統合		単 位 数	1	時 間 数	30
3年次 4月開講～2月終講					
担当講師 桶土井清美 他					
科目目標 1. 看護におけるケアの意味の理解を深める。 2. 自己のケアに対する考え方を深める。 3. 自己の看護観を明らかにする。					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
1～4	演習 個別 学習	【ケアの本質】 ・指定図書「ケアの本質」を読み、内容の要約・感想をまとめることができる。 ・領域別学習で考えたことや学んだことを振り返ることができる	1. 「ケアの本質」の本文の意味を理解し要点をノートにまとめる。 「ケアの本質」の内容に照らして実習場面を振り返り、感想や考えたことを所定のノートに記載し提出する。 期日は別に提示する。 2. 指導を受けた内容について考えを深める。 ノートには随時感想・意見を追記する。 グループワークで深めたい内容をノートに記載する。		
5～11	演習 学外 GW 発表	【ケアの本質】 ・援助のプロセスを振り返り、「ケアの本質」を考えることができる。 ・グループワークを通して他者の意見を聞き、自分の意見を述べるができる。 ・「ケアの本質」についてグループで発表できる。 ・「ケアの本質」について自分の意見をまとめることができる。	1. グループワークのテーマをグループごとに決定する。 2. 学外セミナー 「ケアの本質」について臨地実習での体験を通してグループで話し合う。 3. グループで話し合った内容についてまとめ、発表、意見交換する。 4. ケアの本質について自己の考え、学びをまとめる。 A4サイズ 400字詰め横書き縦並列原稿用紙 1000字以上、1200字以内 指定期日に提出		
12～15	演習 個別 学習 発表	【看護観】 ・3年間の看護の学びを振り返り、自己の看護観を明らかにする。 ・「私の看護観」を発表することができる。	1. 自己の3年間の学びを整理する。 1) 看護観の作成に当たり必要な文献の検索 2) 看護観のレポートの作成 3) 発表原稿の作成 4) 看護観の発表		
使用テキスト ミルトン・メイヤロフ著 田村 真 他訳：ケアの本質 生きることの意味 ゆみる出版					
評価方法 課題内容・提出状況、グループワーク参加度、レポート内容・提出状況等により総合的に評価する。					
学習上の留意点 「ケアの本質」は、「3年時の領域別実習10単位以上の出席」が履修要件となる。 「私の看護観」は、「統合実習の出席」が履修要件となる。					

臨地実習

基礎看護学実習 1	単 位 数	1	時 間 数	45
1 年次 6 月～11 月開講				
<p>目的 看護実践の基礎となる基礎看護技術を習得する。</p> <p>【看護見学実習】 目標 1. 看護師がどのようなことをしているかを知る。 2. 患者がどのような入院生活を送っているかを知る。</p> <p>【基礎看護学実習 1】 目標 1. 患者の生活過程を観察する。 2. 基礎的な日常生活援助技術を実施する。 3. 看護者としての基本的姿勢を身につける。 4. 患者の生活・診療を支援する施設を知る。</p> <p>*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照</p>				
<p>参考図書 高谷修著 看護学生のためのレポート・論文の書き方 金芳堂</p>				
<p>学習上の留意点 この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。 看護学概論、看護基本技術、日常生活の援助技術、日常生活の援助技術演習（実技）</p>				
<p>留意事項 実習方法・評価方法が変更となる場合があります。</p>				

基礎看護学実習 2

単
位
数

2

時
間
数

90

1年次 6月～11月開講

目的

看護実践の基礎となる基礎看護技術を習得する。

目標

1. よい人間関係が成立するためのコミュニケーションを図ることができる。
2. 健康障害をもつ対象の生活過程について観察できる。
3. 得られた情報を分析し、看護の必要性を決定できる。
4. 対象のもつ問題を解決に導くための援助の方法を考える。
5. 対象の反応を確認しながら必要な援助を実施する。
6. 実施した援助を評価・修正する。
7. 医療チームの一員であることを自覚し責任を持った行動をとることができる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習 1、診療に伴う援助技術、診療に伴う援助技術演習（実技）、
フィジカルアセスメント、看護過程の展開

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

成人看護学実習 1

単
位
数

3

時
間
数

135

2年次 1月～3月 開講

目的

成人期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護の実践ができる。

目標

1. 成人期にある対象を総合的に理解することができる。
 - 1) 患者の発達段階と発達課題がわかる。
 - 2) 患者の発達段階をふまえ、身体的・精神的・社会的側面が理解できる。
2. 成人期にある対象の看護の必要性を決定することができる。
 - 1) 患者の身体諸機能の変化・生活習慣・社会背景が健康に及ぼす影響が理解できる。
 - 2) 患者の疾患・治療・入院が身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響が理解できる。
3. 成人期にある対象の健康状態に応じた援助が実施・評価できる。
 - 1) 患者の疾患・治療・入院に伴う心身の変化に合わせた援助が実施できる。
 - 2) 患者の価値観・社会背景・生活習慣を考慮した援助が実施できる。
 - 3) 患者の意思決定を支える援助が実施できる。
 - 4) 社会生活の適応を促す援助が実施できる。
 - 5) 家族への支援が実施できる。
4. 対象をとりまく他職種との連携の必要性がわかる。
 - 1) 患者に必要な社会資源を考えることができる。
 - 2) 他職種との連絡調整方法を知る。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、臨床看護総論、成人看護学概論、急性期看護、周手術期看護、慢性期看護、リハビリテーション看護

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

老年看護学実習 1

単
位
数

2

時
間
数

90

2年次 1月～3月開講

目的

老年期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できる。

目標

1. 老年期にある対象の特徴が理解できる。
 - 1) 患者の加齢による身体的・精神的・社会的変化がわかる。
 - 2) 家族および支える人々について知る。
2. 老年期にある対象の看護の必要性を決定することができる。
 - 1) 生活背景・生活習慣が健康に及ぼす影響がわかる。
 - 2) 加齢と健康障害が健康に及ぼす影響がわかる。
 - 3) 治療や検査が健康に及ぼす影響がわかる。
3. 老年期にある対象の健康状態に応じた援助が実施・評価できる。
 - 1) 患者の健康状態に応じた援助ができる。
 - 2) 患者の自立を目指した援助ができる。
 - 3) 患者の安全に留意した援助ができる。
 - 4) 家族および支える人々に行われている援助を知る。
 - 5) 実施した援助を評価できる。
4. 対象をとりまく他職種との連携の必要性がわかる。
 - 1) 対象に必要な社会資源を考えることができる。
 - 2) 他職種との連絡調整方法を知る。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、臨床看護総論、老年看護学概論、老年者の健康を支える看護、健康障害のある老年者の看護

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

小児看護学実習

単
位
数

2

時
間
数

90

2年次 11月～3月・3年次 5月～9月 開講

目的

小児期にある対象の特徴を理解し、対象の成長発達を促すとともに、健康障害のある子どもとその家族への看護ができる。

【保育園実習】

目標

1. 健康な乳幼児の成長発達の段階をとらえることができる。
2. 乳幼児の安全を守るための、保育環境を理解することができる。
3. 乳幼児の生活において、年齢に応じた遊びの内容を観察できる。
4. 乳幼児の個々にあった日常生活を整える保育を行うことができる。
5. 乳幼児の健康を守るための保育を理解することができる。
6. 家族とどのように連携をとりながら、乳幼児の保育をすすめているかを理解することができる。

【病棟実習】

目標

1. 健康を障害された子どもの特徴が理解できる。
2. 健康を障害された子どもの健康を回復するための援助ができる。
3. 健康を障害された子どもをもつ家族への援助ができる。
4. 健康を障害された子どもと、家族を支える保健・医療・福祉の連携について知り、看護の役割を理解できる。

* 実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

保育園実習の受講にあたっては以下の科目の履修が要件となる。

小児看護学概論、基礎看護学実習2

病棟実習の受講にあたっては、保育園実習出席及び以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、臨床看護総論、小児看護学概論、小児の疾患と治療、健康障害をもつ子どもと家族の看護、小児看護技術演習

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

精神看護学実習

単
位
数

2

時
間
数

90

2年次 1月～3月・3年次 5月～9月開講

目的

精神障害のある対象を理解し、対象の状態に応じた看護実践を学ぶ。

目標

1. 精神障害のある対象が理解できる。
 - 1) 対象と関わることができる。
 - 2) 対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。
2. 精神障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、生活を整える援助ができる。
 - 1) 対象の精神障害と現れている症状を関連づけて理解できる。
 - 2) 対象が受けている治療について、症状と関連づけて理解できる。
 - 3) 対象に現れている症状が日常生活に及ぼす影響がわかる。
 - 4) 対象の生活行動の意味を考え、日常生活を整えることができる。
3. 対象との関わりを通して、患者—看護師関係の理解を深めることができる。
 - 1) 看護者のとる態度が対象に及ぼす影響を理解できる。
 - 2) 対象との関わりを通して自己を振り返り、看護者としての自己理解を深める。
4. 精神医療の現状と看護の役割が理解できる。
 - 1) 対象の安全を守るための病室環境の調整や病棟管理のあり方がわかる。
 - 2) 対象の社会復帰における看護師の役割を考えることができる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、臨床看護総論、精神看護学概論、精神疾患と治療、精神障害のある対象の看護、精神看護技術演習

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

母性看護学実習

単
位
数

2

時
間
数

90

2年次 1月～3月・3年次 5月～9月開講

目的

周産期にある母性の特徴および新生児の特徴を理解し、母性および新生児に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う。

目標

1. 妊娠各期の経過を理解し、妊婦に必要な援助を学ぶ。
 - 1) 妊娠によって生じる生理的な経過と精神的・社会的特徴を理解する。
 - 2) 妊娠期の基本的な援助を理解する。
 - 3) 妊婦に必要な保健指導の実際を理解する。
2. 分娩の経過を理解し、産婦に必要な援助を学ぶ。
 - 1) 分娩の進行に伴う産婦の生理的な経過と精神的・社会的状態の変化を理解する。
 - 2) 安全・安楽な出産に導くための産婦とその家族への援助を理解する。
 - 3) 産婦やその家族とのコミュニケーションを通して生命の尊さを考えることができる。
3. 産褥の経過を理解し、褥婦に必要な援助を学ぶ。
 - 1) 褥婦の生理的変化と精神的・社会的特徴について理解する。
 - 2) 褥婦の健康生活の維持と健康回復への援助ができる。
4. 新生児の生理的特徴を理解し、母体外生活への適応についての援助を学ぶ。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、臨床看護総論、母性看護学概論、ライフサイクル各期の看護、妊婦・産婦の看護、褥婦・新生児の看護

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

成人看護学実習 2

単
位
数

3

時
間
数

135

3年次 5月～9月 開講

目的

成人期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できる。

目標

1. 成人期にある対象を総合的に理解することができる。
 - 1) 対象の発達段階と発達課題が理解できる。
 - 2) 対象の発達段階をふまえ、身体的・精神・社会的側面が理解できる。

2. さまざまな健康の段階にある対象の看護が実施できる。

【周手術期にある対象の看護】

- 1) 周手術期にある対象が理解できる。
 - (1) 麻酔や手術侵襲が全身に及ぼす影響を理解し、身体的側面が理解できる。
 - (2) 手術を受ける対象の心理的・社会的側面が日常生活に及ぼす影響を理解できる。
- 2) 周手術期の段階に応じた援助が実施できる。
 - (1) 手術に向けて心身の状態を整えるための援助が実施できる。
 - (2) 入室時の援助ができる。
 - (3) 手術中（麻酔導入時から覚醒まで）の援助ができる。
 - (4) 術後の回復を促すための援助が実施できる。
- 3) 家族の支援ができる。

【急性期にある対象の看護】

- 1) 急性期にある対象が理解できる。
 - (1) 急激な生体機能の変化による全身への影響が理解できる。
 - (2) 急激な生体機能の変化をきたした対象の心理的・社会的側面が理解できる。
- 2) 急激に変化する病態や病状に応じた援助が実施できる。
 - (1) 生命の維持・回復のための援助が実施できる。
 - (2) 合併症予防のための援助が実施できる。
 - (3) 苦痛を緩和するための援助が実施できる。
 - (4) 不安を緩和するための援助が実施できる。
 - (5) 日常生活を整えるための援助が実施できる。
 - (6) 家族への支援ができる。

3. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、責任ある行動がとれる。

- 1) 医療チームにおける看護の役割を理解し、連携を図ることができる。
- 2) 保健医療福祉の連携を図るための看護の役割が理解できる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、麻酔と手術療法、臨床看護総論、成人看護学概論、急性期看護、周手術期看護、慢性期看護、リハビリテーション看護、緩和・終末期看護

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

老年看護学実習 2

単
位
数

2

時
間
数

90

3年次 5月～9月開講

目的

老年期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できる。

目標

1. 老年期にある対象の特徴が理解できる。
 - 1) 患者の加齢による身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
 - 2) 家族および支える人々の問題が理解できる。

2. さまざまな健康の段階にある対象の看護が実施できる。

【慢性に経過する健康障害のある対象の看護】

- 1) 慢性に経過する対象の特徴が理解できる。
 - (1) 患者の健康障害の種類・段階・症状・治療が理解できる。
 - (2) 患者の生活背景、生活習慣と健康障害の関連が理解できる。
 - (3) 患者が健康障害についてどのように理解し、受け止めているか知る。
- 2) 病状の維持・回復を目指してセルフケア能力を高める援助が実施できる。
 - (1) 病態や症状の変化に応じた援助ができる。
 - (2) 患者教育が実施できる。
 - (3) 家族の理解および協力が得られるよう援助ができる。
- 3) セルフケアを継続するための援助が実施できる。
 - (1) セルフモニタリングが実施できるよう援助できる。
 - (2) セルフヘルプグループを活用するための援助ができる。

【リハビリテーションを必要とする対象の看護】

- 1) リハビリテーションを必要とする対象の特徴が理解できる。
 - (1) 患者の身体的特徴が理解できる。
 - (2) 患者・家族の心理的・社会的特徴が理解できる。
- 2) 日常生活行動の自立を目指した援助が実施できる。
 - (1) 機能障害に伴う日常生活の変化に応じた援助ができる。
 - (2) 機能障害の回復のための援助ができる。
 - (3) ADLの再獲得のための訓練や援助ができる。
 - (4) 廃用症候群予防のための援助ができる。
 - (5) 事故防止のための援助ができる。
- 3) 患者と家族の障害受容のための支援ができる。
 - (1) 障害受容の段階に応じた援助ができる。

【終末期にある対象の看護】

- 1) 終末期にある対象の特徴が理解できる。
 - (1) 患者の身体的特徴が理解できる。
 - (2) 患者の苦痛を身体的・精神的・社会的・霊的（spiritual）な側面から理解できる。
 - (3) 患者を取り巻く家族の状況を知る。
 - 2) 疼痛・苦痛・不安の緩和にむけた援助が実施できる。
 - (1) 日常生活の援助ができる。
 - (2) 疼痛緩和の援助ができる。
 - (3) 精神的苦痛の緩和への援助ができる。
 - 3) 対象のQOLを考慮した援助が実施できる。
 - (1) 患者や家族が望んでいることを知る。
 - (2) 患者と家族の希望に沿った援助ができる。
 - (3) 家族への援助が実施できる。
 - 4) 人間の生命の尊厳と自己の死生観について考える。
 - (1) 対象と向き合う自己の態度について客観的に振り返ることができる。
 - (2) 人の生と死について考える。
3. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、責任ある行動がとれる。
- 1) 医療チームにおける看護の役割を理解し、連携を図ることができる。
 - 2) 保健医療福祉の連携を図るための看護の役割を理解できる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、麻酔と手術療法、臨床看護総論、老年看護学概論、老年者の健康を支える看護、健康障害のある老年者の看護、長期に療養する老年者の看護

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

在宅看護論実習	単 位 数	2	時 間 数	90
3年次 5月～9月 開講				
<p>目的 地域で生活している人々及び療養している人と家族への看護を学ぶ。</p> <p>【介護老人保健施設実習】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設で生活している対象を理解する。 2. 施設で生活している対象の自立に向けた援助を理解する。 3. 施設における保健・医療・福祉のチームメンバーの役割と連携の必要性を理解する。 4. 高齢者在宅サービスの目的と事業の実際を理解する。 <p>【訪問看護ステーション実習】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している人とその家族・介護者を理解する。 2. 在宅で療養している人とその家族・介護者が療養生活を継続するための援助に参加できる。 3. 訪問対象の社会資源の活用状況や関係諸機関との連携について理解する。 <p>【外来看護実習】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外来通院をしながら生活している対象の背景を知る。 2. 外来部門における継続看護の実際を知る。 3. 外来看護における看護師の役割を知る。 <p>【地域包括支援実習】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括支援センターの介護予防事業、総合相談、支援事業等の概要を知る。 2. 地域包括支援ケアシステムと医療機関、および職種間の連携について知る。 <p>*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照</p>				
<p>学習上の留意点</p> <p>この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。 基礎看護学実習2、臨床看護総論、在宅看護概論、訪問看護の実際、在宅療養を必要とする対象の看護、在宅看護技術演習</p>				
<p>留意事項</p> <p>実習方法・評価方法が変更となる場合があります。</p>				

統合実習 (看護の統合と実践)	単 位 数	2	時 間 数	90
3年次 11月 開講				
<p>目的 既習の学習を統合し、看護の実践力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の対象の援助を優先度と時間管理を考慮して実施できる。 2. 患者の24時間の療養生活を支える看護の実際について理解できる。 3. 看護管理の実際が理解できる。 4. 様々な対象の状況にあわせた看護技術を習得できる。 5. 既習の学習を振り返り、自己の課題を明確にする。 <p>*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照</p>				
<p>学習上の留意点</p> <p>この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。 成人看護学実習1、成人看護学実習2、老年看護学実習1、老年看護学実習2、精神看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、在宅看護論実習</p>				
<p>留意事項</p> <p>実習方法・評価方法が変更となる場合があります。</p>				

公益社団法人 東京慈恵会
慈 恵 看 護 専 門 学 校

〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号
TEL 03-5400-1284 FAX 03-5400-1220
